

平成 26 年 度

シ ラ バ ス

6 年 次

歯科医学総合講義 6



日本大学松戸歯学部

平成26年度 歯科医学総合講義6

目 次

一般目標・講義・試験実施要項等	1
オーガナイザー覧	2
試験日程・領域別出題数表	3
講義日程表	4
各講義シラバス	9

歯科医師国家試験 出題基準 平成26年版

平成25年度 必修領域 英単語集（科目別）

平成 26 年度 歯科医学総合講義 6

一般目標 (General Instructional Objective) :

より良き歯科医師, 歯学研究者となるために, 基礎歯科医学および歯科臨床的諸問題に対応できる知識・態度を修得する。

歯科医学総合講義 6 の講義および試験実施要項

1. 講義 : 400 教室
2. 試験 : 400 教室, 401 教室
3. 講義は平成 26 年度版歯科医師国家試験出題基準に順じて以下の 8 つのユニットに分割する。
ユニット 1 (総論) : 歯科医学総論 (総論 I ~ XI)
ユニット 2 (各論) : 歯科疾患の予防・管理 (各論 I) 成長発育に関連した疾患・病態 (各論 II)
歯・歯髄・歯周組織疾患 (各論 III), 高齢者の歯科診療 (各論 VI)
ユニット 3 (各論) : 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害
(各論 V), 高齢者の歯科診療 (各論 VI)
ユニット 4 (各論) : 顎・口腔領域の疾患 (各論 IV), 高齢者の歯科診療 (各論 VI)
ユニット 5 (臨床実地) : 成長発育に関連した疾患・病態 (各論 II)
歯・歯髄・歯周組織疾患 (各論 III), 高齢者の歯科診療 (各論 VI)
ユニット 6 (臨床実地) : 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害
(各論 V), 高齢者の歯科診療 (各論 VI)
ユニット 7 (臨床実地) : 顎・口腔領域の疾患 (各論 IV), 高齢者の歯科診療 (各論 VI)
ユニット 8 (必修) : 必修の基本的事項 1 ~ 17
4. ユニット終了後に実施する平常試験について。
・講義ユニット終了毎 (ユニット 1 では 3 回) に計 10 回実施する。試験問題は新規問題と総合試験改編過去問題とする。授業の内容のみでないことに注意すること。なお、平常試験の追・再試験は行わない。
・各ユニットの平常試験における出題数の内訳は試験日程, 領域別出題数表 (p. 3) を参照すること。
5. 総合試験 (定期試験)
・全ユニット終了後, 歯科医師国家試験に準じたオリジナル問題中心の総合試験 6 を行う。総問題数は 600 問とし, 領域別出題割合は, 歯科医師国家試験出題基準のブループリントに準ずる (巻末の平成 26 年度版歯科医師国家試験出題基準参照)。
・日程は試験日程表 (p. 3) で確認すること。
6. 歯科医学総合講義 6 の合格基準は以下の通りである。
各領域の正答率が必修 85%以上, 領域 A, 領域 B および領域 C がそれぞれ 70%以上のすべてを満たす者を合格者とする。

歯科医学総合講義 6 の追・再試験実施要項

1. 追試験 : 総合試験を病気など正当な理由で欠席し, 追試験の手続きをした者に行う。
2. 再試験 : 総合試験で不合格となった者を再試験該当者とし, 再試験の手続きをした者に行う。
3. 追試験および再試験は同時に行う。実施日程は試験日程表 (p. 3) で確認すること。
4. 追・再試験は総問題数 200 問とし, 領域別出題割合は, 歯科医師国家試験出題基準のブループリント準じて行う。
5. 歯科医学総合講義 6 の追・再試験の合格基準は以下の通りである。
 - 1) 各領域の正答率が必修 85%以上, 領域 A, 領域 B および領域 C がそれぞれ 70%以上のすべてを満たす者を合格者とする。
 - 2) 再試験該当者については, 総合試験および平常試験結果を合格判定に考慮することができる。

歯科医学総合講義6 オーガナイザー

ユニット	役 割	所 属 ・ 資 格	氏 名
統 括	チーフオーガナイザー	保存修復学・准教授	平 山 聡 司
	サブチーフオーガナイザー	顎口腔機能治療学・准教授	小見山 道
ユニット1	チーフオーガナイザー	公衆予防歯科学・准教授	後藤田 宏也
	オーガナイザー	生理学・准教授	加 藤 治
		口腔病理学・准教授	宇都宮 忠彦
		口腔免疫学・准教授	落 合 智 子
		生化学・分子生物学・准教授	平 塚 浩 一
		歯科生体材料学・准教授	谷 本 安 浩
		歯科総合診療学・准教授	多 田 充 裕
		解剖学Ⅱ・准教授	岡 田 裕 之
		口腔微生物学・専任講師	栗 原 紀 子
		口腔微生物学・専任講師	續 橋 治
		薬理学・専任講師	松 本 裕 子
		解剖学Ⅰ・専任講師	松 野 昌 展
		公衆予防歯科学・専任講師	有 川 量 崇
		歯科麻酔学・助手（専任扱）	岡 部 靖 子
ユニット2	チーフオーガナイザー	小児歯科学・教授	清 水 武 彦
	オーガナイザー	歯内療法学・教授	松 島 潔
		障害者歯科学・准教授	野 本 たかと
		公衆予防歯科学・専任講師	有 川 量 崇
		歯科矯正学・専任講師	五 関 たけみ
		保存修復学・専任講師	岡 田 珠 美
		歯周治療学・助教	高 井 英 樹
ユニット3	チーフオーガナイザー	有床義歯補綴学・専任講師	木 本 統
	オーガナイザー	顎口腔機能治療学・准教授	小見山 道
		有床義歯補綴学・准教授	飯 島 守 雄
		クラウンブリッジ補綴学・准教授	小 林 平
		クラウンブリッジ補綴学・講師（専任扱）	田 中 孝 明
		口腔インプラント学・准教授	村 上 洋
ユニット4	チーフオーガナイザー	歯科麻酔学・助教	下 坂 典 立
	オーガナイザー	口腔外科学・専任講師	西 村 均
		放射線学・専任講師	小 椋 一 朗
		顎顔面外科学・助教	青 木 暁 宣
		歯科臨床検査医学・助教	市 村 真 奈
ユニット5	チーフオーガナイザー	歯科矯正学・専任講師	五 関 たけみ
	オーガナイザー	歯内療法学・教授	松 島 潔
		小児歯科学・助教	岡 本 京
		歯周治療学・助教	高 井 英 樹
		保存修復学・助手（専任扱）	岩 井 啓 寿
ユニット6	チーフオーガナイザー	有床義歯補綴学・准教授	飯 島 守 雄
	オーガナイザー	顎口腔機能治療学・准教授	小見山 道
		有床義歯補綴学・専任講師	木 本 統
		口腔インプラント学・准教授	村 上 洋
		クラウンブリッジ補綴学・講師（専任扱）	田 中 孝 明
ユニット7	チーフオーガナイザー	口腔外科学・専任講師	西 村 均
	オーガナイザー	口腔病理学・准教授	宇都宮 忠彦
		放射線学・専任講師	小 椋 一 朗
		歯科臨床検査医学・助教	市 村 真 奈
		顎顔面外科学・助教	青 木 暁 宣
		歯科麻酔学・助教	下 坂 典 立
ユニット8	チーフオーガナイザー	口腔病理学・准教授	宇都宮 忠彦

歯科医学総合講義 6 試験日程、領域別出題数表

ユ ニ ッ ト	試験区分	試験日時	必修	一般	臨実
1. <領域 A: 総論> ☆歯科医学総論 I～XI	平常試験 1-①	7/12(土) 10:00～11:25	28	56	
	平常試験 1-②	7/23(水) 10:00～11:10	25	63	
	平常試験 1-③	8/22(金) 10:00～11:50	36	72	
2. <領域 B: 各論> ☆歯科疾患の予防・管理 ☆成長発育に関連した疾患・病態 ☆歯・歯髄・歯周組織疾患 ☆高齢者の歯科診療	平常試験 2	9/1(月) 10:00～11:00	19	38	
3. <領域 C: 各論> ☆歯質・歯・顎顔面欠損による障害 とその他の口腔・顎顔面の機能障害 ☆高齢者の歯科診療	平常試験 3	9/9(火) 10:00～11:00	20	40	
4. <領域 C: 各論> ☆顎・口腔領域の疾患 ☆高齢者の歯科診療	平常試験 4	9/22(月) 10:00～11:30	29	58	
5. <領域 B: 臨床実地> ☆歯科疾患の予防・管理 ☆成長発育に関連した疾患・病態 ☆歯・歯髄・歯周組織疾患 ☆高齢者の歯科診療	平常試験 5	10/2(木) 10:00～11:05			32
6. <領域 C: 臨床実地> ☆歯質・歯・顎顔面欠損による障害 とその他の口腔・顎顔面の機能障害 ☆高齢者の歯科診療	平常試験 6	10/14(火) 10:00～11:35			46
7. <領域 C: 臨床実地> ☆顎・口腔領域の疾患 ☆高齢者の歯科診療	平常試験 7	10/24(金) 10:00～11:30			44
8. <必修> ☆歯科基礎医学の基本事項	平常試験 8	11/10(月) 10:00～12:15	135		
総合試験 I・II	第 1 回 総合試験 I-1	11/25(火) 10:00～12:30	40	108	
	第 1 回 総合試験 I-2	11/25(火) 13:30～15:45			52
	第 2 回 総合試験 II-1	12/15(月) 10:00～12:30	40	108	
	第 2 回 総合試験 II-2	12/15(月) 13:30～15:45			52
	第 2 回 総合試験 II-3	12/16(火) 10:00～12:30	40	107	
	第 2 回 総合試験 II-4	12/16(火) 13:30～15:45			53
総合試験 III (追・再試験)	追・再試験-1	1/6(火) 10:00～12:10	40	107	
	追・再試験-2	1/6(火) 13:30～15:45			53

平成26年度 6年次 歯科医学総合講義 6 日程表

月 日	曜	9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50	14:00～14:50	備 考
7月1日	火	領域A 近藤信太郎	領域A 近藤信太郎	領域A 近藤信太郎	領域A 落合智子	領域A 落合智子	
7月2日	水	領域A 岡田裕之	領域A 岡田裕之	領域A 岡田裕之	領域A 栗原紀子	領域A 栗原紀子	
7月3日	木	領域A 平塚浩一	領域A 平塚浩一	領域A 平塚浩一	領域A 平塚浩一	領域A 平塚浩一	
7月4日	金	領域A 吉垣純子	領域A 吉垣純子	領域A 吉垣純子	領域A 吉垣純子	領域A 吉垣純子	
7月5日	土	領域A 宇都宮忠彦	領域A 宇都宮忠彦	領域A 宇都宮忠彦	領域A 宇都宮忠彦	領域A 宇都宮忠彦	
7月6日	日						
7月7日	月	領域A 西山典宏	領域A 西山典宏	領域A 谷本安浩	領域A 谷本安浩	領域A 谷本安浩	
7月8日	火	領域A 三枝 慎	領域A 三枝 慎	領域A 松本裕子	領域A 松本裕子	領域A 松本裕子	
7月9日	水						
7月10日	木						
7月11日	金						
7月12日	土		平常試験1-① (10:00～11:25)		解説講義 (13:00～)		
7月13日	日						
7月14日	月	領域A (高齢者) 川良美佐雄	領域A (高齢者) 川良美佐雄	領域A (高齢者) 有川量崇	領域A 有川量崇		
7月15日	火	領域A (高齢者) 野本たかと	領域A 野本たかと	領域A 多田充裕	領域A 市村真奈		
7月16日	水	領域A 小椋一朗	領域A 小椋一朗	領域A 小椋一朗	領域A 小椋一朗	領域A 小椋一朗	
7月17日	木	領域A 福井謙二	領域A 福井謙二	領域A 福井謙二	領域A 有川量崇		
7月18日	金	領域A 後藤田宏也	領域A 後藤田宏也	領域A 後藤田宏也	領域A 後藤田宏也		
7月19日	土	領域A 後藤田宏也 (田口千恵子)	領域A 後藤田宏也 (田口千恵子)	領域A 有川量崇			
7月20日	日						
7月21日	月						
7月22日	火						
7月23日	水		平常試験1-② (10:00～11:10)		解説講義 (13:00～)		
7月24日	木	領域A 松島 潔	領域A 松島 潔	領域A 鈴木英明	領域A 鈴木英明		
7月25日	金	領域A 和田守康	領域A 高井英樹	領域A 高井英樹	領域A 飯田崇		
7月26日	土						
7月27日	日						
7月28日	月	領域A 清水武彦	領域A 清水武彦	領域A 五関たけみ	領域A 五関たけみ	領域A 五関たけみ	コンサルテーション
7月29日	火	領域A 飯島守雄 (神谷和伸)	領域A 大久保昌和	領域A 木本統 (矢崎貴啓)	領域A 中田浩史	領域A 松野昌展	コンサルテーション
7月30日	水	領域A 大村祐史	領域A 若見昌信	領域A 小林 平	領域A 小見山 道	領域A 小見山 道	コンサルテーション
7月31日	木	領域A 村上 洋	領域A 石橋 肇	領域A 坂巻達夫	領域A 下坂典立	領域A 松野昌展	
8月1日	金	領域A 下坂典立	領域A 下坂典立	領域A 伊藤 耕	領域A 伊藤 耕	領域A 松野昌展	
8月2日	土						
8月3日	日						
8月4日	月	領域A 下坂典立 (荻村麻由)	領域A 下坂典立 (岡部靖子)				
8月5日	火						
8月6日	水						
8月7日	木						
8月8日	金						
8月9日	土						
8月10日	日						
8月11日	月						
8月12日	火						

月日	曜	9:00~9:50	10:00~10:50	11:00~11:50	13:00~13:50	14:00~14:50	備考
8月13日	水						
8月14日	木						
8月15日	金						
8月16日	土						
8月17日	日						
8月18日	月						
8月19日	火						
8月20日	水						研修医選考面接日
8月21日	木						
8月22日	金		平常試験1-③ (10:00~11:50)		解説講義 (13:00~)		
8月23日	土						
8月24日	日						
8月25日	月	領域B (各論) 平山聡司	領域B (各論) 平山聡司	領域B (各論) 平山聡司	領域B (各論) 平山聡司	領域B (各論) 野本たかと	
8月26日	火	領域B (各論) 松島 潔	領域B (各論) 高井英樹	領域B (各論) 高井英樹	領域B (各論) 高井英樹		
8月27日	水	領域B (各論) 岡部 遼	領域B (各論) 神尾直人	領域B (各論) 山口 大	領域B (各論) 五間たけみ	領域B (各論) 齋藤勝彦	
8月28日	木	領域B (各論) 後藤田宏也 (田口千恵子)	領域B (各論) 後藤田宏也 (田口千恵子)	領域B (各論) 清水武彦	領域B (各論) 岡本 京	領域B (各論) 岡本 京	
8月29日	金						
8月30日	土						
8月31日	日						
9月1日	月		平常試験2 (10:00~11:00)		解説講義 (13:00~)		
9月2日	火	領域C (各論) 大久保昌和	領域C (各論) 大久保昌和	領域C (各論) 飯島守雄 (神谷和伸)	領域C (各論) 飯島守雄 (神谷和伸)	領域C (各論) 小見山 道	
9月3日	水	領域C (各論) 中田浩史	領域C (各論) 中田浩史	領域C (各論) 木本統 (矢崎貴啓)	領域C (各論) 木本統 (矢崎貴啓)	領域C (各論) 野本たかと	コンサルテーション
9月4日	木	領域C (各論) 大村祐史	領域C (各論) 大村祐史	領域C (各論) 若見昌信	領域C (各論) 若見昌信	領域C (各論) 小林 平	コンサルテーション
9月5日	金	領域C (各論) 玉木大之	領域C (各論) 北川剛至	領域C (各論) 小見山 道	領域C (各論) 小見山 道	領域C (各論) 小見山 道	コンサルテーション
9月6日	土						
9月7日	日						
9月8日	月						
9月9日	火		平常試験3 (10:00~11:00)		解説講義 (13:00~)		
9月10日	水	領域C (各論) 内田貴之	領域C (各論) 内田貴之	領域C (各論) 西村 均	領域C (各論) 西村 均	領域C (各論) 西村 均	
9月11日	木	領域C (各論) 下坂典立	領域C (各論) 下坂典立	領域C (各論) 下坂典立	領域C (各論) 小椋一朗	領域C (各論) 小椋一朗	
9月12日	金	領域C (各論) 伊藤 耕	領域C (各論) 伊藤 耕	領域C (各論) 大峰浩隆	領域C (各論) 大峰浩隆		
9月13日	土	領域C (各論) 伊藤 耕	領域C (各論) 伊藤 耕	領域C (各論) 深津 晶			
9月14日	日						
9月15日	月						
9月16日	火	領域C (各論) 福本雅彦	領域C (各論) 福本雅彦	領域C (各論) 市村真奈	領域C (各論) 牧山晴秀		
9月17日	水	領域C (各論) 小宮正道	領域C (各論) 小宮正道	領域C (各論) 小宮正道	領域C (各論) 下坂典立 (鈴木正敏)	領域C (各論) 下坂典立 (鈴木正敏)	
9月18日	木	領域C (各論) 近藤壽郎	領域C (各論) 近藤壽郎	領域C (各論) 近藤壽郎			
9月19日	金						
9月20日	土						
9月21日	日						
9月22日	月		平常試験4 (10:00~11:30)		解説講義 (13:00~)		
9月23日	火						
9月24日	水	領域B (臨実) 平山聡司	領域B (臨実) 平山聡司	領域B (臨実) 中山洋平	領域B (臨実) 中山洋平		
9月25日	木	領域B (臨実) 中山洋平	領域B (臨実) 中山洋平	領域B (臨実) 松島 潔	領域B (臨実) 岡部 遼		

月 日	曜	講義時間					備 考
		9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50	14:00～14:50	
9月26日	金	領域B (臨実) 神尾直人	領域B (臨実) 五関たけみ	領域B (臨実) 五関たけみ	領域B (臨実) 五関たけみ	領域B (各論) 後藤田宏也(田口千恵子)	
9月27日	土	領域B (臨実) 清水邦彦	領域B (臨実) 清水邦彦	領域B (臨実) 岡本 京			
9月28日	日						
9月29日	月						
9月30日	火						
10月1日	水						
10月2日	木		平常試験5 (10:00～11:05)		解説講義 (13:00～)		
10月3日	金	領域C (臨実) 飯島守雄 (石井智浩)	領域C (臨実) 飯島守雄 (石井智浩)	領域C (臨実) 飯島守雄 (石井智浩)	領域C (臨実) 木本 統		コンサルテーション
10月4日	土						
10月5日	日						
10月6日	月	領域C (臨実) 飯島守雄	領域C (臨実) 飯島守雄	領域C (臨実) 木本 統	領域C (臨実) 木本 統		コンサルテーション
10月7日	火	林 幸男・伊藤誠康	領域C (臨実) 伊藤誠康・田中孝明	領域C (臨実) 木本 統	領域C (臨実) 木本 統		コンサルテーション
10月8日	水	林 幸男・宇都宮忠彦	領域C (臨実) 林 幸男・宇都宮忠彦	領域C (臨実) 小林 平 (後藤治彦)	領域C (臨実) 小林 平 (後藤治彦)		
10月9日	木	村上 洋・玉木大之・北川剛至	領域C (臨実) 村上 洋・玉木大之・北川剛至	領域C (臨実) 木本 統	領域C (臨実) 木本 統		
10月10日	金	田中孝明・林 幸男・谷本安浩	領域C (臨実) 飯田 崇	領域C (臨実) 田中孝明			
10月11日	土						成績不振者三者面談
10月12日	日						
10月13日	月						
10月14日	火		平常試験6 (10:00～11:35)		解説講義 (13:00～)		
10月15日	水	領域C (臨実) 伊藤 耕	領域C (臨実) 伊藤 耕	領域C (臨実) 小椋一朗	領域C (臨実) 青木唯宣・小椋一朗・宇都宮忠彦		
10月16日	木	西村 均・久山佳代	領域C (臨実) 西村 均・久山佳代	領域C (臨実) 西村 均・小椋一朗・久山佳代	領域C (臨実) 下坂典立		
10月17日	金	高橋康輔・金田 隆・宇都宮忠彦	領域C (臨実) 高橋康輔・金田 隆・宇都宮忠彦	領域C (臨実) 伊藤 耕・宇都宮忠彦	領域C (臨実) 萩原美緒・小椋一朗・久山佳代		
10月18日	土	池谷美和・小椋一朗・宇都宮忠彦	領域C (臨実) 池谷美和・小椋一朗・宇都宮忠彦	領域C (臨実) 内田貴之			
10月19日	日						
10月20日	月	近藤善郎・金田 隆・久山佳代	領域C (臨実) 小宮正道・金田 隆・久山佳代	領域C (臨実) 小宮正道・宇都宮忠彦	領域C (臨実) 宇都宮忠彦		
10月21日	火						
10月22日	水						
10月23日	木						
10月24日	金		平常試験7 (10:00～11:30)		解説講義 (13:00～)		
10月25日	土	必修 宇都宮忠彦	必修 宇都宮忠彦	必修 谷本安浩			
10月26日	日						
10月27日	月	必修 下坂典立	必修 下坂典立	必修 有川量崇	必修 有川量崇	必修 山根潤一	
10月28日	火	必修 近藤信太郎	必修 岡田裕之	必修 下坂典立	必修 下坂典立	必修 下坂典立	
10月29日	水	必修 加藤 治	必修 平塚浩一	必修 栗原紀子	必修 落合智子	必修 野本たかと	
10月30日	木	必修 清水邦彦	必修 清水邦彦	必修 五関たけみ	必修 多田亮裕	必修 福本雅彦	
10月31日	金	必修 後藤田宏也	必修 後藤田宏也	必修 後藤田宏也	必修 小椋一朗	必修 小椋一朗	
11月1日	土	必修 西村 均	必修 西村 均	必修 坂巻達夫			
11月2日	日						
11月3日	月						
11月4日	火	必修 神谷直孝	必修 松島 深	必修 松島 深	必修 小方頼昌	必修 小方頼昌	コンサルテーション
11月5日	水	必修 田中孝明	必修 飯島守雄	必修 飯島守雄	必修 加藤仁夫		コンサルテーション

月 日	曜	講義時間				備 考
		9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50	14:00～14:50
11月6日	木	必修 會田雅啓	必修 木本 統	必修 木本 統	必修 小見山 道	必修 小見山 道
11月7日	金					
11月8日	土					
11月9日	日					
11月10日	月		平常試験8(10:00～12:15)			
11月11日	火					
11月12日	水					
11月13日	木					
11月14日	金					
11月15日	土					
11月16日	日					
11月17日	月					
11月18日	火					
11月19日	水					
11月20日	木					
11月21日	金					
11月22日	土					
11月23日	日					
11月24日	月					
11月25日	火		第1回総合試験Ⅰ-1 (10:00～12:30) 必修40問・一般108問		第1回総合試験Ⅰ-2 (13:30～15:45) 臨実52問	
11月26日	水		総合試験問題 解説講義			
11月27日	木					
11月28日	金					コンサルテーション
11月29日	土					
11月30日	日					
12月1日	月					
12月2日	火					
12月3日	水					
12月4日	木					
12月5日	金					
12月6日	土					
12月7日	日					
12月8日	月					
12月9日	火					
12月10日	水					
12月11日	木					
12月12日	金					
12月13日	土					
12月14日	日					
12月15日	月		第2回総合試験Ⅱ-1 (10:00～12:30) 必修40問・一般108問		第2回総合試験Ⅱ-2 (13:30～15:45) 臨実52問	
12月16日	火		第2回総合試験Ⅱ-3 (10:00～12:30) 必修40問・一般107問		第2回総合試験Ⅱ-4 (13:30～15:45) 臨実53問	
12月17日	水		総合試験問題 解説講義1			
12月18日	木		総合試験問題 解説講義2			
12月19日	金					
12月20日	土					
12月21日	日					
12月22日	月					

講義時間						備 考	
月 日	曜	9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50		14:00～14:50
12月23日	火						再試験該当者発表(予定) コンサルテーション
12月24日	水						
12月25日	木						
12月26日	金						
12月27日	土						
12月28日	日						
12月29日	月						
12月30日	火						
12月31日	水						
1月1日	木						
1月2日	金						
1月3日	土						
1月4日	日						
1月5日	月						
1月6日	火				第3回総合試験 追・再試験-2 (13:30～15:45) 臨実53問		
解説講義							
1月7日	水						卒業有資格者発表(予定) コンサルテーション
1月8日	木						
1月9日	金						
1月10日	土						
1月11日	日						
1月12日	月						
1月13日	火						
1月14日	水						
1月15日	木						
1月16日	金						
1月17日	土						
1月18日	日						
1月19日	月						
1月20日	火						
1月21日	水						
1月22日	木						
1月23日	金						
1月24日	土						
1月25日	日						
1月26日	月						
1月27日	火						
1月28日	水						
1月29日	木						
1月30日	金						
1月31日	土						
2月1日	日						第108回歯科医師国家試験 1日目(予定)
							第108回歯科医師国家試験 2日目(予定)

講義日 時限 国試出題基準
7月1日 1時限目 総論 V-03-ア, 総論 V-03-イ, 総論 V-03-ウ, 総論 V-03-エ, 総論 V-01-ア,
総論 V-01-イ, 総論 V-01-ウ

担当者名 近藤信太郎
一般目標 GIO: 頭頸部の発生を説明できる。

到達目標 SBOs:
1) 排卵から着床までの過程が説明できる。
2) 二層性胚盤と三層性胚盤が説明できる。
3) 神経外胚葉から分化する構造が説明できる。
4) 胎芽期と胎児期の発生が説明できる。
5) 鰓性器官の発生が説明できる。

キーワード
内細胞塊 神経堤 鰓弓 鰓囊 顔面隆起

=====

講義日 時限 国試出題基準
7月1日 2時限目 総論 IV-01-ア, 総論 IV-01-イ, 総論 IV-01-ウ, 総論 IV-01-エ, 必修-
06-イ-d, 必修-06-イ-e, 必修-06-イ-h

担当者名 近藤信太郎
一般目標 GIO: 頭蓋骨の構造と頭頸部の筋を説明できる。

到達目標 SBOs:
1) 頭蓋骨の構造を説明できる。
2) 頭頸部の筋を説明できる。
3) 脳神経の分布を説明できる。
4) 頭頸部の動脈の分布を説明できる。

キーワード
頭蓋骨 咀嚼筋 三叉神経 顔面神経 外頸動脈

講義日	時限	国試出題基準
7月1日	3時限目	総論 IV-04-ア, 総論 IV-04-イ, 必修-06-ウ-a, 必修-06-ウ-b

担当者名 近藤信太郎

一般目標 GIO: 歯と歯列の構造を説明できる。

到達目標 SBOs:

- 1) 永久歯の形態を説明できる。
- 2) 乳歯の形態を説明できる。
- 3) 歯列の形態を説明できる。
- 4) 歯の異常形質を説明できる。
- 5) 歯の鑑別が説明できる。

キーワード

永久歯 乳歯 歯列 歯の異常形質 歯の鑑別

講義日	時限	国試出題基準
7月1日	4時限目	総論 III-03-イ, 総論 III-03-ウ, 総論 III-03-エ, 総論 IV-05-ア, 総論 VI-06-ウ

担当者名 落合智子

一般目標 GIO: 口腔の感染防御を理解するために、口腔領域の免疫機構を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 唾液による防御機構を説明できる。
- 2) 歯肉溝滲出液による感染防御を説明できる。
- 3) 口腔内の感染防御機構（自然免疫、獲得免疫、粘膜免疫）を説明できる。
- 4) 口腔のアレルギー疾患・自己免疫疾患を説明できる。

キーワード

唾 液 歯肉溝滲出液 免疫グロブリン 金属アレルギー 自己免疫疾患

講義日	時限	国試出題基準
7月2日	1時限目	必修-06-ウ-c, 必修-06-ウ-c, 必修-06-ウ-c, 必修-06-ウ-c

担当者名 岡田裕之

一般目標 GIO: 歯の構造を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) エナメル質の構造を説明できる。
- 2) 象牙質・歯髄複合体の構造を説明できる。
- 3) セメント質の構造を説明できる。

キーワード

エナメル質 象牙質 歯髄 セメント質

講義日	時限	国試出題基準
7月2日	2時限目	必修-06-ウ-d, 総論 IV-04-カ, 総論 IV-04-キ, 総論 IV-04-ク

担当者名 岡田裕之

一般目標 GIO: 歯周組織の構造を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯根膜の構造を理解する。
- 2) 歯槽骨の構造を理解する。
- 3) 歯肉の構造を理解する。

キーワード

歯根膜 歯槽骨 歯肉

講義日	時限	国試出題基準
7月2日	3時限目	必修-07-イ-a, 総論 V-03-カ, 総論 V-03-キ

担当者名 岡田裕之

一般目標 GIO: 歯の発生を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯の発生を説明できる。
- 2) 歯胚の構造を説明できる。

キーワード

歯の発生 歯胚

講義日	時限	国試出題基準
7月2日	4時限目	総論 VI-06-ア, 総論 VI-06-イ, 総論 VI-06-エ

担当者名 栗原紀子

一般目標 GIO: 齲蝕, 歯周病について理解するため, 関連する口腔微生物と病原因子について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 齲蝕に関連する微生物, 病原因子および齲蝕発症機序を説明できる。
- 2) 歯周病に関連する微生物, 病原因子を説明できる。

キーワード

口腔常在菌 齲蝕 歯周病 病原因子

講義日	時限	国試出題基準
7月2日	5時限目	総論 VI-06-ア, 総論 VI-06-イ, 総論 VI-06-エ

担当者名 栞原紀子

一般目標 GIO: 口腔領域と全身との関わりについて理解するため, 口腔感染症と全身疾患の関連性を学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に症状が現れる感染症の病原体, 病原因子を説明できる。
- 2) 口腔感染症を起因とした全身疾患の関連について説明できる。

キーワード

口腔常在微生物 全身疾患

講義日	時限	国試出題基準
7月3日	1時限目	総論 V-03-ケ

担当者名 平塚浩一

一般目標 GIO: 骨リモデリング機構を理解するためにカルシウム調節機構と骨芽細胞、破骨細胞の働きを学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) カルシウム代謝に関連するホルモンとその働きを説明できる。
- 2) 骨芽細胞と破骨細胞の特徴を説明できる。
- 3) 骨吸収因子と骨形成因子を列挙できる。
- 4) 骨リモデリングに関与する骨芽細胞と破骨細胞の動きを説明できる。
- 5) 大理石病や閉経後骨粗鬆症の原因を説明できる。

キーワード

骨 骨芽細胞 骨代謝 破骨細胞

講義日	時限	国試出題基準
7月3日	2時限目	必修-14-イ-a, 総論 VI-11-イ

担当者名 平塚浩一

一般目標 GIO: う蝕を理解するために細菌による硬組織脱灰の機序を学習する

到達目標 SBOs:

- 1) ステファン曲線を説明できる。
- 2) 菌体外多糖の形成機序を説明できる。
- 3) 細菌の代謝産物の種類を説明できる。

キーワード

う蝕 硬組織 ステファン曲線 ストレプトコッカス・ミュータンス

講義日	時限	国試出題基準
7月3日	3時限目	総論 VI-07-イ, 総論 III-01-ウ

担当者名 平塚浩一

一般目標 GIO: 発ガンの機序を理解するために、情報伝達機構や細胞周期を学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 細胞周期の名称と働きを説明できる。
- 2) ガン原遺伝子とガン抑制遺伝子の概念と種類を説明できる。
- 3) 情報伝達物質の種類とその受容体を説明できる。
- 4) 情報伝達の機序を説明できる。

キーワード

細胞膜受容体 細胞内受容体 細胞周期 がん

講義日	時限	国試出題基準
7月3日	4時限目	総論 III-01-エ, 必修-17-イ

担当者名 平塚浩一

一般目標 GIO: ゲノムと疾患の関連性を理解するために遺伝子工学や細胞工学の基本を学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 遺伝子組換えの簡単な方法が説明できる。
- 2) ゲノムの基本的事項が説明できる。
- 3) 個人差を特定する方法を説明できる
- 4) 遺伝子増幅法を説明できる。
- 5) 再生医療を説明できる。
- 6) 体性幹細胞と胚性幹細胞の違いを説明できる。
- 7) 人工幹細胞の作成方法を説明できる。

キーワード

遺伝子組換え 遺伝子 幹細胞 組織再生

講義日	時限	国試出題基準
7月4日	1時限目	総論 IV-03-セ, 総論 III-02-ク

担当者名 吉垣純子

一般目標 GIO: 摂食機能を理解するために、一般感覚と口腔感覚の成立機構を学ぶ。

到達目標 SBOs:

- 1) 感覚の種類を列挙できる。
- 2) 神経線維の分類を説明できる。
- 3) 口腔に存在する感覚器の種類を列挙できる。
- 4) 口腔感覚の伝導路を説明できる。
- 5) 味覚の成立機構を説明できる。

キーワード

感覚器 感覚伝導路 味覚

講義日	時限	国試出題基準
7月4日	2時限目	総論 IV-03-サ, 総論 III-02-ア

担当者名 吉垣純子

一般目標 GIO: 摂食機能を理解するために, 顎反射の成立機構と意義を学ぶ。

到達目標 SBOs:

- 1) 伸張反射を説明できる。
- 2) 顎反射の種類を説明できる。
- 3) 顎反射の反射弓を説明できる。
- 4) 顎反射の咀嚼における意義を説明できる。

キーワード

伸張反射 閉口反射 開口反射 下顎張反射

講義日	時限	国試出題基準
7月4日	3時限目	総論 IV-03-ソ

担当者名 吉垣純子

一般目標 GIO: 摂食機能を理解するために, 唾液成分と唾液分泌機構を学ぶ。

到達目標 SBOs:

- 1) 唾液腺の種類を列挙できる。
- 2) 唾液成分と役割を列挙できる。
- 3) 唾液分泌の調節機構を説明できる。
- 4) 唾液の組成変化を説明できる。

キーワード

唾液腺 唾液分泌調節 pH 緩衝作用

講義日	時限	国試出題基準
7月4日	4時限目	総論 III-02-イ

担当者名 吉垣純子

一般目標 GIO: 摂食機能を理解するために、消化器の構造と調節機構を学ぶ。

到達目標 SBOs:

- 1) 消化器の構造と役割を説明できる。
- 2) 消化液と消化酵素を列挙できる。
- 3) 消化管における神経調節を説明できる。
- 4) 消化管における内分泌調節を説明できる。

キーワード

消化管 消化酵素 消化ホルモン

講義日	時限	国試出題基準
7月5日	1時限目	総論 VI-11-キ, 総論 VI-11-エ, 総論 VI-07-オ

担当者名 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因と病態を理解するために、唾液腺腫瘍の病理学的特徴について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 唾液腺腫瘍の分類について解説できる。
- 2) 唾液腺腫瘍の病理学的特徴について説明できる。

キーワード

唾液腺腫瘍 唾液腺腫瘍の病理組織学的分類 病理組織学的特徴 腫瘍 病因・病態

講義日	時限	国試出題基準
7月5日	2時限目	総論 VI-11-キ, 総論 VI-11-カ, 総論 VI-07-オ

担当者名 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因・病態を理解するために、歯原性腫瘍の病理学的特徴について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯原性腫瘍の分類について説明できる。
- 2) 歯原性腫瘍の病理学的特徴について解説できる。
- 3) 歯原性嚢胞との鑑別事項について説明できる。

キーワード

歯原性腫瘍 歯原性腫瘍の分類 病理組織学的特徴 腫瘍 病因・病態

講義日	時限	国試出題基準
7月5日	3時限目	総論 VI-02-ア, 総論 VI-03-カ, 総論 VI-11-オ, 総論 VI-11-コ

担当者名 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因・病態を理解するために、変性産物や異物の処理に関する病理学的知識及び口腔疾患の治療に伴う変化について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 変性産物の病理組織学的特徴について説明できる。
- 2) 異物の処理に関する病理組織学的特徴について説明できる。
- 3) 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の治療に伴う変化について病理学的に説明できる。

キーワード

変性産物 異物の処理 口腔疾患の治療に伴う変化治癒の病理 治癒の病理 病因・病態

講義日 時限 国試出題基準
7月7日 1時限目 総論 XI-13-ア, 総論 XI-13-イ, 総論 XI-13-ウ, 総論 XI-13-エ, 総論 XI-07-オ, 総論 XI-07-カ, 総論 XI-07-キ, 総論 XI-07-ケ

担当者名 西山典宏

一般目標 GIO: 接着、予防填塞材料、歯内療法用材料について理解するために、接着材、予防填塞材料、歯内療法用材料について、その種類、組成および性質について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯質接着技術における歯質、金属、セラミックスの被着面の処理法について説明できる。
- 2) 予防填塞材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 3) 歯内療法用材料の種類、組成および性質について説明できる。

キーワード

歯質接着技術 予防填塞材料 歯内療法用材料

講義日 時限 国試出題基準
7月7日 2時限目 総論 XI-01-ウ, 総論 XI-12-ク, 総論 XI-12-ケ

担当者名 西山典宏

一般目標 GIO: 歯科用金属、成形加工、熱処理について理解するために、歯科用金属の種類、組成および性質、金属の成形加工および熱処理について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯科用金属の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 金属の成形加工、軟化熱処理、硬化熱処理および接合について説明できる。

キーワード

歯科用金属 成形加工 熱処理

講義日	時限	国試出題基準
7月7日	3時限目	総論 XI-16-ア, 総論 XI-16-イ, 総論 XI-16-エ

担当者名 谷本安浩

一般目標 GIO: 人工歯根材料、骨補填材および組織再生用膜材料を適切に使用するために、それらの基本的な性質について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯科インプラント用材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 骨補填材の種類、組成および性質について説明できる。
- 3) 組織再生用膜材料の種類、組成および性質について説明できる。

キーワード

インプラント 骨補填材 組織再生用膜材料

=====

講義日	時限	国試出題基準
7月7日	4時限目	総論 XI-11-ウ, 総論 XI-11-エ, 総論 XI-15-ア, 総論 XI-15-イ, 総論 XI-15-ウ

担当者名 谷本安浩

一般目標 GIO: 歯科用セラミック材料および矯正材料を適切に使用するために、それらの性質と取り扱いについて理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯科用セラミック材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 歯科用 CAD/CAM の特徴について説明できる。
- 3) 矯正材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 4) 矯正用アタッチメントの接着材の種類および性質について説明できる。

キーワード

歯科用セラミックス 歯科用 CAD/CAM 矯正材料

講義日	時限	国試出題基準
7月8日	1時限目	総論 X-09-ア, 総論 X-09-ア, 総論 X-09-エ, 総論 X-09-オ, 総論 X-09-カ

担当者名 三枝禎

一般目標 GIO: 歯科医師として知っておくべき薬物療法の基礎を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 薬物療法の種類とその特徴について説明できる。
- 2) 薬効に影響を及ぼす因子を列挙できる。
- 3) 薬物の作用部位・作用機序について説明できる。
- 4) 薬物の用量と生体反応について説明できる。

キーワード

薬物療法 薬効に影響を及ぼす因子 薬物の作用部位・作用機序 薬物の用量と反応

講義日	時限	国試出題基準
7月8日	2時限目	総論 X-09-ア, 総論 X-09-キ, 総論 X-09-ク, 総論 X-09-ケ, 総論 X-09-サ, 総論 X-09-シ, 総論 X-09-ツ

担当者名 三枝禎

一般目標 GIO: 歯科医師として知っておくべき薬物療法の基礎を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 薬物の連用が起こす生体現象とその発現機構を説明できる。
- 2) 代表的な薬物の副作用・有害作用, 薬物相互作用を挙げられる。
- 3) 代表的な鎮痛薬を挙げ, その作用機序を説明できる。
- 4) 代表的な抗炎症薬を挙げ, その作用機序を説明できる。
- 5) 薬物の保管・管理の留意点を説明できる。

キーワード

薬物の連用 薬物の有害作用 鎮痛薬 抗炎症薬 薬物の保管・管理

講義日	時限	国試出題基準
7月8日	3時限目	総論 X-09-ケ, 総論 X-09-イ, 総論 X-09-ウ

担当者名 松本裕子

一般目標 GIO: 薬物療法を理解するために、薬物の相互作用に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 薬力学的相互作用を説明できる。
- 2) 薬物動態学的相互作用を説明できる。
- 3) 薬物と食品・嗜好品との相互作用を説明できる。

キーワード

薬物の相互作用 薬物動態 薬物代謝酵素

=====

講義日	時限	国試出題基準
7月8日	4時限目	総論 X-09-コ, 総論 X-09-ス, 総論 X-09-セ, 総論 X-09-タ, 総論 X-09-ソ

担当者名 松本裕子

一般目標 GIO: 薬物療法を理解するために、薬物適用の注意に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 禁忌, 小児・妊婦・高齢者の薬物適用の注意を列举し, 説明できる。
- 2) 全身疾患を有する患者の薬物適用の注意を列举し, 説明できる。

キーワード

薬物適用の注意 抗感染症薬 抗炎症薬 局所麻酔薬 抗血栓薬

講義日	時限	国試出題基準
7月14日	1時限目	総論 VIII-06-ア, 総論 V-06-ア, 総論 V-06-イ

担当者名 川良美佐雄

一般目標 GIO: 高齢者歯科医療を円滑に行うために、基本的な加齢に伴う生理的、機能的変化を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 高齢者が罹患しやすい慢性疾患を挙げ説明できる。
- 2) 加齢・老化による歯・顎・顔面の形態的变化を説明できる。
- 3) 加齢・老化による歯・顎・顔面の機能的変化を説明できる。

キーワード

高齢者 慢性疾患 形態的变化 機能的変化

講義日	時限	国試出題基準
7月14日	2時限目	総論 V-01-ク, 総論 VIII-05-イ, 総論 VIII-05-カ, 総論 VIII-05-キ, 総論 VIII-05-ク, 総論 VIII-05-ケ

担当者名 川良美佐雄

一般目標 GIO: 高齢者歯科医療を円滑に行うために、施設や在宅における基本的歯科医療を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 老化の機序を説明できる。
- 2) 高齢者の心理・社会的特徴を説明できる。
- 3) 要介護高齢者の歯科治療を説明できる。
- 4) 在宅歯科医療を説明できる。
- 5) 摂食・嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。
- 6) 高齢者歯科医療における多職種連携について説明できる。

キーワード

加齢・老化 高齢者心理 要介護高齢者 在宅歯科医療 摂食・嚥下リハビリテーション

講義日 時限 国試出題基準
7月14日 3時限目 総論 I-03-エ, 総論 I-03-オ, 総論 I-03-カ, 総論 I-04-キ, 総論 I-04-ク, 総論 I-04-ケ, 総論 I-04-コ

担当者名 有川量崇

一般目標 GIO: 歯科医師として, 高齢社会における歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な社会保障制度と介護保険、医療保険制度の知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 医療福祉・社会福祉・介護保険関連法規について説明できる。
- 2) 介護施設について説明できる。
- 3) 福祉・介護の制度と職種について説明できる。
- 4) 医療連携・チーム医療について説明できる。
- 5) 保健・医療・福祉・介護の制度と連携について説明できる。

キーワード

医療福祉・社会福祉・介護保険関連法規 介護施設 福祉・介護の制度と職種 保健・医療・福祉・介護の制度と連携

講義日 時限 国試出題基準
7月14日 4時限目 総論 I-01-ア, 総論 I-01-イ, 総論 I-01-ウ, 総論 I-01-エ, 総論 I-01-オ, 総論 I-02-ア, 総論 I-02-エ

担当者名 有川量崇

一般目標 GIO: 歯科医師として, 歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な健康・疾病・障害の概念の知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 健康の概念について説明できる。
- 2) 健康に関わる要因について説明できる。
- 3) 社会環境の変化について説明できる。
- 4) 疾病の自然史と対応について説明できる。
- 5) 保健衛生法規について説明できる。
- 6) 予防衛生法規について説明できる。

キーワード

健康の概念 保健衛生法規 疾病の自然史と対応

講義日	時限	国試出題基準
7月15日	1時限目	総論 X-07-イ, 総論 V-05-イ, 総論 VII-02-ケ-a, 総論 IX-01-ソ

担当者名 野本たかと

一般目標 GIO: 摂食・嚥下機能の発達および加齢変化を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 摂食機能の発達について述べられる。
- 2) 嚥下のメカニズムについて説明できる。
- 3) 嚥下障害について述べられる。
- 4) 誤嚥性肺炎について述べられる。

キーワード

摂食 嚥下 嚥下障害 誤嚥 誤嚥性肺炎

講義日	時限	国試出題基準
7月15日	2時限目	総論 VIII-03-ア, 総論 VIII-03-イ, 総論 VIII-03-オ, 総論 VIII-06-イ

担当者名 野本たかと

一般目標 GIO: 障害児・者の歯科治療が行えるようになるために、障害者や高齢者の対応について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 障害者の保健・医療・福祉について述べられる。
- 2) 障害者の概念や分類を説明できる。
- 3) 障害者の行動調整法について述べられる。
- 4) 障害者および高齢者の歯科治療について説明できる。

キーワード

障害者 高齢者 行動調整

講義日	時限	国試出題基準
7月15日	3時限目	総論 IX-01-キ, 総論 IX-01-ツ, 総論 IX-01-テ

担当者名 多田充裕

一般目標 GIO: 適切な臨床診断を行うため、唾液検査、味覚検査、口臭検査について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 唾液・唾液腺検査について説明できる。
- 2) 味覚検査について説明できる。
- 3) 口臭検査について説明できる。

キーワード

唾液 味覚 口臭

講義日	時限	国試出題基準
7月15日	4時限目	総論 IX-03-カ

担当者名 市村真奈

一般目標 GIO: 有病者の歯科治療を安全に行うために、糖尿病の診断に必要な検査項目、疾患の原因および症状について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 糖尿病の定義を述べられる。
- 2) 糖尿病を調べるための検査項目を述べることができる。
- 3) 糖尿病の臨床症状を述べることができる。
- 4) 糖尿病の合併症を述べることができる。
- 5) 糖尿病に罹患している患者への歯科治療を行う際の注意点を述べられる。

キーワード

臨床検査 糖尿病 合併症

講義日 時限 国試出題基準
7月16日 1時限目 総論 IX-02-ケ

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO: 顎顔面領域の適切な画像検査を行うために、口内法エックス線検査、顎顔面頭蓋部エックス線検査およびパノラマエックス線検査の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) エックス線検査を説明できる。

キーワード

口内法エックス線検査 顎顔面頭蓋部エックス線検査 パノラマエックス線検査

=====

講義日 時限 国試出題基準
7月16日 2時限目 総論 IX-02-シ

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO: 顎顔面領域の適切な画像検査を行うために、CT、歯科用コーンビーム CT、MRI、超音波検査および核医学検査の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) CT、歯科用コーンビーム CT、MRI、超音波検査および核医学検査について説明できる。

キーワード

CT 歯科用コーンビーム CT MRI 超音波検査 核医学検査

講義日	時限	国試出題基準
7月16日	3時限目	総論 IX-02-エ

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO： 顎顔面領域の適切な画像検査を行うために、エックス線装置とその周辺機器の原理の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs：

1) エックス線装置とその周辺機器の原理を説明できる。

キーワード

エックス線撮影装置・器材 フィルムと現像処理 デジタル画像システム エックス線画像の形成

=====

講義日	時限	国試出題基準
7月16日	4時限目	総論 IX-02-キ

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO： 顎顔面領域の適切な画像検査を行うために、放射線防護の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs：

1) 放射線防護について説明できる。

キーワード

放射線の防護・管理

講義日 時限 国試出題基準
7月16日 5時限目 総論 X-08-イ

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO: 顎顔面領域の適切な治療を行うために、放射線治療の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 放射線治療について説明できる。

キーワード

放射線治療

講義日 時限 国試出題基準
7月17日 1時限目 総論 I-05-ア

担当者名 福井謙二

一般目標 GIO: 歯科法医学を理解するために、わが国における死体解剖と死因究明制度について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) わが国における死体解剖について根拠となる法律とその目的について説明できる。
- 2) 2012年6月に成立した死因究明に関する2法における歯科医師の在り方を説明できる。

キーワード

異状死体 法医学 死因究明2法

講義日 時限 国試出題基準
7月17日 2時限目 総論 I-05-イ

担当者名 福井謙二

一般目標 GIO: 歯科法医学を理解するために、死体に発現する全ての変化である死後変化(死体現象)について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 死体現象の法医学的意義について説明できる。
- 2) 早期死体現象について説明できる。
- 3) 晚期死体現象について説明できる。
- 4) 永久死体について説明できる。
- 5) 死体の損壊について説明できる。

キーワード

死の確徴 死後経過時間 早期死体現象 晚期死体現象 永久死体

=====

講義日 時限 国試出題基準
7月17日 3時限目 総論 I-05-ウ

担当者名 福井謙二

一般目標 GIO: 歯科法医学を理解するために、歯科法医学的な個人識別、身元確認について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 身元不明死体の性別判定と年齢推定について説明できる。
- 2) 歯科法医学的な血液型判定とDNA分析について説明できる。
- 3) 個人識別を目的としたデンタルチャートについて説明できる。

キーワード

個人識別 性別判定/年齢推定 血液型判定/DNA分析 デンタルチャート 生前のカルテ(診療録)

講義日 時限 国試出題基準

7月17日 4時限目 総論 I-04-ア, 総論 I-04-イ, 総論 I-04-ウ, 総論 I-04-エ, 総論 I-04-オ, 総論 I-04-カ, 総論 I-04-キ, 総論 I-04-ク

担当者名 有川量崇

一般目標 GIO: 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な地域保健と地域医療の知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 公衆衛生活動・地域保健活動について説明できる。
- 2) 医療計画、健康増進計画について説明できる。
- 3) ヘルスプロモーションについて説明できる。
- 4) 地域保健活動の進め方について説明できる。
- 5) 都道府県、市町村、保健所の歯科保健業務について説明できる。
- 6) プライマリケアについて説明できる。
- 7) かかりつけ歯科医機能について説明できる。
- 8) 救急・災害時等の歯科保健医療対策について説明できる。
- 9) へき地医療について説明できる。
- 10) 在宅医療・在宅歯科医療について説明できる。

キーワード

公衆衛生活動・地域保健活動 医療計画、健康増進計画 ヘルスプロモーション プライマリケア 在宅医療・在宅歯科医

=====

講義日 時限 国試出題基準

7月18日 1時限目 総論 II-01-ア

担当者名 後藤田宏也

一般目標 GIO: 適切な健康管理を行うために、健康の保持・増進およびライフステージ別の保健・歯科保健について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 健康の保持・増進と予防について説明できる。
- 2) 母子保健と母子歯科保健について説明できる。
- 3) 学校保健と学校歯科保健について説明できる。
- 4) フッ化物の応用について説明できる。
- 5) 保健指導について説明できる。

キーワード

健康の保持・増進 母子歯科保健 学校歯科保健 保健指導

講義日	時限	国試出題基準
7月18日	2時限目	総論 II-01-ア

担当者名 後藤田宏也

一般目標 GIO: 適切な健康管理を行うために、健康の保持・増進およびライフステージ別の保健・歯科保健について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 産業保健と産業歯科保健について説明できる。
- 2) 高齢者保健と高齢者歯科保健について説明できる。
- 3) 精神保健福祉について説明できる。
- 4) 障害者保健福祉について説明できる。
- 5) 口腔清掃について説明できる。
- 6) 口腔のケアについて説明できる。

キーワード

産業歯科保健 高齢者歯科保健 口腔清掃 口腔ケア

講義日	時限	国試出題基準
7月18日	3時限目	総論 II-09-ア

担当者名 後藤田宏也

一般目標 GIO: 適切な健康管理を行うために、公衆衛生、保健統計および疫学について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 人口統計と保健統計について説明できる。
- 2) 疫学とその応用について説明できる。

キーワード

人口統計 保健統計 疫学

講義日	時限	国試出題基準
7月18日	4時限目	総論 II-13-ア

担当者名 後藤田宏也

一般目標 GIO: 適切な健康管理を行うために、公衆衛生、保健統計および疫学について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 感染症対策について説明できる。
- 2) 環境保健について説明できる。

キーワード

感染症 環境保健

講義日	時限	国試出題基準
7月19日	1時限目	総論 II-01-ア

担当者名 田口千恵子

一般目標 GIO: 健康の保持・増進のための診断, 教育, 支援について習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 健康づくりについて説明できる。
- 2) 健康教育について説明できる。

キーワード

健康教育・学習 健康づくり 口腔の環境・機能

講義日	時限	国試出題基準
7月19日	2時限目	総論 II-12-ア, 総論 II-12-イ, 総論 II-12-ウ

担当者名 田口千恵子

一般目標 GIO: 健康管理・増進とその予防のために栄養と食品保健を学ぶ。

到達目標 SBOs:

- 1) 国民栄養の現状について説明できる。
- 2) 食事摂取基準について説明できる。

キーワード

食事摂取基準 食生活指針 食育基本法

講義日	時限	国試出題基準
7月19日	3時限目	総論 I-05-ア, 総論 I-05-イ, 総論 I-05-ウ, 総論 I-06-ア, 総論 I-06-イ, 総論 I-06-ウ

担当者名 有川量崇

一般目標 GIO: 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な社会保障制度、医療経済と国民医療費、国際保健の知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 社会保障制度について説明できる。
- 2) 医療経済と国民医療費について説明できる。
- 3) 世界の保健・医療の問題と方向性について説明できる。
- 4) 国際保健・医療協力について説明できる。

キーワード

社会保障制度 医療経済 国民医療費 国際保健・医療協力

講義日 時限 国試出題基準
7月24日 1時限目 総論 IV-04-オ, 総論 IV-04-ア, 総論 VI-05-エ, 総論 VI-05-オ, 総論 VI-08-ア, 総論 VI-08-エ

担当者名 松島潔

一般目標 GIO: 歯髄根尖歯周組織疾患の適切な診断・治療ができるようになるために、歯・歯髄・根尖歯周組織の正常構造と機能および炎症と疼痛の伝達について習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯の正常構造を説明できる。
- 2) 歯髄の正常構造と機能を説明できる。
- 3) 根尖歯周組織の正常構造と機能を説明できる。
- 4) 炎症の原因と機序を説明できる。
- 5) 急性炎症と慢性炎症を説明できる。
- 6) 痛みの伝達を説明できる。

キーワード

歯髄・根尖歯周組織の構造と機能 炎症の原因と進展 口腔・顔面の疼痛の特徴

講義日 時限 国試出題基準
7月24日 2時限目 総論 VI-11-イ, 総論 VI-11-イ, 総論 X-02-ウ, 総論 X-02-エ, 総論 XI-07-カ, 総論 XI-07-ク, 総論 XI-07-ケ

担当者名 松島潔

一般目標 GIO: 歯髄・根尖歯周組織疾患を適切に診断・治療ができるようになるために、歯・歯髄・根尖歯周組織疾患の原因・病態・主要症候、検査および歯内療法で用いる歯科材料を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯髄・根尖歯周組織疾患の病因を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖歯周組織疾患の病態を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖歯周組織疾患の主要症候を説明できる。
- 4) 歯内療法で扱う歯科材料を説明できる。

キーワード

歯髄・根尖歯周組織疾患の病態 歯髄・根尖歯周組織疾患の病態 歯髄・根尖歯周組織疾患の症候 歯内療法で扱う歯科材料

講義日 時限 国試出題基準
7月24日 3時限目 総論 VI-11-イ, 総論 IV-04-ウ, 総論 IV-04-エ, 総論 IV-04-オ, 総論 IV-05-ウ, 総論 VII-02-ア

担当者名 鈴木英明

一般目標 GIO: 齲蝕などによって生じる硬組織欠損に対して適切な処置を行うことができるようになるために、歯の正常構造と機能ならびに口腔バイオフィルムや口組織疾患の病因・病態・症候について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) エナメル質の構造を説明できる。
- 2) 象牙質・歯髄複合体の構造を説明できる。
- 3) セメント質の構造を説明できる。
- 4) 口腔バイオフィルムについて説明できる。
- 5) 歯の硬組織疾患における病因・病態について説明できる。
- 6) 歯の硬組織疾患における症候について説明できる。

キーワード

歯の正常構造と機能 口腔バイオフィルム 硬組織疾患の病因・病態・症候

講義日 時限 国試出題基準
7月24日 4時限目 総論 IX-01-ア, 総論 XI-07-ア, 総論 XI-07-イ, 総論 XI-07-ウ, 総論 XI-07-カ, 総論 XI-13-ア, 総論 XI-14-ア

担当者名 鈴木英明

一般目標 GIO: 歯の硬組織欠損の原因を診断し、適切な処置が行えるようになるために、歯の硬組織検査と成形修復材料やその接着システムならびに各処置法で使用する器材について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯の診察に必要な検査法を選択できる。
- 2) 歯の検査法の特徴とその実施方法について説明できる。
- 3) コンポジットレジン組成やその特徴について説明できる。
- 4) 歯質接着性モノマーの特徴について説明できる。
- 5) グラスアイオノマーセメントの組成や特徴について説明できる。
- 6) 仮封材の特徴について説明できる。
- 7) エナメル質や象牙質被着面に対する処理方法と使用処理剤について説明できる。
- 8) セラミックスや金属被着面に対する処理方法と使用処理剤について説明できる。
- 9) 歯科用合着用セメントの種類とその特徴について説明できる。

キーワード

歯の検査法 歯質接着性モノマー 仮封材 歯質接着ならびに異種材料における被着面処理 歯科用合着用セメント

講義日	時限	国試出題基準
7月25日	1時限目	総論 X-02-キ

担当者名 和田守康

一般目標 GIO: 歯周組織再生医療を理解するために、歯周組織再生に関する因子について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) Tissue engineering の概念について説明できる。
- 2) 歯周組織の再生に関する増殖因子について説明できる。
- 3) iPS 細胞について説明できる。

キーワード

足場 細胞 調節因子 iPS 細胞

=====

講義日	時限	国試出題基準
7月25日	2時限目	総論 VII-02-イ, 総論 IV-03-エ, 総論 IV-03-オ

担当者名 高井英樹

一般目標 GIO: 歯周病を理解するために、正常歯周組織歯、歯周組織の修復と再生および歯周組織の創傷治癒について習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 正常歯周組織について理解できる。
- 2) 修復と再生について理解できる。
- 3) 創傷治癒について理解できる。

キーワード

正常歯周組織 再生と修復 創傷治癒

講義日 時限 国試出題基準

7月25日 3時限目 総論 IX-01-エ, 総論 X-01-ア, 総論 X-02-ウ, 総論 X-02-エ, 総論 X-02-オ, 総論 X-02-キ, 総論 X-05-イ, 総論 XI-16-エ

担当者名 高井英樹

一般目標 GIO: 歯周病を治療するために、歯周組織検査、治療計画および治療法について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯周組織検査について理解できる。
- 2) 治療計画を立案できる。
- 3) 歯周治療について理解できる。
- 4) 歯周外科治療の基本手技について理解できる

キーワード

歯周組織検査 治療計画立案 歯周治療

=====

講義日 時限 国試出題基準

7月25日 4時限目 総論 IX-01-ア

担当者名 飯田崇

一般目標 GIO: 口腔機能の適切な評価を行うために、客観的評価として用いる顎口腔機能に関する検査方法を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯列・咬合検査を説明できる。
- 2) 下顎位検査を説明できる。
- 3) 下顎運動検査を説明できる。
- 4) 顎関節・筋機能検査を説明できる。
- 5) 舌運動・舌圧検査を説明できる。
- 6) 咀嚼機能検査を説明できる。
- 7) 咬合力検査を説明できる。
- 8) 嚥下機能検査を説明できる。

キーワード

咬合 下顎運動 咀嚼機能 嚥下機能

講義日	時限	国試出題基準
7月28日	1時限目	総論 V-01-オ, 総論 IV-04-ア

担当者名 清水武彦

一般目標 GIO: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児心身発育および歯の発育について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 小児の心身発育を説明できる。
- 2) 乳歯および幼若永久歯の形態的特徴を説明できる。
- 3) 歯の発育時期を説明できる。

キーワード

乳歯の形態 小児の心身発育 乳歯の発育時期

=====

講義日	時限	国試出題基準
7月28日	2時限目	総論 V-04-ウ, 総論 VI-11-ア, 総論 VIII-02-イ, 総論 II-02-エ

担当者名 清水武彦

一般目標 GIO: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、歯列咬合の発育、歯の形成異常、小児への対応について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯列咬合の発育について説明できる。
- 2) 歯の形成異常について説明できる。
- 3) 小児への対応について説明できる。
- 4) 児童虐待について説明できる。

キーワード

歯列咬合の発育 歯の形成異常 小児への対応 児童虐待

講義日	時限	国試出題基準
7月28日	3時限目	総論 XI-15-ア, 総論 XI-15-イ, 総論 XI-15-ウ, 総論 XI-15-エ, 総論 XI-15-オ

担当者名 五関たけみ

一般目標 GIO: 安全で適切な矯正治療を実践するために、矯正治療で用いられる材料・器材および装置の特徴について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 矯正用線材料の種類とその特性を説明できる。
- 2) ブラケットの種類とその特徴を述べることができる。
- 3) 矯正治療に用いられる接着材の特徴を述べることができる。
- 4) 矯正臨床で用いるレジンとその特徴を述べることができる。
- 5) 矯正用プライヤーの種類とその使用法について述べることができる。
- 6) 矯正装置の構造と製作に必要な材料を述べることができる。

キーワード

矯正用線材料 接着材 矯正装置の構成

講義日	時限	国試出題基準
7月28日	4時限目	総論 IX-02-サ, 総論 VII-02-ウ, 総論 IX-01-カ, 総論 X-01-ア, 総論 X-01-イ

担当者名 五関たけみ

一般目標 GIO: 適切な矯正治療を実践するために、不正咬合の診断および治療計画の立案に必要な分析法を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 模型分析の項目と特徴を述べることができる。
- 2) 各種セファロ分析の項目と特徴を述べることができる。
- 3) 分析により得られたデータを統合して不正咬合の状態を説明できる。

キーワード

模型分析 セファロ分析 機能分析 治療計画の立案

講義日	時限	国試出題基準
7月29日	1時限目	総論 X-01-ア, 総論 X-01-イ, 総論 X-01-ウ, 総論 X-01-エ

担当者名 神谷和伸

一般目標 GIO: 歯や周囲組織の欠損により予想される口腔内の変化を理解し、部分床義歯補綴の目的、臨床的意義を説明できる。

到達目標 SBOs:

- 1) 部分床義歯の治療計画を左右する因子を説明できる
- 2) 部分床義歯の治療計画を説明できる
- 3) 歯列の欠損に伴う口腔内の変化を説明できる
- 4) 部分欠損の分類を説明できる

キーワード

咬合様式 圧負担様式 構成要素 臨床的意義 部分欠損の分類

講義日	時限	国試出題基準
7月29日	2時限目	総論 VIII-01-オ

担当者名 大久保昌和

一般目標 GIO: 根拠に基づいた医療を行うために EBM についての知識を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 根拠に基づいた医療について説明できる。
- 2) EBM の手順を説明できる。
- 3) 問題の定式化について説明できる。
- 4) 科学的根拠について説明できる。
- 5) 診療ガイドラインについて説明できる。

キーワード

根拠に基づいた医療 EBM 科学的根拠 問題の定式化 診療ガイドライン

講義日 時限 国試出題基準

7月29日 3時限目 総論 VI-12-ア, 総論 VI-12-イ, 総論 VI-12-ウ, 総論 VI-12-エ, 総論 XI-09-イ, 総論 XI-09-ウ, 総論 XI-09-オ, 総論 XI-10-ア

担当者名 矢崎貴啓

一般目標 GIO: 無歯顎患者の診断と治療ができるようになるために、全部床義歯補綴の理論的背景を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 全部床義歯の構成要素を列挙し説明することができる。
- 2) 全部床義歯の維持、支持並びに安定について説明することができる。
- 3) 全部床義歯装着者にみられる主要症候を説明することができる。
- 4) 義歯用材料を列挙し説明することができる。
- 5) レジンの成形技術・機器を説明することができる。
- 6) 診察における高齢者への対応について説明することができる。

キーワード

全部床義歯 床用材料 レジン 高齢者

講義日 時限 国試出題基準

7月29日 4時限目 総論 IV-02-イ

担当者名 中田浩史

一般目標 GIO: 総義歯患者の診断と治療ができるために、加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 無歯顎者の病因と病態について述べることができる。
- 2) 加齢に伴う顎口腔系の変化について述べることができる。
- 3) 総義歯の維持、安定、支持について述べることができる。
- 4) 総義歯治療に必要な解剖学的特徴を述べることができる。
- 5) 咀嚼障害と嚥下障害について述べることができる。

キーワード

全部床義歯 維持、安定、支持 加齢

講義日 時限 国試出題基準

7月29日 5時限目 総論 IV-01-オ, 総論 IV-02-ア, 総論 IV-02-イ, 総論 IV-02-ウ, 総論 IV-02-エ, 総論 IV-02-オ, 総論 IV-02-カ, 総論 IV-02-コ

担当者名 松野昌展

一般目標 GIO: 口腔の構造を理解するために口腔粘膜上にみられる構造と深部の構造との関係を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔の区分を説明できる。
- 2) 口蓋の構造を説明できる。
- 3) 口底の構造を説明できる。
- 4) 舌の構造を説明できる。
- 5) 唾液腺の構造を説明できる。
- 6) 咽頭の構造を説明できる。
- 7) 喉頭の構造を説明できる。

キーワード

口腔 口蓋 舌 咽頭 喉頭

講義日 時限 国試出題基準

7月30日 1時限目 総論 XI-04-キ

担当者名 大村祐史

一般目標 GIO: 生体と調和し、失われた機能を回復できる補綴物を装着するために、必要な知識を整理し理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 印象材の種類と特徴について説明できる。
- 2) 模型材の種類と特徴について説明できる。
- 3) 歯科用ワックスの種類と特徴について説明できる。
- 4) 各種接着処理方法について説明できる。
- 5) 合着材の種類と特徴について説明できる。
- 6) 接着材の種類と特徴について説明できる。
- 7) 仮着材の種類と特徴について説明できる。

キーワード

印象材 模型材 歯科用ワックス 歯科接着技術 合着・接着・仮着材

講義日 時限 国試出題基準
7月30日 2時限目 総論 XI-03-ア, 総論 XI-02-ア, 総論 XI-08-ウ, 総論 XI-08-エ, 総論 XI-08-オ, 総論 XI-12-エ

担当者名 若見昌信

一般目標 GIO: 補綴診療における器具・器材・材料について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 切削器具について説明できる。
- 2) 補綴治療における材料について説明できる。
- 3) 歯冠修復材料について説明できる
- 4) CAD/CAM システムについて説明できる。
- 5) 器材について説明できる。

キーワード

切削器具 歯冠修復材料 CAD/CAM システム 補綴材料 歯科器材

講義日 時限 国試出題基準
7月30日 3時限目 総論 XI-01-ア, 各論 V-04-ア, 各論 V-04-キ, 各論 V-04-サ

担当者名 小林平

一般目標 GIO: 歯冠補綴治療を適切に行うために、陶材焼付け鑄造冠の製作手順と技工操作について学ぶ。

到達目標 SBOs:

- 1) 前ろう付けと後ろう付けの特徴と手技を述べることができる。
- 2) 歯冠補綴装置の作業模型の種類を述べることができる。
- 3) 歯冠補綴装置の作業模型の特徴を述べることができる。
- 4) 陶材焼き付け鑄造冠の製作手順を述べることができる。

キーワード

陶材焼成 陶材焼付け鑄造冠 分割作業模型 ろう着

講義日	時限	国試出題基準
7月30日	4時限目	総論 IV-03-ア

担当者名 小見山道

一般目標 GIO： 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の概念を理解する。

到達目標 SBOs：

- 1) 下顎運動に関連する頭頸部の筋を列挙できる。
- 2) 下顎運動に関連する頭頸部の筋の役割を説明できる。
- 3) 顎関節の構成と役割を説明できる。
- 4) 下顎運動の理解に必要な基準点、基準線、基準面を説明できる。

キーワード

下顎運動 筋 顎関節

=====

講義日	時限	国試出題基準
7月30日	5時限目	総論 IV-03-イ

担当者名 小見山道

一般目標 GIO： 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の概念を理解する。

到達目標 SBOs：

- 1) 下顎位を列挙して説明できる。
- 2) 咬頭嵌合位における上下顎機能咬頭の接触部位を説明できる。
- 3) 作業側、平衡側における下顎頭運動を説明できる。
- 4) 下顎運動と切歯路、顎路の関連を説明できる。
- 5) 咬合様式を説明できる。

キーワード

切歯路 顎路 下顎位 咬合様式

講義日	時限	国試出題基準
7月31日	1時限目	総論 XI-16-ア

担当者名 村上洋

一般目標 GIO： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標 SBOs：

- 1) インプラント用材料について理解する。
- 2) オッセオインテグレーションの獲得について理解する。
- 3) インプラント埋入治療計画について理解する。

キーワード

講義日	時限	国試出題基準
7月31日	2時限目	総論 X-03-ア, 総論 X-03-イ, 総論 X-03-ウ, 総論 X-03-エ, 総論 X-03-オ, 総論 X-03-カ

担当者名 石橋肇

一般目標 GIO： 歯科治療中に発生した心停止に対応できるように、救急蘇生法を理解する。

到達目標 SBOs：

- 1) 一次救命処置(BLS)と二次救命処置(ALS)を説明できる。
- 2) 除細動とその適応について説明できる。
- 3) ALS時の薬剤投与経路について述べることができる。
- 4) ALS時に使用する薬剤について説明できる。
- 5) 高度な気道確保を説明できる。

キーワード

一次救命処置(BLS) 二次救命処置(ALS) 除細動 薬剤投与 高度な気道管理

講義日 時限 国試出題基準
7月31日 3時限目 総論 VII-01-ア

担当者名 坂巻達夫

一般目標 GIO: 歯科診療を遂行するに当たり、全身的症候を理解するうえで脱水、動悸、睡眠障害の病態、診断、治療を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 脱水を起こす疾患を説明できる。
- 2) 脱水に対する対処法を説明できる。
- 3) 動悸を起こる疾患を説明できる。
- 4) 動悸を起こす疾患に対する対処法を説明できる。
- 5) 睡眠障害を説明できる。
- 6) 睡眠時無呼吸症候群を説明できる。

キーワード

脱水 動悸 睡眠障害

講義日 時限 国試出題基準
7月31日 4時限目 総論 X-06-ケ, 総論 X-06-エ, 総論 X-06-ク, 各論 IV-19-ア, 必修-15-
コ-c

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 安全で適切な患者管理を行うために、精神鎮静法の実際について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 精神鎮静法概念について説明することができる。
- 2) 笑気吸入鎮静法の利点、欠点について説明することができる。
- 3) 笑気吸入鎮静法の手順について説明することができる。
- 4) 至適鎮静度について説明することができる。
- 5) 笑気吸入鎮静器について説明することができる。
- 6) 酸素ボンベ、笑気ボンベ、減圧弁の取り扱いについて説明することができる。
- 7) 静脈内鎮静法の利点、欠点について説明することができる。
- 8) 静脈内鎮静法使用薬について説明することができる。
- 9) 静脈内鎮静法による呼吸抑制時の対応について説明することができる。
- 10) 注射法について説明することができる。

キーワード

精神鎮静法 笑気吸入鎮静法 静脈内鎮静法 患者管理

講義日 時限 国試出題基準
7月31日 5時限目 総論 IV-01-エ, 総論 IV-01-ア

担当者名 松野昌展

一般目標 GIO: 口腔の構造と機能を理解するために頭頸部の末梢神経の分布を図も含めて習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 三叉神経の分布を説明できる。
- 2) 顔面神経の分布を説明できる。
- 3) 舌咽神経の分布を説明できる。
- 4) 迷走神経の分布を説明できる。
- 5) 舌下神経の分布を説明できる。
- 6) 頸神経の分布を説明できる。

キーワード

三叉神経 顔面神経 舌咽神経 迷走神経 舌下神経

講義日 時限 国試出題基準
8月1日 1時限目 総論 X-06-ウ, 総論 X-06-エ, 総論 X-06-オ, 総論 X-06-カ, 総論 X-06-キ,
総論 X-06-ク, 必修-15-ケ-d, 必修-15-コ-b

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 安全で適切な患者管理を行うために、全身麻酔法の実際について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 全身麻酔施行にあたって注意すべき項目について説明することができる。
- 2) 全身麻酔法の分類、特徴を説明することができる。
- 3) 注射法について説明することができる。
- 4) 静脈、吸入麻酔薬について説明することができる。
- 5) 気道確保の重要性について説明することができる。
- 6) 筋弛緩薬使用の必要性について説明することができる。
- 7) 日帰り全身麻酔について説明することができる。

キーワード

全身麻酔法 患者管理 静脈・吸入麻酔 筋弛緩薬 気道確保

講義日 時限 国試出題基準

8月1日 2時限目 総論 X-06-ウ, 総論 X-06-キ, 総論 X-06-コ, 総論 X-10-サ, 総論 X-10-シ,
必修-13-イ-a, 必修-15-コ-b

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 安全で適切な患者管理を行うために、全身麻酔法の実際について、また、合併症、偶発症発症時の対応について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 悪性高熱症について説明することができる。
- 2) 悪性高熱症発症時の対応について説明することができる。
- 3) アナフィラキシーショックについて説明することができる。
- 4) アナフィラキシーショック発症時の対応について説明することができる。
- 5) 輸液療法について説明することができる。
- 6) 輸血療法について説明することができる。

キーワード

全身麻酔法 合併症 偶発症 悪性高熱症 輸液・輸血法

=====

講義日 時限 国試出題基準

8月1日 3時限目 総論 VII-02-エ, 総論 VII-02-オ, 総論 VII-02-カ, 総論 VII-02-キ, 総論 VII-02-ク, 総論 VII-02-ケ-a

担当者名 伊藤耕

一般目標 GIO: 顎口腔領域にあらわれる主要な症候を説明できるようにするために学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔粘膜にあらわれる症候を説明できる。
- 2) 顎骨にあらわれる症候を説明できる。
- 3) 顎関節に生じる症候を説明できる。
- 4) 顔面・舌・唾液腺・リンパ節に生じる症候を説明できる。
- 5) 口腔機能障害を説明できる。

キーワード

症候 口腔機能 軟組織 硬組織 リンパ節

講義日	時限	国試出題基準
8月1日	4時限目	総論 X-05-エ, 総論 X-05-キ, 総論 X-05-ク

担当者名 伊藤耕

一般目標 GIO: 口腔外科治療における手術基本手技を説明できるようになるために学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 移植・再植術を説明できる。
- 2) 縫合法を説明できる。
- 3) 口腔外科で行われる外来小手術について説明できる。

キーワード

歯の移植 歯の再植 縫合法 外来小手術

=====

講義日	時限	国試出題基準
8月1日	5時限目	総論 IV-01-ウ, 総論 IV-01-オ

担当者名 松野昌展

一般目標 GIO: 頭頸部の構造を総合的に理解するために局所解剖的な観察眼を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 外頸動脈の枝の分布を説明できる。
- 2) 口底の構造を説明できる。
- 3) 頸部の構造を説明できる。

キーワード

顎下三角 頸動脈三角 頸動脈鞘

講義日	時限	国試出題基準
8月4日	1時限目	総論 VIII-06-ア, 総論 VII-01-ア, 総論 IX-04-エ, 総論 IX-04-カ, 総論 IX-04-ク

担当者名 峯村麻由

一般目標 GIO: 肝疾患、腎不全および糖尿病を合併する患者の歯科治療を安全に行うために、全身状態の評価と歯科治療時の対応について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 肝疾患患者の術前評価について述べることができる。
- 2) 肝疾患患者の歯科治療上の注意点を述べることができる。
- 3) 腎不全患者の術前評価について述べることができる。
- 4) 腎不全患者の歯科治療上の注意点を述べることができる。
- 5) 糖尿病患者の術前評価について述べることができる。
- 6) 糖尿病患者の歯科治療上の注意点を述べることができる。

キーワード

全身疾患 肝疾患 腎疾患 糖尿病

=====

講義日	時限	国試出題基準
8月4日	2時限目	総論 VIII-06-ア, 総論 VII-01-ア, 総論 X-04-イ

担当者名 岡部靖子

一般目標 GIO: 循環器疾患、脳血管疾患および高血圧性疾患を合併する患者の歯科治療を安全に行うために、全身状態の評価と歯科治療時の対応について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯科治療時全身管理が必要な循環器疾患を述べることができる。
- 2) 虚血性心疾患患者の術前評価について述べることができる。
- 3) 虚血性心疾患患者の発作時の対応について述べることができる。
- 4) 歯科治療時全身管理が必要な脳血管疾患を述べることができる。
- 5) 高血圧症患者の術前評価について述べることができる。
- 6) 異常高血圧時の対応について述べることができる。

キーワード

全身疾患 虚血性心疾患 脳血管疾患 高血圧症

講義日 時限 国試出題基準
8月25日 1時限目 各論 III-03-オ, 各論 III-03-カ, 各論 III-05-ア, 各論 IV-01-ウ

担当者名 平山聡司

一般目標 GIO: 破折や変色が生じた歯に対して適切な処置が行えるようになるために、その原因と診断および対処法について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯の破折の検査法と診断について説明できる。
- 2) 歯の変色・着色について説明できる。
- 3) 歯の変色・着色への対処法とその術式について説明できる。
- 4) 象牙質知覚過敏症の臨床的特徴とその処置方針について説明できる。

キーワード

歯の破折 歯の変色・着色 象牙質知覚過敏症 高齢者の硬組織疾患

=====

講義日 時限 国試出題基準
8月25日 2時限目 各論 III-01-ア, 各論 III-02-イ, 各論 III-02-ウ, 各論 III-02-エ, 各論 III-02-オ, 各論 VI-04-ア, 各論 VI-04-イ

担当者名 平山聡司

一般目標 GIO: 齲蝕やTooth wearにより生じた歯の硬組織欠損に対して適切な処置が行えるようになるために、その原因と診断および対処法について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) エナメル質齲蝕の特徴と進行について説明できる。
- 2) 象牙質齲蝕の特徴と進行について説明できる。
- 3) セメント質齲蝕の特徴と進行について説明できる。
- 4) 齲蝕の除去に必要な器具とその術式について説明できる。
- 5) 脱灰歯質の再石灰化について説明できる。
- 6) 齲蝕のリスクファクターについて説明できる。
- 7) Tooth wearによる硬組織疾患の種類とその特徴について説明できる。
- 8) 高齢者の齲蝕の特徴について説明できる。

キーワード

エナメル質齲蝕 象牙質齲蝕 セメント質齲蝕 高齢者の齲蝕 Tooth wear

講義日	時限	国試出題基準
8月25日	3時限目	各論 III-03-イ, 各論 III-03-エ, 各論 III-03-オ, 各論 III-03-カ

担当者名 平山聡司

一般目標 GIO: 歯の欠損に対して適切な接着修復を行うために、Minimal Intervention (MI) Dentistry に基づいた窩洞形成法、歯質接着メカニズムおよび接着操作について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) MI Dentistry について説明できる。
- 2) コンポジットレジン修復法の特徴と適応症について説明できる。
- 3) コンポジットレジン修復における歯質接着性について説明できる。
- 4) 接着修復法の臨床術式と操作上の要点について説明できる。
- 5) グラスアイオノマーセメント修復の特徴と適応症について説明できる。
- 6) 重合収縮応力の発生とその緩和方法について説明できる。
- 7) 補修修復に必要な処理材とその術式について説明できる。
- 8) コンポジットレジン修復後の保全について説明できる。

キーワード

MI Dentistry 接着修復 重合収縮応力 コンポジットレジン 補修修復

講義日	時限	国試出題基準
8月25日	4時限目	各論 III-03-ウ, 各論 III-03-エ, 各論 III-03-オ

担当者名 平山聡司

一般目標 GIO: 実質欠損が生じた歯の機能を回復するために、間接修復法に関する適応症、窩洞の具備条件、印象採得、インレー体の作製および装着法を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 各種間接修復法（メタルインレー修復、レジンインレー修復、セラミックインレー修復）の特徴と適応症について説明できる。
- 2) 各種間接修復窩洞の特徴について説明できる。
- 3) レジンコーティング法の目的とその術式について説明できる。
- 4) 窩洞形成後の印象採得と仮封について説明できる。
- 5) セラミックインレー体の作製法とその特徴について説明できる。
- 6) インレー体装着時におけるインレー体内面処理について説明できる。
- 7) 歯科用セメントの種類と特徴について説明できる。
- 8) 間接修復法の予後とその対処法について説明できる。

キーワード

メタルインレー修復 レジンインレー修復、セラミックインレー修復 セラミックインレー修復 レジンコーティング法 歯科用セメント

講義日 時限 国試出題基準
8月25日 5時限目 各論 II-01-ア, 各論 IV-15-ア

担当者名 野本たかと

一般目標 GIO: 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 各症候群の特徴を述べられる。
- 2) 口腔・顎・顔面に異常を来す症候群について述べられる。
- 3) 症候群と口腔の特徴について述べられる。

キーワード

障害者 症候群 先天異常

講義日 時限 国試出題基準
8月26日 1時限目 各論 III-05-イ, 各論 III-05-ア, 各論 III-05-ウ, 各論 III-05-エ, 各論 III-05-オ, 各論 III-05-カ, 各論 III-05-カ

担当者名 松島潔

一般目標 GIO: 歯髄・根尖歯周組織疾患を適切に診断・治療できるようになるために、
歯髄・根尖歯周疾患の原因・病態・症候を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯髄・根尖歯周組織の原因を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖歯周組織の病態およびその変化を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖歯周組織の症候の変化を説明できる。
- 4) 象牙質知覚過敏症の病態を説明できる。
- 5) 歯内一歯周疾患を説明できる。
- 6) 外傷歯の病態を説明できる。
- 7) 歯根吸収を説明できる。
- 8) 根尖歯周組織疾患が全身に及ぼす影響を説明できる。

キーワード

歯髄・根尖歯周疾患 歯髄・根尖歯周疾患の原因 歯髄・根尖歯周疾患の病態

講義日 時限 国試出題基準

8月26日 2時限目 各論 III-06-エ, 各論 III-06-ア, 各論 III-06-イ, 各論 III-06-ウ, 各論 III-06-カ, 各論 III-06-キ, 各論 III-06-ク

担当者名 高井英樹

一般目標 GIO: 歯周病を理解するために、歯周病の原因、リスクファクター、宿主因子、全身疾患との関わりおよびその特徴と病態について学ぶ。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯周病のリスクファクターを列挙することができる。
- 2) 歯周病の宿主因子について説明することができる。
- 3) 歯周病の環境因子について説明することができる。
- 4) 歯周病の増悪因子について説明することができる。
- 5) 歯周病の病態について説明することができる。

キーワード

宿主因子 環境因子 歯周病の病態

講義日 時限 国試出題基準

8月26日 3時限目 各論 III-09-イ, 各論 III-09-ア, 各論 III-09-ウ, 各論 III-09-エ, 各論 III-09-オ, 各論 III-09-カ, 各論 III-09-ク

担当者名 高井英樹

一般目標 GIO: 歯周病を治療するために、歯周基本治療で行う項目を内容を理解し、歯周外科治療が必要な場合は、その適応と術式を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯周基本治療で行う項目を列挙できる。
- 2) 歯周基本治療で行う内容について説明できる。
- 3) 歯周外科治療の種類と適応症について説明できる。
- 4) 歯周外科の術式と使用器具について説明できる。
- 5) 歯周組織再生療法について説明できる。
- 6) 再評価検査の時期と目的を説明できる。

キーワード

歯周基本治療 歯周外科治療 歯周組織再生療法

講義日 時限 国試出題基準
8月26日 4時限目 各論 III-09-コ, 各論 III-08-オ, 各論 III-08-コ

担当者名 高井英樹

一般目標 GIO: 特殊な歯周病、高齢者および全身疾患を有する患者の歯周治療について説明できる。

到達目標 SBOs:

- 1) 特殊な歯周病の治療について説明できる。
- 2) 全身疾患を有する患者の歯周治療の注意点について説明できる。
- 3) 高齢者の歯周治療について説明できる。

キーワード

全身疾患 高齢者

講義日 時限 国試出題基準
8月27日 1時限目 各論 III-05-イ, 各論 III-05-ウ, 各論 III-05-エ, 各論 III-05-オ, 各論 III-05-カ

担当者名 岡部達

一般目標 GIO: 歯髄・根尖性歯周疾患の適切な診療をするために、歯髄・根尖性歯周疾患の症候、検査を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯髄・根尖性歯周疾患の症候の変化を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖性歯周疾患の主訴を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖性歯周疾患の検査の意図を説明できる。
- 4) 歯髄・根尖性歯周疾患の検査を選択できる。
- 5) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断プロセスを説明できる。
- 6) 歯髄・根尖性歯周疾患の処置方針を説明できる。
- 7) 鑑別診断を説明できる。

キーワード

歯髄・根尖性歯周疾患の症候の変化 歯髄・根尖性歯周疾患の検査 歯髄・根尖性歯周疾患の処置方針

講義日 時限 国試出題基準
8月27日 2時限目 各論 III-06-エ, 各論 III-06-イ, 各論 III-06-ウ, 各論 III-06-オ, 各論 III-06-カ, 各論 III-06-キ, 各論 III-06-ク, 各論 III-06-ス

担当者名 神尾直人

一般目標 GIO: 歯髄・根尖性歯周組織疾患の適切な診療をするために、歯内療法の原則、術式の基本、器具、材料および治癒機転を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯内療法の原則を説明できる。
- 2) 歯内療法の術式を説明できる。
- 3) 歯内療法の器具、材料を選択できる。
- 4) 歯内療法における高齢者に対する配慮を説明できる。
- 5) 顕微鏡を用いた歯内療法を説明できる。
- 6) 治癒機転を説明できる。

キーワード

歯内療法の原則 歯内療法の術式 歯内療法の器具、材料 高齢者の歯内療法 歯内療法の治癒機転

講義日 時限 国試出題基準
8月27日 3時限目 各論 II-07-エ, 各論 II-07-ウ

担当者名 山口大

一般目標 GIO: 適切な矯正治療を実践するために必要な不正咬合の病態および原因について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 不正咬合の先天性原因について説明できる。
- 2) 不正咬合の後天的（環境的）原因について説明できる。
- 3) Angle I 級、Angle II 級、および Angle III 級不正咬合の特徴を説明できる。
- 4) 顎顔面頭蓋に変形を生じる先天異常とその特徴を列挙できる。

キーワード

不正咬合の特徴 先天異常 習癖

講義日 時限 国試出題基準
8月27日 4時限目 各論 II-09-エ, 各論 II-08-エ, 各論 II-09-ア, 各論 II-09-イ, 各論
II-09-ウ, 各論 II-11-ク

担当者名 五関たけみ

一般目標 G I O : 適切な矯正治療を実践するために、矯正治療の流れを理解し矯正力と歯の移動について学ぶ。

到達目標 S B O s :

- 1) 矯正治療の流れを説明できる。
- 2) 矯正力の種類とその特徴を説明できる。
- 3) 固定について説明できる。
- 4) 歯の移動様式と生体反応について説明できる。
- 5) 矯正治療における偶発症を説明できる。

キーワード

矯正治療 固定の種類 矯正力の種類 偶発症

講義日 時限 国試出題基準
8月27日 5時限目 各論 II-10-ウ, 各論 II-10-シ

担当者名 斎藤勝彦

一般目標 G I O : 適切な矯正治療を実践するために、矯正装置の特徴を理解し不正咬合に応じた装置の選択や使用法について習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 矯正装置の特徴と構造について説明できる。
- 2) 矯正装置の使用目的を述べることができる。
- 3) 矯正装置の使用法や注意点を述べることができる。
- 4) 矯正装置による治療前後の変化を説明できる。

キーワード

矯正装置の特徴 矯正装置の使用目的 矯正装置の使用法

講義日 時限 国試出題基準

8月28日 1時限目 各論 I-01-ア, 各論 I-01-ウ, 各論 I-01-キ, 各論 I-01-ク, 各論 I-05-ア, 各論 I-05-イ, 各論 I-05-ク

担当者名 田口千恵子

一般目標 GIO: 歯科疾患の予防・管理を行うために歯科疾患の病因と予防方法を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 初期齲蝕の診断について説明できる。
- 2) 根面齲蝕の予防法について説明できる。
- 3) 歯の損耗について説明できる。
- 4) スポーツによる歯・口腔の外傷予防について説明できる。
- 5) 歯・歯肉の着色・変色について説明できる。

キーワード

初期齲蝕 根面齲蝕 咬耗症 酸蝕症

=====

講義日 時限 国試出題基準

8月28日 2時限目 各論 I-06-ア, 各論 I-06-カ, 各論 I-07-ア, 各論 I-07-イ, 各論 I-07-ウ, 各論 I-07-エ

担当者名 田口千恵子

一般目標 GIO: 歯科疾患の予防・管理のために生活習慣・食習慣について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 生活習慣指導について説明できる。
- 2) 口腔機能の育成・増進について説明できる。
- 3) 食生活と健康課題について説明できる。
- 4) 食事摂取基準について説明できる。
- 5) 食事バランスガイドについて説明できる。

キーワード

口腔機能育成 食事摂取基準 食事バランスガイド 食支援

講義日	時限	国試出題基準
8月28日	3時限目	各論 I-01-オ, 各論 III-03-ア

担当者名 清水武彦

一般目標 GIO: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の齲蝕、齲蝕予防、歯冠修復、歯内療法について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 小児の齲蝕の特徴を説明できる。
- 2) 小児の齲蝕進行抑制について説明できる。
- 3) 小児の歯冠修復について説明できる。
- 4) 小児の歯内療法について説明できる。

キーワード

乳歯齲蝕の特徴 齲蝕進行抑制 小児の歯冠修復 小児の歯内療法

講義日	時限	国試出題基準
8月28日	4時限目	各論 II-05-ウ, 各論 III-07-ア, 各論 III-07-イ, 総論 X-02-ケ, 総論 X-05-カ

担当者名 岡本京

一般目標 GIO: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、歯周疾患、小児の外傷、乳歯の抜歯について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 小児の歯周疾患について説明できる。
- 2) 小児の外傷について説明できる。
- 3) 小児の抜歯について説明できる。

キーワード

小児 外傷 歯周疾患 抜歯

講義日	時限	国試出題基準
8月28日	5時限目	各論 II-06-イ, 各論 II-04-タ

担当者名 岡本京

一般目標 GIO: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、口腔粘膜疾患、咬合誘導、小児疾患について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯の形成障害について説明できる。
- 2) 小児の口腔粘膜疾患について説明できる。
- 3) 小児の咬合誘導について説明できる。
- 4) 小児疾患・症候群と口腔症状の関連について説明できる。

キーワード

小児 口腔粘膜疾患 咬合誘導 小児疾患・症候群

講義日	時限	国試出題基準
9月2日	1時限目	各論 V-05-ア, 各論 V-05-キ

担当者名 大久保昌和

一般目標 GIO: 咬合支持の喪失による咬合・咀嚼障害の診断と治療ができるようになるために、部分床義歯の構成要素を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 連結装置の種類と特性について説明することができる。
- 2) 部分床義歯のフレームワークについて説明できる。
- 3) アタッチメントの種類と特性について説明することができる。

キーワード

連結装置 フレームワーク アタッチメント

講義日	時限	国試出題基準
9月2日	2時限目	各論 V-05-カ, 各論 V-05-ア, 各論 V-05-イ, 各論 V-05-ス, 各論 V-05-セ

担当者名 大久保昌和

一般目標 GIO: 部分床義歯による補綴治療を適正に行うために, 臨床術式を理解する.

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔内前処置について説明することができる。
- 2) 部分床義歯製作のための支台歯の前処置について説明することができる。
- 3) 部分床義歯製作のための印象法について説明することができる。
- 4) 完成部分床義歯の口腔内装着と患者指導について説明することができる。

キーワード

口腔内前処置 支台歯の前処置 部分床義歯の印象法 部分床義歯の口腔内装着 患者指導

講義日	時限	国試出題基準
9月2日	3時限目	各論 V-05-ア, 各論 V-05-カ, 各論 V-05-キ

担当者名 神谷和伸

一般目標 GIO: 部分床義歯の適切な治療方針の決定を行うことができるようになるために, 1 歯欠損から 1 歯残存までの部分欠損歯列を診査・診断し, 診療手順の立案を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) サベイングの目的について説明することが出来る。
- 2) サベイングの術式について説明することが出来る。
- 3) 部分床義歯の構成要素を列記説明することができる。
- 4) 部分床義歯の構成要素とその働きを説明することができる。

キーワード

サベイング 構成要素

講義日	時限	国試出題基準
9月2日	4時限目	各論 V-05-ウ, 各論 V-05-ア

担当者名 神谷和伸

一般目標 GIO: 部分床義歯における咬合・咀嚼障害の診断、治療ができるようになるために各段階の治療計画に沿うようにすべての因子を理解し、部分床義歯の構成を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 模型の種類と特徴について説明することができる。
- 2) 作業模型に対する処置について説明することができる。
- 3) クラスプの種類とその特性を説明することができる。
- 4) クラスプの具備条件を説明することができる。

キーワード

構成要素 クラスプ

=====

講義日	時限	国試出題基準
9月2日	5時限目	各論 V-01-キ

担当者名 小見山道

一般目標 GIO: 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の概念を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 下顎運動と咬合接触の関連を説明できる。
- 2) 作業側、平衡側での咬頭のパスウェイを説明できる。
- 3) 前方運動要素と後方運動要素の咬合面に与える影響を説明できる。

キーワード

下顎運動 咬合接触 パスウェイ

講義日 時限 国試出題基準
9月3日 1時限目 各論 V-06-イ

担当者名 中田浩史

一般目標 GIO: 総義歯患者の診断と治療ができるために、総義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 総義歯治療に必要な下顎運動を述べることができる。
- 2) 総義歯の臨床ステップの概要（診査、診断、治療計画の立案、前処置、印象採得、咬合採得、咬合器の調整、人工歯選択、排列）を理解することができる。
- 3) 総義歯の治療に用いる印象材の種類と印象方法について述べることができる。
- 4) 作業模型上で行う操作を説明することができる。

キーワード

全部床義歯 印象採得 作業模型

講義日 時限 国試出題基準
9月3日 2時限目 各論 V-06-エ

担当者名 中田浩史

一般目標 GIO: 総義歯患者の診断と治療ができるために、総義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 仮想咬合平面の設定を説明することができる。
- 2) 垂直的顎の対向関係位の設定を説明することができる。
- 3) 水平的顎の対向関係位の設定を説明することができる。
- 4) フェイスボウトランスファーを説明することができる。
- 5) 咬合器への模型の付着と調整について述べることができる。
- 6) 人工歯の選択基準、排列方法について述べることができる。

キーワード

全部床義歯 垂直的顎の対向関係位 水平的顎の対向関係位 フェイスボウトランスファー

講義日	時限	国試出題基準
9月3日	3時限目	各論 V-01-ア, 各論 V-06-カ, 各論 V-06-キ, 各論 V-06-ク

担当者名 矢崎貴啓

一般目標 GIO: 無歯顎患者の診断と治療ができるようになるために、全部床義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 全部床義歯の咬合様式について説明することができる。
- 2) 全部床義歯の咬合平衡について説明することができる。
- 3) 全部床義歯の咬合調整の理論を説明することができる。
- 4) 歯肉（歯齦）形成の意義を説明することができる。
- 5) 発音機能の診査方法について述べるすることができる。
- 6) 蠟（仮床）義歯の診査項目を列挙し、説明することができる。
- 7) 義歯床用材料を列挙し、説明することができる。
- 8) 義歯の種類を目的により分類し説明することができる。

キーワード

全部床義歯 咬合様式 歯肉（歯齦）形成 蠟（仮床）義歯 義歯床用材料

=====

講義日	時限	国試出題基準
9月3日	4時限目	各論 V-01-ア, 各論 V-06-コ, 各論 V-06-サ, 各論 V-06-シ, 各論 V-10-ウ, 各論 V-10-キ

担当者名 矢崎貴啓

一般目標 GIO: 無歯顎患者の診断と治療ができるようになるために、全部床義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 完成義歯の診査項目を列挙し、説明することができる。
- 2) 完成義歯のリマウントの目的とその方法について述べることができる。
- 3) 義歯装着時の患者指導の項目を列挙し、説明することができる。
- 4) 全部床義歯の短期的及び長期的管理について説明することができる。
- 5) 全部床義歯の術後トラブルを列挙し、説明することができる。
- 6) 全部床義歯のリラインおよびリベースについて説明することができる。

キーワード

全部床義歯 患者指導 術後管理 術後トラブル 予後

講義日 時限 国試出題基準
9月3日 5時限目 各論 VI-15-ア, 各論 VI-16-ア-c, 各論 VI-16-イ-a, 各論 VI-16-イ-c

担当者名 野本たかと

一般目標 GIO: 口腔のリハビリテーションが行えるようになるために, 加齢による口腔機能の変化を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 摂食・嚥下機能の加齢変化について述べられる。
- 2) 口腔のリハビリテーションについて説明できる。
- 3) 嚥下障害の診査・検査について述べられる。
- 4) 間接訓練, 直接訓練を説明できる。
- 5) 舌接触補助床について述べられる。

キーワード

加齢 嚥下 嚥下障害 リハビリテーション 嚥下補助床

講義日 時限 国試出題基準
9月4日 1時限目 各論 V-04-ケ, 各論 V-04-エ, 各論 V-04-エ, 各論 V-04-カ, 各論 V-04-キ, 各論 V-04-ク

担当者名 大村祐史

一般目標 GIO: 生体と調和し, 失われた機能を回復できる補綴物を装着するために, 必要な知識を整理し理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) クラウンブリッジの前処置について説明できる。
- 2) 支台築造について説明できる。
- 3) 歯肉排除について説明できる。
- 4) 支台歯形成について説明できる。
- 5) プロビジョナルレストレーションについて説明できる。
- 6) 印象材の種類と所要性質について説明できる。
- 7) 各種印象方法が分類でき特徴について説明できる。
- 8) 咬合採得の方法および手順について説明できる。
- 9) 作業模型の構成要素と要件について説明できる。
- 10) 作業模型の種類と特徴について説明できる。

キーワード

前処置 支台築造 支台歯形成 プロビジョナルレストレーション 咬合採得

講義日	時限	国試出題基準
9月4日	2時限目	各論 V-04-セ, 各論 V-04-セ, 各論 V-04-サ, 各論 V-04-シ, 各論 V-04-シ

担当者名 大村祐史

一般目標 GIO: 生体と調和し、失われた機能を回復できる補綴物を装着するために必要な知識を整理し理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 咬合器への装着方法と調整方法について説明できる。
- 2) 歯科用ワックスの特徴とろう型形成の方法について説明できる。
- 3) 埋没材と埋没方法について説明できる。
- 4) 鑄造法の種類と方法について説明できる。
- 5) 金属の連結法について説明できる。
- 6) 作製したクラウンブリッジの試適調整方法を説明できる。
- 7) 作製したクラウンブリッジの仮着の意義を説明できる。
- 8) 作製したクラウンブリッジの合着について説明できる。
- 9) 装着したクラウンブリッジの術後管理について説明できる。

キーワード

咬合器 埋没材 試適 仮着

講義日	時限	国試出題基準
9月4日	3時限目	各論 V-04-ア, 各論 V-04-ウ, 各論 V-03-オ, 各論 V-03-ク

担当者名 若見昌信

一般目標 GIO: 咬合機能の回復に必要な治療計画立案を身につけるために、歯冠補綴物の種類と特徴を知る。

到達目標 SBOs:

- 1) 全部被覆冠の種類と特徴を説明できる。
- 2) 部分被覆冠の種類と特徴を説明できる。
- 3) 歯冠継続歯の構造と適応症を説明できる。
- 4) 陶材焼付冠の製作工程を順に述べることができる。
- 5) オールセラミッククラウンの種類と特徴を説明できる。

キーワード

全部被覆冠 部分被覆冠 歯冠継続歯 陶材焼付冠 オールセラミッククラウン

講義日	時限	国試出題基準
9月4日	4時限目	各論 V-04-イ, 各論 V-04-ア, 各論 V-04-ス, 各論 V-04-シ

担当者名 若見昌信

一般目標 GIO: ブリッジの構成および維持形式による分類を理解し、治療計画の立案を理解する

到達目標 SBOs:

- 1) ブリッジの構成を述べることができる。
- 2) ブリッジの維持形式による分類、適応症を述べることができる。
- 3) ポンティック基底面形態の種類および特徴を述べることができる。
- 4) ブリッジの設計を行うことができる。
- 5) 半固定性ブリッジの構成と特徴を述べることができる。
- 6) 可撤性ブリッジの構成と特徴を述べることができる。
- 7) 接着性ブリッジの構成と特徴を述べることができる。

キーワード

ブリッジの設計 半固定性ブリッジ 可撤性ブリッジ 接着性ブリッジ ポンティック基底面形態

講義日	時限	国試出題基準
9月4日	5時限目	各論 V-01-ア

担当者名 小林平

一般目標 GIO: 最新の歯冠補綴治療を行うために、審美的な治療方法と CAD/CAM によるデジタルデンティストリーの治療方法を学ぶ。

到達目標 SBOs:

- 1) オールセラミッククラウンの種類を分類できる。
- 2) CAD/CAM 応用の歯冠補綴装置の製作方法を述べることができる。
- 3) 歯科に应用されるジルコニアの特徴を述べることができる。

キーワード

オールセラミッククラウン ジルコニア CAD/CAM

講義日	時限	国試出題基準
9月5日	1時限目	各論 V-08-オ

担当者名 玉木大之

一般目標 GIO: 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) インプラント外科処置について説明できる。

キーワード

インプラント インプラント治療 インプラント義歯

=====

講義日	時限	国試出題基準
9月5日	2時限目	各論 IV-08-コ, 各論 IV-08-カ, 各論 IV-08-キ, 各論 IV-08-ク, 各論 IV-08-ケ, 各論 IV-08-サ

担当者名 北川剛至

一般目標 GIO: 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) インプラントの補綴術式を説明できる。
- 2) インプラントの補綴的合併症を説明できる。
- 3) インプラントの上部構造の種類を説明する。

キーワード

上部構造の破損 上部構造の印象採得 上部構造の咬合採得

講義日	時限	国試出題基準
9月5日	3時限目	各論 V-04-ケ

担当者名 小見山道

一般目標 GIO: 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の概念を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) チェックバイトを説明できる。
- 2) 半調節性咬合器のプログラミングを説明できる。
- 3) ゴシックアーチ描記法を説明できる。
- 4) パントグラフ描記法と全調節性咬合器のプログラミングを説明できる。
- 5) 前方誘導要素と後方誘導要素の咬合面に及ぼす影響を説明できる。

キーワード

咬合器 チェックバイト ゴシックアーチ

講義日	時限	国試出題基準
9月5日	4時限目	各論 VI-10-ア

担当者名 小見山道

一般目標 GIO: 歯科に関連する睡眠疾患に対応できるようになるために、睡眠時ブラキシズムと睡眠時無呼吸症候群を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 睡眠時ブラキシズムの特徴を説明できる。
- 2) 睡眠時ブラキシズムへの対応を説明できる。
- 3) 睡眠時無呼吸症候群の特徴を説明できる。
- 4) 睡眠時無呼吸症候群への対応を説明できる。
- 5) マウスガードによる歯・口腔の外傷予防について説明できる。

キーワード

睡眠 ブラキシズム 睡眠時無呼吸症候群 スポーツマウスガード

講義日 時限 国試出題基準
9月5日 5時限目 各論 VI-13-オ

担当者名 小見山道

一般目標 GIO: 高齢者に対する歯科治療を円滑に行うために、顎・顔面領域の神経疾患の特徴を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 舌痛症の病態を説明できる。
- 2) 舌痛症の鑑別診断方法について説明できる。
- 3) 舌痛症の治療を説明できる。
- 4) 口腔ジスキネジアの病態とその対応を説明できる。
- 5) 口腔心身症の病態を説明できる。
- 6) 口腔領域に症状を発現する心因性疾患を説明できる。
- 7) 統合失調症、うつ病、気分障害、双極性障害、不安障害、解離性障害、身体表現性障害の病態を説明できる。

キーワード

舌痛症 心身症 うつ病

講義日 時限 国試出題基準
9月10日 1時限目 各論 IV-14-オ

担当者名 内田貴之

一般目標 GIO: 顎関節疾患と顎関節疾患に類似した疾患との鑑別および適切な治療方針の決定ができるようになるために、診断法および治療法を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 顎関節疾患の特徴が説明できる。
- 2) 顎関節疾患に類似した疾患を列挙できる。
- 3) 顎関節疾患の診断法を説明できる。
- 4) 顎関節疾患の治療法を説明できる。

キーワード

顎関節疾患 鑑別診断 類似疾患

講義日 時限 国試出題基準
9月10日 2時限目 各論 IV-14-サ

担当者名 内田貴之

一般目標 GIO: 顎関節症を診断し、治療方針を決定できるようになるために、顎関節症の病態および診査、診断ならびに適切な治療法を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 顎関節疾患における顎関節症の位置づけを説明できる。
- 2) 顎関節症の各病態を説明できる。
- 3) 顎関節症の治療手順を説明できる。
- 4) 顎関節症の治療法を説明できる。
- 5) 顎関節症治療におけるスプリント治療について説明できる。

キーワード

顎関節疾患 顎関節症 スプリント

講義日 時限 国試出題基準
9月10日 3時限目 各論 IV-10-ア, 各論 IV-10-イ, 各論 IV-10-ウ, 各論 IV-10-エ, 各論 IV-10-オ, 各論 IV-10-コ

担当者名 西村均

一般目標 GIO: 歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍を診断し、治療方針を決定できるようになるために、各歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍の特徴を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍の特徴を述べることができる。
- 2) 各疾患のエックス線像の特徴を述べることができる。
- 3) 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍を診断できる。
- 4) 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍の治療法について述べることができる。
- 5) 歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍の予後について述べることができる。
- 6) 他の疾患（炎症性疾患・嚢胞性疾患）と鑑別診断を行うことができる。

キーワード

腫瘍および類似疾患 歯源性腫瘍 非歯源性良性腫瘍

講義日 時限 国試出題基準
9月10日 4時限目 各論 IV-10-ア, 各論 IV-10-イ, 各論 IV-10-ウ, 各論 IV-10-キ, 各論 IV-10-ク, 各論 IV-10-サ

担当者名 西村均

一般目標 GIO: 顎口腔領域に発生する嚢胞性疾患を診断し、治療方針を立てられるようになるために、その病態および特徴を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 顎骨内に発生する歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞を分類し、その特徴を述べることができる。
- 2) 顎骨内に発生する歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞の鑑別診断をすることができる。
- 3) 顎骨内に発生する歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞の治療法を説明することができる。
- 4) 顎骨内に発生する嚢胞類似疾患を分類し、その特徴を説明できる。
- 5) 顎骨内に発生する嚢胞類似疾患の鑑別診断ができる。
- 6) 顎骨内に発生する嚢胞類似疾患の治療法を説明できる。

キーワード

顎骨腫瘍 顎骨嚢胞 歯源性嚢胞 非歯源性嚢胞 偽嚢胞

講義日 時限 国試出題基準
9月10日 5時限目 各論 IV-04-ウ, 各論 IV-04-エ, 各論 IV-04-オ, 各論 IV-04-カ, 各論 IV-04-キ, 各論 IV-04-ク

担当者名 西村均

一般目標 GIO: 軟組織内に発生する嚢胞性疾患の鑑別診断と処置ができるようになるために、病態と特徴を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 軟組織に発生する嚢胞を分類し、その特徴を説明できる。
- 2) 軟組織に発生する嚢胞の鑑別診断ができる。
- 3) 軟組織に発生する嚢胞の治療法を説明できる。

キーワード

軟組織 嚢胞 鑑別診断 手術

講義日 時限 国試出題基準

9月11日 1時限目 各論 IV-19-ア, 各論 IV-18-ウ, 各論 IV-18-オ, 各論 IV-18-カ, 総論 X-06-ア, 総論 X-06-イ, 必修-15-コ-a

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 安全で快適な歯科治療を行うために、局所麻酔法の種類、特徴について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 局所麻酔薬の作用機序を説明できる。
- 2) 局所麻酔薬の種類を説明することができる。
- 3) 局所麻酔薬の全身への影響を説明できる。
- 4) 局所麻酔薬中毒について、原因と対処法について説明することができる。
- 5) 血管収縮薬の添加目的を説明することができる。
- 6) 血管収縮薬の種類を説明することができる。
- 7) 血管収縮薬の薬物相互作用を説明できる。
- 8) アドレナリン過敏症について、原因と対処法について説明することができる。

キーワード

局所麻酔法 血管収縮薬 偶発症 循環作動薬 向精神薬

講義日 時限 国試出題基準

9月11日 2時限目 各論 IV-18-ア, 各論 IV-18-イ, 各論 IV-18-ウ, 各論 IV-18-エ, 各論 IV-18-オ, 各論 IV-18-カ, 各論 IV-19-ア, 必修-15-コ-c

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 安全で快適な歯科治療を行うために、全身的偶発症、特に局所麻酔時発症しやすい全身的偶発症とその対応、予防について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 血管迷走神経反射について説明することができる。
- 2) 血管迷走神経反射の対応と予防について説明することができる。
- 3) 過換気症候群について説明することができる。
- 4) 過換気症候群の対応と予防について説明することができる。
- 5) 局所麻酔薬中毒発症時の対応と予防について説明することができる。
- 6) アナフィラキシーショックについて説明することができる。
- 7) アナフィラキシーショック発症時の対応について説明することができる。
- 8) 精神鎮静法の概念について説明することができる。
- 9) 笑気吸入鎮静法について説明することができる。
- 10) 静脈内鎮静法について説明することができる。

キーワード

局所麻酔時合併症 対応策 予防策 精神鎮静法

講義日	時限	国試出題基準
9月11日	3時限目	各論 IV-17-ス, 各論 IV-17-セ, 各論 IV-19-ア, 各論 IV-19-ウ, 必修-15-カ-b, 総論 VIII-05-オ, 総論 VIII-04-エ, 総論 VIII-04-オ

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 安全で快適な歯科治療を行うために、高齢者および妊婦の特徴および歯科治療時に留意すべき事項について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 高齢者の身体的特徴について説明できる。
- 2) 高齢者の生理学的特徴について説明できる。
- 3) 高齢者に対する局所麻酔施行時の注意点について説明できる。
- 4) 妊婦の身体的特徴について説明できる。
- 5) 妊婦の歯科治療時の体位管理について説明できる。
- 6) 妊婦に対する局所麻酔施行時の注意点について説明できる。
- 7) 妊婦に対する与薬時の注意点について説明できる。

キーワード

高齢者 妊婦 特徴 局所麻酔時注意点 与薬時注意点

講義日	時限	国試出題基準
9月11日	4時限目	各論 IV-08-エ

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO: 顎顔面領域の適切な画像検査を行うために、炎症および外傷の画像診断の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 炎症および外傷の画像診断について説明できる。

キーワード

炎症 外傷

講義日 時限 国試出題基準
9月11日 5時限目 各論 IV-11-エ

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO: 顎顔面領域の適切な画像検査を行うために、嚢胞および腫瘍の画像診断の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 嚢胞および腫瘍の画像診断について説明できる。

キーワード

腫瘍 嚢胞

講義日 時限 国試出題基準
9月12日 1時限目 各論 IV-06-オ, 各論 IV-06-チ, 各論 IV-06-ツ, 各論 IV-06-セ, 各論 IV-11-キ

担当者名 伊藤耕

一般目標 GIO: 口腔粘膜ならびに前癌病変、主要類似疾患の診断と治療ができるようになるために、診断法、治療法について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔粘膜疾患とその類似疾患の診断、病態について述べることができる。
- 2) 舌炎、口唇炎および類似疾患の診断、病態について述べることができる。
- 3) 前癌病変の定義について説明することができる。
- 4) 白板症と紅板症の診断法、病態について説明することができる。
- 5) 前癌病変を説明し、その疾患名を挙げられる。
- 6) エプーリスの分類法と治療法について説明できる。
- 7) 顎骨の骨隆起と骨腫の鑑別診断と治療の必要性の有無について判定できる。
- 8) 線維性異形成症の病態と治療法について述べることができる。
- 9) Langerhans 細胞組織球腫(Histiocytosis X)の分類、病態および診断法について述べることができる。

キーワード

前癌病変 腫瘍類似疾患 口腔粘膜疾患 線維骨病変 エプーリス

講義日	時限	国試出題基準
9月12日	2時限目	各論 IV-06-ア, 各論 IV-06-イ, 各論 IV-06-ク, 各論 IV-06-タ

担当者名 伊藤耕

一般目標 GIO: 全身疾患を合併する患者の歯科治療をできるようになるために、全身疾患の口腔内症状について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) ウイルス性感染症とその口腔内症状について述べることができる。
- 2) 細菌感染症とその口腔内症状について述べることができる。
- 3) 免疫異常とその口腔内症状について述べることができる。
- 4) 内分泌障害・代謝障害とその口腔内症状について述べることができる。
- 5) 栄養障害とその口腔内症状について述べることができる。
- 6) 心因性病態について述べることができる。
- 7) 薬物の副作用について述べることができる。

キーワード

薬物の副作用 内分泌障害 代謝障害 免疫異常 代謝障害

=====

講義日	時限	国試出題基準
9月12日	3時限目	各論 IV-01-ア, 各論 IV-01-イ, 各論 IV-01-ウ, 各論 IV-01-ク

担当者名 大峰浩隆

一般目標 GIO: 顎口腔領域の疾患について理解するために、先天奇形を主徴とする疾患について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口唇・口蓋裂及び類似疾患の病態について説明することができる。
- 2) 口唇・口蓋裂の治療計画について説明することができる。
- 3) 口唇・口蓋裂児への哺乳指導について説明することができる。
- 4) 口唇・口蓋裂の手術法について説明することができる。
- 5) 鼻咽腔閉鎖不全について説明することができる。

キーワード

先天奇形 唇顎口蓋裂 鼻咽腔閉鎖不全 治療計画 手術

講義日 時限 国試出題基準
9月12日 4時限目 各論 IV-07-ア, 各論 IV-07-エ, 各論 IV-07-オ-a, 各論 IV-07-オ-c,
各論 IV-07-オ-e

担当者名 大峰浩隆

一般目標 GIO: 顎口腔領域の疾患について理解するために、変形を主徴とする疾患について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 顎変形症の治療法について説明することができる。
- 2) 顔面の異常を伴う症候群について説明することができる。
- 3) Down 症候群について説明することができる。
- 4) 口腔・顔面の異常を示す代謝・内分泌疾患について説明することができる。

キーワード

顎変形症 症候群 Down 症候群 代謝・内分泌疾患

講義日 時限 国試出題基準
9月13日 1時限目 各論 IV-08-ア, 各論 IV-08-イ, 各論 IV-08-ウ, 各論 IV-08-エ, 各論
IV-08-オ, 各論 IV-02-ア, 各論 IV-02-イ

担当者名 伊藤耕

一般目標 GIO: 適切な口腔外科治療を行うために、口腔領域の損傷の適切な診断法を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 顔面・口腔領域軟組織損傷の概念を説明し、適切な診断ができる。
- 2) 歯牙の脱臼、破折の適切な診断ができる。
- 3) 顎顔面骨骨折（歯槽骨骨折、上下顎骨骨折、頬骨頬骨弓骨折、眼窩底骨折）の特徴的な骨折様式を説明し、適切な診断ができる。

キーワード

骨折 軟組織損傷 歯の脱臼 顎顔面骨折 損傷

講義日 時限 国試出題基準
9月13日 2時限目 各論 IV-02-ア, 各論 IV-02-イ, 各論 IV-02-ウ

担当者名 伊藤耕

一般目標 GIO: 適切な口腔外科治療を行うために、口腔領域の損傷による合併症と治療法を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 軟組織損傷の治療法を説明し適切な対応ができる。
- 2) 顎顔面骨折に対する各種処置法を説明し適切な治療方針を述べることができる。
- 3) 合併症の診断法および治療法を説明し適切な対応がとれる。

キーワード

軟組織損傷の治療法 顎顔面骨折の治療法 損傷による合併症 外傷 治療方針

講義日 時限 国試出題基準
9月13日 3時限目 各論 IV-16-カ-a

担当者名 深津晶

一般目標 GIO: 口腔領域に特徴的な症状を呈しかつ歯科治療に影響を及ぼす全身疾患、特に貧血について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 貧血の定義が述べられる。
- 2) 貧血を調べるための検査項目およびその意義が述べられる。
- 3) 貧血に伴う特徴的な症状が述べられる。
- 4) 貧血の治療方法が述べられる。

キーワード

貧血 血液検査 症状

講義日	時限	国試出題基準
9月16日	1時限目	各論 IV-16-イ

担当者名 福本雅彦

一般目標 GIO: 細菌・ウイルス感染により口腔症状を呈する疾患を診断するためにその検査法を学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 感染症・炎症の判断に用いられる臨床検査項目を列举できる。
- 2) 梅毒の臨床経過と臨床検査項目を列举できる。
- 3) 結核の臨床経過と臨床検査項目を列举できる。
- 4) 成人T細胞性白血病の臨床経過と臨床検査項目を列举できる。
- 5) ウイルス性肝炎の臨床経過と臨床検査項目を列举できる。
- 6) HIV感染の臨床経過と臨床検査項目を列举できる。

キーワード

感染症 細菌 ウイルス

=====

講義日	時限	国試出題基準
9月16日	2時限目	各論 IV-16-ウ-c, 各論 IV-16-ウ-d

担当者名 福本雅彦

一般目標 GIO: 免疫反応により口腔症状を呈する疾患を理解するためにその臨床的特徴と原因を学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 自己免疫疾患の臨床検査所見を述べることができる。
- 2) 特発性血小板減少性紫斑病の臨床的特徴を列举できる。
- 3) 天疱瘡の臨床的特徴を列举できる。
- 4) GVHDの臨床的特徴を列举できる。

キーワード

自己免疫疾患 移植 拒絶反応

講義日 時限 国試出題基準
9月16日 3時限目 各論 IV-16-カ-c

担当者名 市村真奈

一般目標 GIO: 有病者の歯科治療を安全に行うために、出血性素因の診断に必要な検査項目、疾患の原因および症状について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 血液凝固機序を述べることができる。
- 2) 出血性素因を調べるための検査項目を述べることができる。
- 3) 出血性素因の疾患を述べることができる。
- 4) 出血性素因の原因と臨床症状を述べることができる。
- 5) 出血性素因に罹患している患者への歯科治療を行う際の注意点を述べることができる。

キーワード

臨床検査 血液凝固機序 出血性素因

講義日 時限 国試出題基準
9月16日 4時限目 各論 IV-13-ア, 各論 IV-13-イ, 各論 IV-13-ウ, 各論 IV-13-オ, 各論 IV-13-カ, 各論 IV-13-ク, 各論 IV-13-コ

担当者名 牧山康秀

一般目標 GIO: 顎・顔面および口腔領域における神経疾患についての診断・治療が理解できるようになるために、その特徴を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 三叉神経痛の症状を説明し、治療法を説明できる。
- 2) 顔面神経麻痺を説明し、治療法を説明できる。
- 3) 顎・顔面および口腔領域における他の神経疾患について分類できる。
- 4) 緩和医療（癌性疼痛治療法(WHO方式)）を説明できる。
- 5) 緩和医療（鎮痛補助薬）を説明できる。

キーワード

三叉神経痛 顔面神経麻痺 癌性疼痛治療法 鎮痛補助薬 口腔顔面痛

講義日 時限 国試出題基準
9月17日 1時限目 各論 IV-17-ア, 各論 IV-17-ス, 各論 IV-17-イ, 各論 IV-17-オ, 各論 IV-17-ク, 各論 IV-17-ケ

担当者名 小宮正道

一般目標 GIO: 歯科でみられる医科疾患患者の注意点を述べられるようになるために学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 全身管理に留意する全身疾患・状態を説明できる。
- 2) 高齢者にみられる全身管理に留意する全身疾患・状態を説明できる。

キーワード

全身疾患 高齢者 呼吸器疾患 神経・運動器疾患 内分泌疾患

講義日 時限 国試出題基準
9月17日 2時限目 各論 IV-03-ア, 各論 IV-03-イ, 各論 IV-03-ウ, 各論 IV-03-オ, 各論 IV-03-カ, 各論 IV-03-キ

担当者名 小宮正道

一般目標 GIO: 歯周組織、顎骨の炎症および顎骨周囲軟組織の炎症を診断し治療方針を決定できるようになるために、口腔・顎領域の炎症の病態を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯性扁桃周囲炎の診断・病態・治療法について述べられる。
- 2) 口底・咽頭・頬部の炎症の拡大と隙について述べられる。
- 3) 口底部の炎症の診断・病態・治療法について述べられる。
- 4) 咽頭部の炎症の診断・病態・治療法について述べられる。
- 5) 歯冠周囲炎、歯周組織炎の診断・病態・治療法について述べられる。
- 6) 顎骨炎の分類・診断・病態・治療法について述べられる。
- 7) 放射線障害による口内炎、骨壊死、骨髓炎の病態について述べられる。
- 8) 歯性感染症の原因歯の治療方針について述べられる。
- 9) 歯性全身感染症の種類・原因・病態を述べることができる。

キーワード

口腔・顎領域の炎症 歯性感染症 放射線障害

講義日 時限 国試出題基準
9月17日 3時限目 各論 IV-03-ク

担当者名 小宮正道

一般目標 GIO: 肉芽腫性線炎（特異性炎）と歯性上顎洞炎を診断し治療方針を決定できるようにするために、原因・病態・治療法を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 肉芽腫性線炎（特異性炎）の種類を述べられる。
- 2) 顎部放線菌症の診断・病態・治療法について述べられる。
- 3) 口腔結核の診断・病態・治療法について述べられる。
- 4) 歯性上顎洞炎の診断・病態・治療法について述べられる。

キーワード

肉芽腫性線炎（特異性炎） 顎部放線菌症 口腔結核 歯性上顎洞炎

講義日 時限 国試出題基準
9月17日 4時限目 各論 IV-17-ア, 各論 IV-17-ク, 各論 IV-17-ケ, 総論 VIII-06-ア, 必修-15-ホ-b, 必修-11-ウ-c

担当者名 鈴木正敏

一般目標 GIO: 呼吸器、内分泌および代謝系疾患の合併する患者の歯科治療を安全に行うために、全身状態の評価と歯科治療時の対応について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯科治療時に全身管理が必要な呼吸器疾患を述べることができる。
- 2) 呼吸器疾患を有する患者の術前評価について述べることができる。
- 3) 喘息患者の緊急合併症発症時の対応について述べることができる。
- 4) 歯科治療時に全身管理が必要な代謝性疾患を述べることができる。
- 5) 糖尿病患者の術前評価について述べることができる。
- 6) 糖尿病患者に対する歯科治療時の注意点を述べることができる。
- 7) 糖尿病患者の低血糖および高血糖発作時の対応について述べることができる。

キーワード

呼吸器疾患 糖尿病 全身管理

講義日 時限 国試出題基準
9月17日 5時限目 各論 IV-16-エ, 各論 IV-17-ク, 各論 IV-19-イ, 各論 IV-19-ウ, 総論
VIII-06-イ, 必修-09-ア-a, 必修-11-ウ-c, 必修-15-ホ-b

担当者名 鈴木正敏

一般目標 GIO: 内分泌疾患を合併する患者の歯科治療を行うために、全身状態の評価と
歯科治療時の対応について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 甲状腺疾患の種類と特徴について述べるができる。
- 2) 甲状腺疾患を有する患者の歯科治療時の注意点について述べるができる。
- 3) 副甲状腺疾患の種類と特徴について述べるができる。
- 4) 副甲状腺疾患を有する患者の歯科治療時の注意点について述べるができる。

キーワード

内分泌系疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患

講義日 時限 国試出題基準
9月18日 1時限目 各論 IV-05-エ, 各論 IV-05-ウ, 各論 IV-05-オ, 各論 IV-05-タ-a

担当者名 近藤壽郎, 伊藤耕

一般目標 GIO: 適切な口腔癌の治療を行うために、その特性を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 舌癌の特徴を述べられる。
- 2) 歯肉癌の特徴を述べられる。
- 3) 上顎洞癌の特徴を述べられる。
- 4) 口腔癌の転移の様式を述べられる。
- 5) 口腔癌のリンパ節転移を述べられる。
- 6) TNM 分類を述べられる。
- 7) 病期分類を述べられる。
- 8) 頸部郭清術を述べられる。

キーワード

口腔癌 リンパ節転移 TNM 分類 病期分類 頸部廓清術

講義日	時限	国試出題基準
9月18日	2時限目	各論 IV-05-コ, 各論 IV-05-シ, 各論 IV-05-ス

担当者名 近藤壽郎, 伊藤耕

一般目標 GIO: 適切な非歯原性間葉性腫瘍の治療を行うために、その特徴を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 非歯原性間葉性腫瘍の特徴を述べられる。
- 2) 肉腫の特徴を述べられる。
- 3) 多発性骨髄腫の特徴を述べるができる。

キーワード

非歯原性腫瘍 悪性腫瘍 肉腫 多発性骨髄腫 治療

講義日	時限	国試出題基準
9月18日	3時限目	各論 IV-12-タ, 各論 IV-12-チ, 各論 IV-12-ク, 各論 IV-12-コ

担当者名 近藤壽郎, 伊藤耕

一般目標 GIO: 唾液腺に生ずる疾患を適切に治療するために、その特徴を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) ドライマウスについて述べられる。
- 2) Sjögren 症候群と Mikulicz 病の特徴を述べられる。
- 3) 流行性耳下腺炎につて述べられる。
- 4) 唾液腺良性腫瘍の特徴を述べられる。
- 5) 唾液腺悪性腫瘍の特徴を述べられる。

キーワード

唾液腺腫瘍 多形腺腫 腺様嚢胞癌 粘表皮癌 Sjögren 症候群

講義日 時限 国試出題基準
9月24日 1時限目 各論 III-02-ウ, 各論 III-02-エ, 各論 III-02-オ, 各論 III-02-カ, 各論 III-03-キ, 各論 I-05-ア, 各論 I-05-イ, 各論 I-05-ウ

担当者名 平山聡司

一般目標 GIO: Tooth wear、歯の変色および外傷により生じた歯の欠損や審美障害を解決するために、必要な検査、診断、治療方針の立案および処置法に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 変色歯の鑑別診断ができる。
- 2) 変色歯の程度により適切な処置方針が立案できる。
- 3) Tooth wear に対する鑑別診断ができる。
- 4) Tooth wear に対する適切な治療方針を立案できる。
- 5) 外傷歯の診断に必要な検査法を選択できる。
- 6) 外傷歯に対する適切な治療方針を立案できる。
- 7) 歯の完全破折と不完全破折の鑑別診断ができる。

キーワード

変色歯 Tooth wear 歯の破折

講義日 時限 国試出題基準
9月24日 2時限目 各論 III-03-ウ, 各論 III-03-エ, 各論 III-03-オ, 各論 III-03-カ

担当者名 平山聡司

一般目標 GIO: 歯の硬組織欠損に対して適切な間接修復処置が行えるようになるために、必要な検査、診断、治療方針の立案、術式、使用器具および術後管理について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 間接修復法の選択基準について説明できる。
- 2) 各種間接修復法による臨床術式について説明できる。
- 3) 間接修復法の修復物装着に必要な処理材について説明できる。
- 4) 間接修復法における補修修復の手順と必要材料について説明できる。

キーワード

間接修復法 セラミックインレーの臨床術式 修復物の接着操作 補修修復

講義日	時限	国試出題基準
9月24日	3時限目	各論 III-03-イ, 各論 III-03-エ, 各論 III-03-カ

担当者名 平山聡司

一般目標 GIO: 歯の硬組織欠損に対して適切な接着修復を行うために、必要な検査、診断、治療方針の立案、臨床術式、必要な器材および術後管理について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯の欠損状態に応じた接着修復法を選択できる。
- 2) 齶蝕の除去法と用いる器具器材を説明できる。
- 3) 接着修復処置に必要な前準備とその器具について説明できる。
- 4) 接着修復法の臨床術式を説明できる。
- 5) 異種材料に対する接着前処理と必要な器材について説明できる。
- 6) 修復操作中に生じた偶発症とその対処法について説明できる。
- 7) 修復処置後に生じる臨床的問題点の原因とその対処法について説明できる。

キーワード

接着修復法 コンポジットレジン修復 修復前準備 補修修復 修復後の臨床的問題点

講義日	時限	国試出題基準
9月24日	4時限目	各論 III-09-イ, 各論 III-08-エ, 各論 III-08-カ, 各論 III-08-ケ, 各論 III-09-ウ, 各論 III-09-ケ

担当者名 中山洋平

一般目標 GIO: 適切な歯周治療を行うために、歯周疾患の診査・診断と治療計画の立案および歯周基本治療の内容・目的について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯周病の分類と特徴について説明できる。
- 2) 歯周病の治療計画について説明できる。
- 3) 歯周基本治療の内容と目的について説明できる。
- 4) 歯周治療におけるメンテナンスとSPTについて説明できる。
- 5) 咬合性外傷の診断・治療法について説明できる。
- 6) 歯内歯周病変の診断・治療法について説明できる。

キーワード

歯周基本治療 咬合性外傷 歯内歯周病変 SPT

講義日 時限 国試出題基準
9月25日 1時限目 各論 III-09-エ, 各論 III-09-カ, 各論 III-09-キ, 各論 III-08-ウ, 各論 III-08-エ

担当者名 中山洋平
一般目標 GIO: 適切な歯周治療を行うために, 根分岐部病変の治療および歯周外科治療について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 根分岐部病変の分類に対する治療法を説明できる。
- 2) 歯肉剥離搔爬術の適応および術式について理解する。
- 3) 歯周ポケット搔爬術の適応および術式について理解する。
- 4) 新付着術 (ENAP) の適応および術式について理解する。
- 5) 歯肉切除術の適応および術式について理解する。

キーワード

根分岐部病変 歯肉剥離搔爬術 歯周ポケット搔爬術 新付着術 (ENAP) 歯肉切除術

=====

講義日 時限 国試出題基準
9月25日 2時限目 各論 III-09-エ, 各論 III-09-オ, 各論 III-09-ケ, 各論 III-08-ク, 各論 III-08-ア, 各論 III-08-イ

担当者名 中山洋平
一般目標 GIO: 適切な歯周治療を行うために, 歯周組織再生誘導法および歯周形成手術について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 骨移植術の適応および術式について説明できる。
- 2) GTR 法の適応および術式について説明できる。
- 3) エナメルタンパクを用いた再生療法の適応および術式について説明できる。
- 4) 歯周形成手術の適応および術式について説明できる。

キーワード

骨移植術 GTR 法 エナメルタンパク 歯周形成手術

講義日 時限 国試出題基準
9月25日 3時限目 各論 III-02-イ, 各論 III-02-ウ, 各論 III-02-エ, 各論 III-02-オ, 各論 III-02-カ

担当者名 松島潔

一般目標 GIO: 歯髄・根尖歯周疾患の適切な診断と治療ができるようになるために、歯髄・根尖歯周疾患の症候、検査を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯髄・根尖歯周疾患の症候の変化を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖歯周疾患の主訴を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖歯周疾患の検査の意図を説明できる。
- 4) 歯髄・根尖歯周疾患の検査を選択できる。
- 5) 歯髄・根尖歯周疾患の診断プロセスを説明できる。
- 6) 歯髄・根尖歯周疾患の処置方針を説明できる。
- 7) 鑑別診断を説明できる。

キーワード

歯髄・根尖歯周疾患の症候の変化 歯髄・根尖歯周疾患の検査 歯髄・根尖歯周疾患の処置方針

講義日 時限 国試出題基準
9月25日 4時限目 各論 III-06-イ, 各論 III-06-ウ, 各論 III-06-エ, 各論 III-06-オ, 各論 III-06-カ, 各論 III-06-ス

担当者名 岡部達

一般目標 GIO: 歯髄・根尖性歯周疾患の適切な診療をするために、歯内療法の原則、術式、器具、材料を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯内療法の原則を説明できる。
- 2) 歯髄・根尖性歯周疾患の処置を選択できる。
- 3) 歯内療法の器具、材料を選択できる。
- 4) 歯内療法における高齢者に対する配慮を説明できる。
- 5) 顕微鏡を用いた歯内療法を説明できる。

キーワード

歯内療法の原則 歯内療法の術式 歯内療法の器具、材料 顕微鏡を用いた歯内療法

講義日 時限 国試出題基準
9月26日 1時限目 各論 III-06-キ, 各論 III-06-ク, 各論 III-06-ケ, 各論 III-06-コ, 各論 III-06-サ, 各論 III-06-シ

担当者名 神尾直人

一般目標 GIO: 歯髄・根尖性歯周組織疾患の適切な診療をするために、歯内療法の種類
の術式および特徴を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 根未完成歯の歯内療法を説明できる。
- 2) 再根管治療を説明できる。
- 3) 歯内一歯周疾患の治療を説明できる。
- 4) 内部吸収・外部吸収の治療を説明できる。
- 5) 外科的歯内療法を説明できる。
- 6) 歯内療法処置の偶発症とその予防を説明できる。

キーワード

根未完成歯の歯内療法 再根管治療 歯内一歯周疾患 歯根吸収 外科的歯内療法

講義日 時限 国試出題基準
9月26日 2時限目 各論 II-11-ア

担当者名 五関たけみ

一般目標 GIO: 適切な乳歯混合歯列期の矯正治療を行うために、顎顔面形態の特徴、診
断、治療開始時期および治療法について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 乳歯混合歯列期の治療目標を述べることができる。
- 2) 乳歯混合歯列期に用いる矯正装置を説明ができる。
- 3) 乳歯混合歯列期の治療計画を立案できる。
- 4) 早期治療について説明できる。

キーワード

治療計画の立案 非骨格性不正性咬合 骨格性不正咬合 早期治療

講義日 時限 国試出題基準
9月26日 3時限目 各論 II-11-イ

担当者名 五関たけみ

一般目標 GIO: 永久歯列期の矯正治療を適切に行うために必要な診断、治療方針および治療計画の立案について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 治療目標の設定ができる。
- 2) 抜歯部位の選択ができる。
- 3) 矯正治療中の管理について説明できる。

キーワード

永久歯列期 抜歯の判定 加强固定

講義日 時限 国試出題基準
9月26日 4時限目 各論 II-08-エ

担当者名 五関たけみ

一般目標 GIO: 顎変形症や先天異常を伴う患者の矯正治療を適切に行うために必要な診断、治療方針および治療計画の立案について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 術前矯正治療の目的を説明できる。
- 2) 適切な外科手術を選択できる。
- 3) 唇顎口蓋裂の特徴を説明できる。
- 4) 唇顎口蓋裂患者の治療の流れを説明できる。

キーワード

顎変形症 唇顎口蓋裂 外科的矯正治療

講義日	時限	国試出題基準
9月26日	5時限目	各論 I-01-キ, 各論 I-06-イ

担当者名 田口千恵子

一般目標 GIO: 歯科疾患の予防・管理のために齲蝕予防におけるフッ化物の応用, 口腔清掃法について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) フッ化物の全身応用法について説明できる。
- 2) フッ化物の局所応用法について説明できる。
- 3) 口腔清掃法について説明できる。
- 4) 歯磨き剤について説明できる。

キーワード

フッ化物洗口 フッ化物配合歯磨き剤 水道水フッ化イオン 口腔清掃法

講義日	時限	国試出題基準
9月27日	1時限目	各論 II-05-ウ, 必修-15-ス-a, 各論 II-05-イ, 各論 II-06-イ, 各論 IV-06-ア

担当者名 清水邦彦

一般目標 GIO: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の外傷、乳歯の抜歯、口腔粘膜疾患、咬合誘導について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 小児の外傷について説明できる。
- 2) 小児の抜歯について説明できる。
- 3) 小児の口腔粘膜疾患について説明できる。
- 4) 小児の咬合誘導について説明できる。

キーワード

小児歯科 外傷 抜歯 粘膜疾患 咬合誘導

講義日	時限	国試出題基準
9月27日	2時限目	各論 IV-15-ア, 各論 III-02-エ, 総論 V-03-ア

担当者名 清水邦彦

一般目標 GIO: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、歯の形成障害および小児疾患・症候群について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯の形成障害について説明できる。
- 2) 小児疾患・症候群とその口腔症状について説明できる。

キーワード

小児歯科 歯の形成障害 症候群

講義日	時限	国試出題基準
9月27日	3時限目	各論 III-01-ア, 各論 III-01-イ, 各論 III-03-ア, 各論 III-04-ア, 各論 III-04-イ, 各論 III-04-ウ, 各論 III-04-エ, 各論 I-01-オ

担当者名 岡本京

一般目標 GIO: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の齲蝕予防、歯冠修復、歯内療法、歯周疾患について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 小児の齲蝕予防について説明できる。
- 2) 小児の歯冠修復について説明できる。
- 3) 小児の歯内療法について説明できる。
- 4) 小児の歯周疾患について説明できる。

キーワード

小児 齲蝕予防 歯冠修復 歯内療法 歯周疾患

講義日 時限 国試出題基準
10月3日 1時限目 各論 V-02-カ, 各論 V-03-イ, 各論 V-03-ア, 各論 V-03-ウ, 各論 V-03-エ, 各論 V-05-イ, 各論 V-05-カ

担当者名 石井智浩

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 部分床義歯の診査方法について説明することができる。
- 2) 部分床義歯の診断について説明することができる。
- 3) 部分床義歯の治療計画について説明することができる。
- 4) 部分床義歯の口腔内前処置について説明することができる。
- 5) 部分床義歯の印象方法について説明することができる。

キーワード

診査 診断 前処置 治療計画 印象採得

講義日 時限 国試出題基準
10月3日 2時限目 各論 V-05-コ, 各論 V-05-ウ, 各論 V-05-キ, 各論 V-05-ク, 各論 V-05-ケ

担当者名 石井智浩

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 部分床義歯の作業模型の製作について説明することができる。
- 2) 部分床義歯のフレームワークの製作について説明することができる。
- 3) 人工歯の選択・排列・削合について説明できる。
- 4) 歯肉形成について説明できる。
- 5) 蠟義歯の試適について説明できる。

キーワード

義歯製作過程 人工歯排列 歯肉形成 蠟義歯試適

講義日	時限	国試出題基準
10月3日	3時限目	各論 V-05-ア, 各論 V-05-サ, 各論 V-05-シ, 各論 V-05-ス, 各論 V-05-セ

担当者名 石井智浩

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 部分床義歯の設計について説明することができる。
- 2) 部分床義歯の埋没方法を説明することができる。
- 3) 部分床義歯の重合方法を説明することができる。
- 4) 部分床義歯の咬合調整(削合)を説明することができる。
- 5) 部分床義歯の仕上げを説明することができる。
- 6) 部分床義歯の装着方法を説明することができる。
- 7) 部分床義歯の装着時の患者指導について説明することができる。

キーワード

義歯設計 埋没 重合 装着(調整方法) 患者指導

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月3日	4時限目	各論 V-01-ア

担当者名 木本統

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 全部床義歯の治療手順と使用器具を説明できる。
- 2) 旧義歯の床外形、人工歯排列位置、咬合面形態の問題点を説明できる。
- 3) 適合試験の結果を説明できる。
- 4) 全部床義歯の咬合診査方法を説明できる。

キーワード

全部床義歯 旧義歯 診査

講義日	時限	国試出題基準
10月6日	1時限目	各論 IV-11-コ-c, 各論 IV-11-コ-d, 各論 V-09-ア, 各論 V-09-ウ, 各論 V-09-エ

担当者名 飯島守雄

一般目標 GIO: 口腔周囲の癌治療や顎顔面の外傷治療、先天欠損による顎欠損を有する患者のQOL向上のために必要な知識・技能・態度を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 顎顔面に欠損を有する患者の背景を説明できる。
- 2) 顎顔面に欠損を有する患者の機能障害を説明できる。
- 3) 顎骨欠損の成因を説明できる。

キーワード

顎顔面欠損 補綴装置 機能回復

講義日	時限	国試出題基準
10月6日	2時限目	各論 IV-11-コ-c, 各論 IV-11-コ-d, 各論 V-09-ア, 各論 V-09-ウ, 各論 V-09-エ

担当者名 飯島守雄

一般目標 GIO: 口腔周囲の癌治療や顎顔面の外傷治療、先天欠損による顎欠損を有する患者のQOL向上のために必要な知識・技能・態度を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 顎顔面に欠損を有する患者の補綴方法を説明できる。

キーワード

顎顔面欠損 補綴装置 機能回復

講義日	時限	国試出題基準
10月6日	3時限目	各論 V-10-ウ, 各論 V-10-キ

担当者名 木本統

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 全部床義歯患者の顎堤に生じる粘膜病変を説明できる。
- 2) 全部床義歯の顎堤生じるトラブルを説明できる。
- 3) 義歯装着時の顔貌所見を説明できる。
- 4) 全部床義歯装着者の発音試験を説明できる。

キーワード

全部床義歯 口腔内診査 発音試験

講義日	時限	国試出題基準
10月6日	4時限目	各論 V-06-イ, 各論 V-06-ウ

担当者名 木本統

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 全部床義歯の印象採得に必要な解剖学的ランドマークを説明できる。
- 2) 動的印象を説明できる。
- 3) フレンジテクニックを説明できる。
- 4) 治療用義歯を説明できる。
- 5) 作業模型上で行うリリースおよびブロックアウトを説明できる。
- 6) 作業模型上で行う金属床義歯の技工手順を説明できる。

キーワード

全部床義歯 印象採得 作業模型

講義日	時限	国試出題基準
10月7日	1時限目	各論 V-10-キ, 各論 V-05-ス, 各論 V-06-サ

担当者名 林幸男, 伊藤誠康

一般目標 GIO: 無歯顎患者の損なわれた QOL の向上を図るために必要な義歯補綴による再建とリハビリテーションの知識・技能・態度を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 有床義歯装着後の疼痛に関する原因について述べることができる。
- 2) 有床義歯装着後の発音障害に関する原因について述べることができる。
- 3) 有床義歯装着後の維持不良に関する原因について述べることができる。
- 4) 有床義歯装着後の誤咬に関する原因について述べることができる。
- 5) 有床義歯装着後の嚥下障害に関する原因について述べることができる。
- 6) 有床義歯装着後の嘔吐反射に関する原因について述べることができる。
- 7) 有床義歯装着後の患者指導について述べることができる。

キーワード

部分床義歯 全部床義歯 術後の問題 術後問題の原因 術後問題の解決

講義日	時限	国試出題基準
10月7日	2時限目	各論 V-04-ク, 各論 V-05-エ, 各論 V-04-ケ, 各論 V-05-オ

担当者名 伊藤誠康, 田中孝明, 伊藤誠康

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態と機能の回復を図るために必要な補綴臨床における咬合採得法を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 残存歯の咬合状態から咬合の安定度を測ることができる。
- 2) 咬合採得法の種類と特徴を述べることができる。
- 3) 支台歯形成後の咬合支持の状態から適切な咬合採得法を選択できる。
- 4) 歯の欠損状態から適切な咬合採得法を選択できる。
- 5) 少数歯あるいは多数歯欠損の咬合採得法を説明できる。
- 6) すれ違い咬合の咬合採得を説明することができる。
- 7) 咬合器付着と咬合器のプログラミングについて説明することができる。
- 8) 咬合床を用いた咬合採得について説明できる。

キーワード

咬合採得 少数歯・多数歯欠損 すれ違い咬合 咬合器 咬合床

講義日	時限	国試出題基準
10月7日	3時限目	各論 V-06-エ, 各論 V-06-オ, 各論 V-06-カ

担当者名 木本統

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 両側性咬合平衡を説明できる。
- 2) クリステンセン氏現象を説明できる。
- 3) ハノーの5要素を説明できる。
- 4) 片側性咬合平衡を説明できる。
- 5) 歯槽頂線の法則と歯槽頂間線の法則を説明できる。
- 6) 交叉咬合排列を説明できる。

キーワード

全部床義歯 咬合

講義日	時限	国試出題基準
10月7日	4時限目	各論 V-06-エ

担当者名 木本統

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 咬合平面の設定方法を説明できる。
- 2) 咬合高径の設定方法を説明できる。
- 3) ゴシックアーチ描記法を説明できる。
- 4) フェースボウトランスファーを説明できる。
- 5) 咬合器のプログラミングを説明できる。
- 6) シングルデンチャーの咬合採得を説明できる。
- 7) 下顎法による咬合平面の設定を説明できる。
- 8) 転覆試験を説明できる。

キーワード

全部床義歯 咬合採得 咬合器のプログラミング

講義日 時限 国試出題基準
10月8日 1時限目 各論 V-10-ウ

担当者名 林幸男, 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 無歯顎患者の損なわれた QOL の向上を図るために必要な義歯補綴による
再建とリハビリテーションの知識・技能・態度を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 有床義歯装着に起因する粘膜病変を列記することができる。
- 2) 褥瘡性潰瘍の原因と治療法を述べることができる。
- 3) フラビーガムの原因と治療法を述べることができる。
- 4) 義歯性線維症の原因と治療法を述べることができる。
- 5) 義歯性口内炎の原因と治療法を述べることができる。

キーワード

有床義歯 粘膜病変 顎顔面補綴

講義日 時限 国試出題基準
10月8日 2時限目 各論 V-10-ア, 各論 V-10-ウ, 各論 V-10-エ, 各論 V-10-カ, 各論 V-10-キ

担当者名 林幸男

一般目標 GIO: 無歯顎患者の損なわれた QOL の向上を図るために必要な義歯補綴による
再建とリハビリテーションの知識・技能・態度を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 無歯顎顎堤の生理的吸収への対応について説明することができる。
- 2) 無歯顎顎堤の秒的吸収への対応について説明することができる。
- 3) 義歯床下粘膜の変化への対応について説明することができる。
- 4) 全部床義歯の咬合の変化への対応について説明することができる。
- 5) 人工歯の変化を列挙することができる。
- 6) 中心咬合位の変化について説明することができる。
- 7) 全部床義歯装着後の患者指導について述べることができる。

キーワード

全部床義歯 術後トラブル 術後トラブルの原因 術後トラブルの解決

講義日	時限	国試出題基準
10月8日	3時限目	各論 V-02-エ, 各論 V-02-ア, 各論 V-02-イ, 各論 V-02-カ

担当者名 後藤治彦

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) クラウンブリッジにおける診査・診断を行うことができる。
- 2) クラウンブリッジに対する治療計画を立案することができる。
- 3) クラウンブリッジにおける診断模型の分析を行うことができる。
- 4) 前処置の目的と具体的な方法を述べることができる。

キーワード

診査 診断 治療計画 前処置

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月8日	4時限目	各論 V-04-カ

担当者名 後藤治彦

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) クラウンブリッジにおける診査・診断を行うことができる。
- 2) クラウンブリッジに対する治療計画を立案することができる。
- 3) クラウンブリッジにおける診断模型の分析を行うことができる。
- 4) 前処置の目的と具体的な方法を述べることができる。
- 5) 印象採得の術式と特徴を述べることができる。
- 6) クラウンブリッジの試適調整の手順を具体的に述べることができる。
- 7) 合着の手順を具体的に述べることができる。

キーワード

印象採得 作業模型 試適 仮着 合着

講義日	時限	国試出題基準
10月9日	1時限目	各論 V-08-オ

担当者名 玉木大之

一般目標 GIO: 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) インプラント外科処置における合併症について説明できる。

キーワード

インプラント インプラント治療 インプラント治療の合併症

講義日	時限	国試出題基準
10月9日	2時限目	各論 IV-08-コ, 各論 IV-08-カ, 各論 IV-08-キ, 各論 IV-08-ク, 各論 IV-08-ケ

担当者名 北川剛至, 村上洋

一般目標 GIO: 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) インプラントの補綴術式を説明できる。
- 2) インプラントの補綴的合併症を説明できる。
- 3) インプラントの上部構造の種類を説明する。

キーワード

上部構造の破損 上部構造の印象採得 上部構造の咬合採得

講義日	時限	国試出題基準
10月9日	3時限目	各論 V-06-カ, 各論 V-06-ケ

担当者名 木本統

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 全部床義歯の排列の限界を説明できる。
- 2) I級・II級・III級排列を説明できる。
- 3) アメリカ法埋没とフランス法埋没について説明できる。

キーワード

全部床義歯 排列 埋没

講義日	時限	国試出題基準
10月9日	4時限目	各論 V-06-サ, 各論 V-10-キ

担当者名 木本統

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 咬合採得の誤まりの原因を説明できる。
- 2) 咬合採得の誤りと義歯装着者に生じる痛みを関連付けることができる。
- 3) 咬合採得の誤りと義歯の脱離を関連付けることができる。
- 4) リマウントの意義を説明できる。
- 5) スプリットキャスト法とテンチのコア法によるリマウントの違いを説明できる。
- 6) 直接リラインと間接リラインの違いを説明できる。
- 7) リラインの技工操作を説明できる。

キーワード

全部床義歯 術後管理 リマウント リライン

講義日 時限 国試出題基準
10月10日 1時限目 各論 V-03-キ

担当者名 田中孝明, 林幸男, 谷本安浩

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態と機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) クラウン装着後の破損の原因を述べることができる。
- 2) 前装冠破損の原因を推測することができる。
- 3) 前装冠破損の修理方法について述べることができる。
- 4) 有床義歯の破損の原因を述べることができる。
- 5) 有床義歯の破損の修理方法について述べることができる。
- 6) 補綴物の破損に関する理工学的特性を述べることができる。

キーワード

クラウンの破損 ブリッジの破損 有床義歯の破損

講義日 時限 国試出題基準
10月10日 2時限目 各論 IV-01-イ

担当者名 飯田崇

一般目標 GIO: 適切な高齢者の口腔管理を行うために、高齢者の口腔管理方法、摂食・嚥下障害の検査と対応について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 高齢者の口腔管理について説明できる。
- 2) 摂食・嚥下機能について説明できる。
- 3) 高齢者における摂食・嚥下障害の原因について説明できる。
- 4) 摂食・嚥下障害の検査について説明できる。
- 5) 摂食・嚥下障害への対応について説明できる。
- 6) 高齢者の栄養管理について説明できる。

キーワード

高齢者 口腔管理 摂食・嚥下障害 栄養管理

講義日 時限 国試出題基準
10月10日 3時限目 各論 V-03-ア

担当者名 田中孝明

一般目標 GIO: 損なわれた顎口腔系の形態と機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) クラウンブリッジにおける診査・診断を行うことができる
- 2) 支台築造の適応を選択し、具体的な手順を述べることができる。
- 3) 各種支台装置に対する支台歯形成の特徴と手順を述べることができる

キーワード

診査・診断 治療計画 支台築造 支台歯形成

講義日 時限 国試出題基準
10月15日 1時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 伊藤耕

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日	時限	国試出題基準
10月15日	2時限目	各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 伊藤耕

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日	時限	国試出題基準
10月15日	3時限目	総論 IX-02-シ

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO: 顎顔面領域の適切な画像検査を行うために、画像解剖の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 画像解剖について説明できる。

キーワード

画像解剖

講義日 時限 国試出題基準
10月15日 4時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 青木暁宣, 小椋一朗, 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月16日 1時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-12-ク, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-05-ア

担当者名 西村均, 久山佳代

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月16日 2時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 西村均, 久山佳代

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月16日 3時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 西村均, 小椋一朗, 久山佳代

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月16日 4時限目 各論 IV-19-ア, 各論 IV-19-イ, 各論 IV-19-ウ, 各論 IV-19-エ, 総論 X-10-キ

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 安全で適切な患者管理を行うために、全身麻酔法の実際、特に気道管理困難、悪性高熱症について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 全身麻酔施行にあたって注意すべき項目について説明することができる。
- 2) 挿管困難の基準について説明することができる。
- 3) 挿管困難症例での挿管方法について説明することができる。
- 4) 悪性高熱症の原因について説明することができる。
- 5) 悪性高熱症発症時の対応について説明することができる。
- 6) 酸素療法について説明することができる。

キーワード

全身麻酔法 患者管理 挿管困難 悪性高熱症 危機管理

講義日 時限 国試出題基準
10月16日 5時限目 各論 IV-13-ス, 各論 IV-13-ア, 各論 IV-13-ク, 各論 IV-13-コ, 各論 IV-13-シ, 総論 X-10-ア, 総論 X-10-オ

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 疼痛管理、麻痺疾患管理を適切に行うために、疼痛管理方法の実際、神経ブロック療法、理学療法について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 顎顔面領域の疼痛疾患について説明することができる。
- 2) 顎顔面領域の麻痺性疾患について説明することができる。
- 3) 痛みの悪循環について説明することができる。
- 4) 星状神経節ブロックについて説明することができる。
- 5) 星状神経節ブロックの適応疾患について説明することができる。
- 6) 星状神経節ブロックの合併症とその対応について説明することができる。
- 7) 物理療法について説明することができる。
- 8) 運動療法について説明することができる。
- 9) 光線療法について説明することができる。
- 10) 癌性疼痛の治療法について説明することができる。

キーワード

疼痛性疾患 麻痺性疾患 星状神経節ブロック 理学療法 ペインコントロール

講義日 時限 国試出題基準
10月17日 1時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 高橋康輔, 金田隆, 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月17日 2時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 高橋康輔, 金田隆, 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月17日 3時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 伊藤耕, 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月17日 4時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 萩原美緒, 小椋一朗, 久山佳代

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月17日 5時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 萩原美緒, 小椋一朗, 久山佳代

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月18日 1時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 池谷美和, 小椋一朗, 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月18日 2時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 池谷美和, 小椋一朗, 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月18日 3時限目 各論 IV-14-サ

担当者名 内田貴之

一般目標 GIO: 顎関節症に対する診断および治療計画立案ができるようになるために、顎関節症の病態にあわせた治療方針を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯科疾患と顎関節疾患とを鑑別できる。
- 2) 顎関節症における画像診断結果を説明できる。
- 3) 顎関節症の承継分類について説明できる。
- 4) 各症型における病態の特徴を説明できる。
- 5) 各症型に対する治療方針を説明できる。

キーワード

顎関節 顎関節症 症型分類

講義日 時限 国試出題基準
10月20日 1時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 近藤壽郎, 金田隆, 久山佳代

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

診断 治療

講義日 時限 国試出題基準
10月20日 2時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 小宮正道, 金田隆, 久山佳代

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月20日 3時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-05-ア, 各論 IV-06-ア, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-12-ク

担当者名 小宮正道, 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 2) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 3) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する奇形・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

キーワード

口腔疾患 診断 治療法

講義日 時限 国試出題基準
10月20日 4時限目 各論 IV-04-エ, 各論 IV-04-カ, 各論 IV-10-ア, 各論 IV-10-ウ, 各論 IV-11-ア, 各論 IV-11-ウ, 各論 IV-11-エ, 各論 IV-12-ツ

担当者名 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 正確な病理診断を行うために、口腔・顎・顔面領域の嚢胞、腫瘍及び腫瘍類似疾患の病態について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 軟組織に発生する嚢胞の病理組織学的特徴について説明できる。
- 2) 顎骨内に発生する嚢胞の病理組織学的特徴について説明できる。
- 3) 口腔・顎・顔面領域に発生する腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。
- 4) 腫瘍類似疾患の病理組織学的特徴について説明できる。

キーワード

嚢胞 腫瘍 腫瘍類似疾患 病理組織学的特徴 確定診断

講義日 時限 国試出題基準
10月20日 5時限目 各論 IV-06-チ, 各論 IV-06-ヌ, 各論 IV-11-キ, 各論 IV-15-ウ, 各論 IV-12-キ, 各論 IV-12-コ, 各論 IV-15-サ, 各論 IV-15-タ

担当者名 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 正確な病理診断を行うために、口腔・顎・顔面領域の非腫瘍性疾患及びこの領域に症状を伴う系統疾患に関する病理学的特徴について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔粘膜疾患の病理組織学的特徴について説明できる。
- 2) 顎骨の非腫瘍性疾患の病理組織学的特徴について説明できる。
- 3) 唾液腺の非腫瘍性疾患の病理組織学的特徴について説明できる。
- 4) 口腔・顎・顔面領域に症状を伴う全身疾患や先天異常の病理学的特徴について説明できる。

キーワード

口腔粘膜疾患 顎骨の非腫瘍性疾患 唾液腺の非腫瘍性疾患 系統疾患 先天異常

講義日 時限 国試出題基準
10月25日 1時限目 必修-11-カ-b, 必修-11-カ-a, 必修-14-ア-a

担当者名 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 歯科医療に必要不可欠な基本的事項を理解するために、病理検査の基本について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 病理検査の意義について説明できる。
- 2) 病理検査法を列挙できる。
- 3) 病理組織検査の種類と術式について説明できる。
- 4) 細胞診の種類と術式について説明できる。
- 5) 病理組織診と細胞診の特色を比較し、相違点について説明できる。

キーワード

病理検査 病理組織診 細胞診 病理検査法 病理診断学

講義日	時限	国試出題基準
10月25日	2時限目	必修-14-ア-a, 必修-11-カ-a, 必修-11-カ-b

担当者名 宇都宮忠彦

一般目標 GIO: 歯科医療に必要不可欠な基本的事項を理解するために、主要な疾患の病因・病態について学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 6大病変及びその疾患概念について説明できる。
- 2) 歯・口腔・顎・顔面疾患の病因について説明できる。

キーワード

病因・病態 疾患概念 6大病変 歯・口腔・顎・顔面疾患 病因論

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月25日	3時限目	必修-15-マ-a, 必修-15-マ-b, 必修-15-マ-c, 必修-15-マ-d, 必修-15-マ-e, 必修-15-マ-f, 必修-15-マ-g, 必修-15-マ-h

担当者名 谷本安浩

一般目標 GIO: 歯科材料を適切に使用するために、その基礎的な性質を学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 印象材の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 模型材の種類、組成および性質について説明できる。
- 3) 成形修復材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 4) 合着用セメントの種類、組成および性質について説明できる。
- 5) 義歯用材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 6) 予防填塞材の種類、組成および性質について説明できる。
- 7) 歯内療法用材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 8) 切削・研削・研磨用材料の種類、組成および性質について説明できる。

キーワード

印象材 模型材 修復用材料 合着用セメント 義歯用材料

講義日 時限 国試出題基準

10月27日 1時限目 必修-15-ホ-b, 必修-13-ア-b, 必修-13-ア-e, 必修-09-ア-a, 必修-10-オ-b, 必修-10-オ-c, 各論 IV-17-ア

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 全身疾患(主として呼吸器疾患)患者に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 拘束性肺疾患の病態を説明することができる。
- 2) 閉塞性肺疾患(喘息)の病態を説明することができる。
- 3) 閉塞性肺疾患(喘息)の全身管理(救急処置を含む)について説明することができる。
- 4) 喘息様症状を呈する病態(主としてアナフィラキシー)とその救急処置について説明することができる。
- 5) 医薬品・医療用具の副作用について説明することができる。
- 6) 薬物の投与方法(注射法)について説明することができる。

キーワード

呼吸器疾患 閉塞性肺疾患 拘束性肺疾患 アナフィラキシー

講義日 時限 国試出題基準

10月27日 2時限目 必修-15-ホ-b, 必修-13-ア-b, 必修-13-ア-a, 必修-09-ア-a, 必修-10-オ-c, 各論 IV-17-イ, 必修-15-ケ-b, 必修-15-ケ-c

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 全身疾患(主として高血圧症)患者に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) バイタルサインについて説明することができる。
- 2) 血圧について説明することができる。
- 3) 脈拍について説明することができる。
- 4) 高血圧症の病態、全身管理(救急処置を含む)について説明することができる。
- 5) 循環器疾患患者での局所麻酔時の注意点について説明することができる。
- 6) 薬物の投与方法(注射法)について説明することができる。

キーワード

バイタルサイン 高血圧症 患者管理 歯科用局所麻酔薬

講義日 時限 国試出題基準
10月27日 3時限目 必修-02-ア-a, 必修-02-ア-b, 必修-02-ア-c, 必修-02-ア-d, 必修-02-ア-e, 必修-02-ア-f, 必修-02-ア-g, 必修-02-イ-a

担当者名 有川量崇

一般目標 GIO: 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な歯科医療の社会的背景の知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 疾病・障害の概念・構造について説明できる。
- 2) QOLについて説明できる。
- 3) リハビリテーションの理念について説明できる。
- 4) ノーマライゼーション、バリアフリーについて説明できる。
- 5) 患者・障害者の心理と態度について説明できる。
- 6) 国際生活機能分類<ICF>について説明できる。
- 7) ニーズとディマンズについて説明できる。
- 8) 健康意識・疾病構造について説明できる。

キーワード

疾病・障害の概念・構造 ノーマライゼーション、バリアフリー 国際生活機能分類<ICF>
健康意識・疾病構造

講義日 時限 国試出題基準
10月27日 4時限目 必修-02-イ-b, 必修-02-ウ-a, 必修-02-ウ-b, 必修-02-ウ-c, 必修-02-ウ-e, 必修-02-ウ-f, 必修-02-エ-a, 必修-02-エ-b

担当者名 有川量崇

一般目標 GIO: 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な保健・医療・福祉・介護の制度の知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 国民医療費について説明できる。
- 2) 歯科医師法について説明できる。
- 3) 歯科衛生士法について説明できる。
- 4) 歯科技工士法について説明できる。
- 5) 医療法について説明できる。
- 6) 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種について説明できる。
- 7) 地域歯科保健活動での各職種の連携に関する制度について説明できる。
- 8) GCPについて説明できる。
- 9) 臨床研究、疫学研究の倫理指針について説明できる。

キーワード

国民医療費 医療法 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種 地域歯科保健活動での各職種の連携 臨床研究、疫学研究の倫理指針

講義日 時限 国試出題基準

10月27日 5時限目 必修-15-ヒ-a, 必修-15-ヒ-c, 必修-15-ヒ-e, 必修-15-ヒ-h, 必修-15-ヒ-i, 必修-15-ヒ-j, 必修-15-ヒ-k, 必修-09-エ-a

担当者名 山根潤一

一般目標 GIO: 薬物療法を理解するために、薬理学の基本的事項に関する知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 薬理作用について説明できる。
- 2) 薬物動態について説明できる。
- 3) 薬物の作用部位について説明できる。
- 4) 薬物の併用について説明できる。
- 5) 薬物の副作用・有害作用について説明できる。
- 6) 薬物投与上の注意について説明できる。
- 7) 薬物の保管・管理について説明できる。

キーワード

薬理作用 薬物動態 薬物の作用部位 薬物の副作用 薬物投与上の注意

=====

講義日 時限 国試出題基準

10月28日 1時限目 必修-06-イ-e, 必修-06-イ-a, 必修-06-イ-b, 必修-06-イ-d, 必修-06-イ-f, 必修-06-イ-g, 必修-06-イ-h

担当者名 近藤信太郎

一般目標 GIO: 頭頸部の構造を理解するために、頭頸部の各器官系の構造を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 頭蓋骨の構造が説明できる。
- 2) 頭頸部の筋の構造を説明できる。
- 3) 脳神経の分布を説明できる。
- 4) 外頸動脈の分布を説明できる。
- 5) 口腔内臓の構造を説明できる。

キーワード

頭蓋骨 咀嚼筋 脳神経 外頸動脈 口腔

講義日 時限 国試出題基準
10月28日 2時限目 必修-06-ア-c, 必修-06-イ-a, 総論 III-01-オ, 総論 IV-02-カ, 総論 IV-04-カ

担当者名 岡田裕之
一般目標 GIO: 上皮組織を理解する。

到達目標 SBOs:
1) 上皮の種類とその特徴を説明できる。
2) 口腔粘膜上皮の種類とその特徴を説明できる。
3) 唾液腺の種類とその特徴を説明できる。

キーワード
上皮 口腔粘膜上皮 唾液腺

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月28日 3時限目 必修-15-ホ-b, 必修-13-ア-a, 必修-13-ア-b, 必修-13-ア-c, 必修-13-ア-d, 必修-13-ア-e, 各論 IV-19-ウ, 総論 VII-01-ア

担当者名 下坂典立
一般目標 GIO: 全身疾患（主として虚血性心疾患）患者に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標 SBOs:
1) 心電図について説明することができる。
2) 虚血性心疾患について説明することができる。
3) 心筋虚血時の心電図所見について説明することができる。
4) 虚血性心疾患の病態、全身管理（救急処置を含む）について説明することができる。
5) 虚血性心疾患患者での有用なモニタについて説明することができる。
6) 抗血栓薬について説明することができる。
7) 精神鎮静法について説明することができる。
8) 注射法について説明することができる。

キーワード
循環器疾患 虚血性心疾患 心電図 抗血栓薬 患者管理

講義日 時限 国試出題基準
10月28日 4時限目 必修-15-ホ-b, 必修-14-ア-k, 各論 IV-17-オ, 各論 IV-17-カ, 各論 IV-17-ク, 各論 IV-17-コ, 総論 VII-01-キ, 総論 VII-01-ケ

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 全身疾患（神経疾患・脳血管障害、精神疾患、膠原病）患者に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) Parkinson 病について説明することができる。
- 2) うつについて説明することができる。
- 3) 統合失調症について説明することができる。
- 4) 神経疾患・脳血管障害患者の局所麻酔施行時の注意点について説明することができる。
- 5) 膠原病について説明することができる。
- 6) ステロイド薬内服患者の注意点について説明することができる。

キーワード

神経疾患 脳血管障害 膠原病 ステロイド薬

講義日 時限 国試出題基準
10月28日 5時限目 必修-04-イ-c, 必修-04-イ-d, 必修-04-ウ-a, 必修-17-ア, 必修-17-イ

担当者名 下坂典立

一般目標 GIO: 患者および医療者の安全に適切に対応できるようになるために、医療事故の防止及び全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 患者および医療者の安全について説明することができる。
- 2) 誤飲・誤嚥およびその対処法について説明することができる。
- 3) 院内感染対策について説明することができる。
- 4) 基本的な医学史について説明することができる。
- 5) 基本的な歯学史について説明することができる。

キーワード

歯科医療の安全確保 患者の安全 医療者の安全 医学史 歯学史

講義日 時限 国試出題基準
10月29日 1時限目 必修-06-ア-b, 必修-06-ア-c, 必修-06-ア-d, 必修-06-ア-e

担当者名 加藤治

一般目標 GIO: 生理学の基本的知識を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 血圧調節と、神経伝達物質について説明できる。
- 2) 血糖値と体液量調節に関わるホルモンを列挙できる。
- 3) 血漿と血清の違いを説明できる。
- 4) 興奮収縮連関を説明できる。
- 5) 過換気症候群について説明できる。

キーワード

循環 呼吸 血液 興奮性細胞 内分泌

講義日 時限 国試出題基準
10月29日 2時限目 必修-06-ア-d, 必修-06-ア-a, 必修-06-ア-b, 必修-06-イ-b, 必修-06-ウ-c, 必修-06-エ-c, 必修-06-エ-d, 必修-11-ウ-c

担当者名 平塚浩一

一般目標 GIO: 人体の正常構造や機能を理解するために生化学的な基本知識を学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 生命を構成する基本物質を説明できる。
- 2) 消化や代謝を説明できる。
- 3) 細胞の構造と機能を説明できる。
- 4) ペリクルやプラークの構成と特徴を説明できる。
- 5) う蝕の基本的な代謝産物を説明できる。
- 6) 歯の硬組織成分の大枠を説明できる。
- 7) 血液成分とその機能を説明できる。
- 8) 遺伝子や染色体を説明できる。

キーワード

細胞 代謝 硬組織 唾液 血液

講義日 時限 国試出題基準
10月29日 3時限目 必修-06-エ-a, 必修-06-エ-d, 必修-15-ク-a

担当者名 栗原紀子

一般目標 GIO: 口腔領域の宿主との関わりを理解するために、微生物の基本的知識を得る。

到達目標 SBOs:

- 1) 口腔常在微生物叢を説明できる。
- 2) プラーク形成過程を説明できる。
- 3) 感染防御機構に対抗する機序について説明できる。

キーワード

口腔常在菌 バイオフィルム 免疫回避機構

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月29日 4時限目 必修-06-ア-f, 必修-11-ウ-d

担当者名 落合智子

一般目標 GIO: 人体の正常構造・機能としての免疫を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 自然免疫を説明できる。
- 2) 獲得免疫を説明できる。
- 3) 免疫血清学検査を説明できる。

キーワード

自然免疫 体液性免疫 細胞性免疫 免疫学的診断・検査

講義日	時限	国試出題基準
10月29日	5時限目	必修-02-ア-d, 必修-02-ア-f, 必修-15-ホ-b, 必修-15-ヘ-a

担当者名 野本たかと

一般目標 GIO: 障害者, 高齢者の歯科治療ならびに摂食・嚥下リハビリテーションを行うための必要事項を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 障害の概念・構造が述べられる。
- 2) ノーマライゼーションについて述べられる。
- 3) 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化が述べられる。
- 4) 口腔のリハビリテーションについて述べられる。
- 5) 脳血管疾患による摂食・嚥下機能障害を説明できる。

キーワード

障害者 高齢者 リハビリテーション 摂食機能障害 嚥下障害

講義日	時限	国試出題基準
10月30日	1時限目	必修-07-ア-a

担当者名 清水邦彦

一般目標 GIO: 小児の発育を考慮した小児歯科治療を実践するために、小児の身体的・精神的発育を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 小児の発育を説明できる。
- 2) 身体発育の特徴を説明できる。
- 3) 身体成長と精神発達の評価法を説明できる。
- 4) 小児の生理的特徴を説明できる。

キーワード

小児歯科 成長発育 生理的特徴

講義日 時限 国試出題基準
10月30日 2時限目 必修-07-イ-a, 必修-15-カ-c

担当者名 清水邦彦

一般目標 GIO: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の歯、歯列の発育および小児への歯科的対応について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯の発育時期を説明できる。
- 2) 歯齢を説明できる。
- 3) 歯列の発育について説明できる。
- 4) 小児の対応法を説明できる。

キーワード

小児歯科 歯の発生 歯列の発育 対応法

講義日 時限 国試出題基準
10月30日 3時限目 必修-07-イ-b, 必修-07-ア-e, 総論 V-04-ア, 総論 V-04-イ, 総論 V-04-ウ

担当者名 五関たけみ

一般目標 GIO: 口腔・顎・顔面の成長発育を考慮した矯正治療を実践するために、頭蓋・顎・顔面の成長パターンおよび成長発育の評価法を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 成長スパートの予測について説明できる。
- 2) 生理的年齢について説明できる。
- 3) 頭蓋の成長発育を説明できる。
- 4) 鼻上顎複合体の成長発育の特徴を説明できる。
- 5) 下顎骨の成長発育の特徴を説明できる。

キーワード

Scammon の臓器発育曲線 生理的年齢 顎顔面頭蓋 鼻上顎複合体 下顎骨

講義日 時限 国試出題基準
10月30日 4時限目 必修-05-ア-c, 必修-08-ア-a, 必修-08-イ-a, 必修-08-ウ-a

担当者名 多田充裕

一般目標 GIO: 適切な診療をするために、診療録・診療情報および医療面接に関する基本的事項を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) SOAPについて説明できる。
- 2) 医療面接の意義・目的について説明できる。
- 3) 医療面接のマナーについて説明できる。
- 4) 感情面の対応について説明できる。

キーワード

医療面接 診療録 診療情報

講義日 時限 国試出題基準
10月30日 5時限目 必修-11-ウ-c, 必修-11-ウ-b, 必修-11-ウ-d

担当者名 福本雅彦

一般目標 GIO: 各疾患の検査データを理解するために、臨床検査に多用される検査項目の意義と基準値を学習する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯科医師国家試験の出題時に基準値の記載がされない項目の基準値を正確に述べることができる。
- 2) 臨床検査項目の中で過去の歯科医師国家試験において複数回、問題文および選択肢におげられた検査項目の意義を述べることができる。

キーワード

臨床検査 基準値

講義日 時限 国試出題基準
10月31日 1時限目 必修-01-ア-a

担当者名 後藤田宏也

一般目標 G I O : 良き歯科医師となるために、患者の人権、医の倫理、社会および歯科医療について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 医の倫理と生命倫理について説明できる。
- 2) 歯科医師と患者・家族との関係について説明できる。

キーワード

医の倫理 生命倫理 歯科医師

講義日 時限 国試出題基準
10月31日 2時限目 必修-03-ア-e

担当者名 後藤田宏也

一般目標 G I O : 適切な歯科医療を行うために、予防と健康管理・増進の重要性を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 健康増進と疾病予防について説明できる。
- 2) 地域保健について説明できる。
- 3) 母子保健について説明できる。
- 4) 学校保健について説明できる。
- 5) 産業保健について説明できる。
- 6) 成人保健・老人保健について説明できる。
- 7) フッ化物の応用について説明できる。
- 8) 保健指導について説明できる。
- 9) 口腔清掃について説明できる。
- 10) 口腔のケアについて説明できる。

キーワード

予防管理 地域保健 フッ化物の応用 保健指導 口腔清掃

講義日 時限 国試出題基準
10月31日 3時限目 必修-04-ア-a

担当者名 後藤田宏也

一般目標 GIO: 適切な歯科医療を行うために、歯科医療の質、安全の確保、診療情報の利用および患者記録の管理方法の重要性を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 医療の質の確保について説明できる。
- 2) 医療事故の防止について説明できる。
- 3) 医療裁判について説明できる。

キーワード

医療の質の確保 医療事故 医療裁判

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月31日 4時限目 必修-14-ア-1

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO: 歯科医師として適切な治療および管理を行うために、放射線の影響の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 放射線の影響を説明できる。

キーワード

放射線の影響

講義日	時限	国試出題基準
10月31日	5時限目	必修-11-オ-a

担当者名 小椋一朗

一般目標 GIO: 歯科医師として適切な治療および管理を行うために、画像検査の必要な知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 画像検査を説明できる。

キーワード

画像検査

=====

講義日	時限	国試出題基準
11月1日	1時限目	必修-15-ス-a, 必修-15-サ-a, 必修-15-サ-b, 必修-15-サ-c

担当者名 西村均

一般目標 GIO: 安全な歯科治療を行なうために、必要な診療のための基本的知識、技能、診査や検査の解釈を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 治療の基礎・基本手技を説明できる。
- 2) 抜歯の術式を説明できる。
- 3) 抜歯の偶発症を説明できる。

キーワード

抜歯 偶発症 抜歯器具

講義日	時限	国試出題基準
11月1日	2時限目	必修-15-サ-a, 必修-15-サ-b, 必修-15-サ-c, 必修-15-シ-a

担当者名 西村均

一般目標 GIO: 安全な歯科治療を行なうために、必要な診療のための基本的知識、技能、診査や検査の解釈を習得する。創傷の処置・処理を説明できる。

到達目標 SBOs:

- 1) 膿瘍の処置を説明できる。
- 2) 膿瘍切開の手順を説明できる。
- 3) 膿瘍切開の目的を説明できる。

キーワード

創傷 膿瘍 切開排膿

=====

講義日	時限	国試出題基準
11月1日	3時限目	必修-03-ク-d

担当者名 坂巻達夫

一般目標 GIO: 生活習慣病を理解するために、メタボリックシンドローム、肥満、食生活、喫煙、飲酒の状態と影響力を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 生活習慣病に含まれる疾患を説明できる。
- 2) メタボリックシンドロームの診断基準を説明できる。
- 3) 肥満の病体について説明できる。
- 4) 食生活の変遷を説明できる。
- 5) 喫煙の危険性について説明できる。
- 6) 飲酒の功罪について説明できる。

キーワード

生活習慣病 メタボリックシンドローム 肥満

講義日 時限 国試出題基準
11月4日 1時限目 必修-09-イ-b, 必修-10-ウ-a, 必修-10-ウ-b, 必修-11-エ-a, 必修-14-イ-a, 必修-15-ソ-a, 必修-17-イ, 必修-17-ウ

担当者名 神谷直孝

一般目標 GIO: 適切な歯科治療が行えるようになるために、診療の基本となる診療体位、歯の検査法、齲蝕治療の基本術式、歯の切削法、接着術式および歯科保存領域で使用する器具の正しい取扱いについて修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 処置内容と患者の状態に適した診療体位を選択できる。
- 2) 歯の欠損の診断に必要な検査法を選択できる。
- 3) 歯の切削に関する基本的術式について説明できる。
- 4) 齲蝕の特徴について説明できる。
- 5) 齲蝕の除去に用いる器材、切削具、薬剤について説明できる。
- 6) 接着修復の基本的術式について説明できる。
- 7) 保存修復領域で使用する歯科英語について説明できる。
- 8) 医学・医療に関する一般教養的知識について説明できる。

キーワード

診療体位 グラスアイオノマーセメント修復 切削用器具 接着技法 医学・医療に関する一般教養的知識

講義日 時限 国試出題基準
11月4日 2時限目 必修-14-イ-b, 必修-14-イ-c, 必修-15-タ-a, 必修-15-チ-a, 必修-15-マ-h

担当者名 松島潔

一般目標 GIO: 歯髄・根尖歯周疾患の適切な診断と治療ができるようになるために、歯内療法の基本的事項を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯髄・根尖歯周疾患を説明できる。
- 2) 歯髄疾患に基本的術式を説明できる。
- 3) 感染根管治療の基本的術式を説明できる。
- 4) 歯内療法で用いる材料を説明できる。

キーワード

歯髄・根尖歯周疾患 歯髄疾患の治療 感染根管治療 歯内療法で用いる材料

講義日 時限 国試出題基準

11月4日 3時限目 必修-06-ウ-a, 必修-06-ウ-c, 必修-06-ウ-e, 必修-09-イ-c, 必修-09-イ-d, 必修-11-イ-a, 必修-11-イ-b

担当者名 松島潔

一般目標 GIO: 歯髄・根尖歯周疾患の適切な診断と治療ができるようになるために、歯内療法の基本的事項を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 歯内療法の原則とスタンダードプレコーションを説明できる。
- 2) 歯・根管の形態、構造・組織・機能を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖歯周疾患の症候を説明できる。
- 4) 歯髄・根尖歯周疾患の検査を説明できる。

キーワード

歯内療法の原則 歯の構造、組織、機能 歯髄・歯周組織の検査

講義日 時限 国試出題基準

11月4日 4時限目 必修-14-イ-d, 必修-03-ケ-b, 必修-06-ウ-d, 必修-09-イ-d, 必修-09-ウ-c, 必修-09-ウ-h, 必修-09-エ-a

担当者名 小方頼昌

一般目標 GIO: 適切な歯周治療を行うために、歯周病の病因、病態を理解する、

到達目標 SBOs:

- 1) 歯周病のリスクファクターについて説明できる。
- 2) 歯周病の環境因子について説明できる。
- 3) 歯周病の宿主因子について説明できる。
- 4) 歯周病の細菌因子について説明できる。
- 5) 歯周病の分類について説明できる。
- 6) 歯周病の分類と臨床像の関連を説明できる。

キーワード

リスクファクター 歯周病原細菌 環境因子 宿主因子 歯周病態（臨床像）

講義日	時限	国試出題基準
11月4日	5時限目	必修-15-テ-a, 必修-10-ク-c, 必修-11-エ-c

担当者名 小方頼昌

一般目標 GIO: 適切な歯周治療を行うために、歯周病の治療の基礎、基本手技を理解する、

到達目標 SBOs:

- 1) 歯周治療の進め方について説明できる。
- 2) 歯周治療で使用する器具について説明できる。
- 3) 歯周精密検査で行う項目を説明できる。
- 4) 歯周基本治療で行う治療内容を説明できる。
- 5) 歯周基本治療の基本手技を理解する。
- 6) 歯周外科治療の種類と適応を説明できる。
- 7) 歯周基本治療の術式を理解する。

キーワード

歯周基本治療 歯周外科治療 基本手技 使用器具

講義日	時限	国試出題基準
11月5日	1時限目	必修-15-ト-a, 必修-15-セ-a, 必修-15-ニ-a, 必修-15-ヌ-a, 必修-15-ネ-a, 必修-04-イ-c

担当者名 田中孝明

一般目標 GIO: 顎口腔形の形態異常や実質欠損により失われた機能回復を行うためのクラウンブリッジに必要な基礎的項目を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 咬合様式と下顎位を述べることができ、それぞれの特徴を説明できる。
- 2) 基準平面と基準点を述べることができ、治療との関連を説明できる。
- 3) クラウンとブリッジの種類を述べることができる。
- 4) ブリッジの構成要素を述べることができる。
- 5) 咬合器の分類ができ、特徴を説明できる。
- 6) 支台歯形成の注意点とマージン形態を述べることができる。
- 7) 支台築造の原則を述べることができる。
- 8) 印象方法とその特徴を述べることができる。
- 9) 医療事故防止のための患者管理を述べることができる。

キーワード

下顎位 咬合様式 クラウン・ブリッジ 下顎運動 医療事故

講義日 時限 国試出題基準
11月5日 2時限目 必修-15-ト-a

担当者名 飯島守雄

一般目標 GIO: 顎口腔駅の形態および機能の部分的損失を補綴装置で回復するための知識・技術・態度を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 可徹性部分床義歯の意義を述べることができる。
- 2) 部分歯牙欠損の病体を述べることができる。
- 3) 可徹性部分床義歯の利点・欠点を述べることができる。
- 4) 可徹性部分床義歯の一連の製作過程を述べることができる。

キーワード

可徹性部分床義歯 歯牙欠損 形態回復 機能回復 歯科補綴学

講義日 時限 国試出題基準
11月5日 3時限目 必修-15-ト-a, 必修-15-ナ-a, 必修-15-ニ-a, 必修-15-ヌ-a, 必修-15-ネ-a

担当者名 飯島守雄

一般目標 GIO: 顎口腔駅の形態および機能の部分的損失を補綴装置で回復するための知識・技術・態度を習得する。

到達目標 SBOs:

- 1) 部分歯牙欠損を有する患者の歯列および顎堤の評価ができる。
- 2) 部分歯牙欠損を有する患者の咬合採得を説明できる。
- 3) 可徹性部分床義歯を製作する咬合器を説明できる。

キーワード

可徹性部分床義歯 サベイング 印象採得 咬合採得 咬合器

講義日	時限	国試出題基準
11月5日	4時限目	必修-06-ア-a

担当者名 加藤仁夫

一般目標 GIO: 欠損補綴の回復方法を適切に患者に提供するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標 SBOs:

- 1) インプラントの構造を説明できる。
- 2) インプラント材料の種類と生体反応を説明できる。
- 3) インプラント治療に必要な検査を列挙し、説明できる。
- 4) インプラント治療に必要な局所解剖を説明する。
- 5) インプラント周囲組織と歯周組織の構造の違いを説明する。
- 6) インプラント治療のリスクファクターを説明できる。

キーワード

インプラント 局所解剖 検査項目 リスクファクター

講義日	時限	国試出題基準
11月6日	1時限目	必修-15-ト-a

担当者名 曾田雅啓

一般目標 GIO: クラウンブリッジ補綴処置における基本的な治療計画の立案を行うことができるようになるために、一般的な治療の手順とそれに沿った臨床術式を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) クラウンブリッジ補綴処置の目的を説明できる。
- 2) クラウンブリッジ補綴処置の基本的な治療手順と臨床術式を説明できる。
- 3) クラウンブリッジ補綴処置の進行に伴う技工作業について説明できる。
- 4) クラウンブリッジ補綴処置の基本的な治療計画が立案できる。

キーワード

クラウンブリッジ 歯科補綴学 歯科技工

講義日	時限	国試出題基準
11月6日	2時限目	必修-15-ト-a

担当者名 木本統

一般目標 GIO： 無歯顎者の治療を円滑に行うために必要な基本的診察方法歯科材料の取り扱いに関する知識を修得する。

到達目標 SBOs：

- 1) 治療の手順を述べることができる。
- 2) 技工手順を述べることができる。
- 3) 全部床義歯治療に使用する器具・材料を述べることができる。

キーワード

全部床義歯 治療手順 技工手順

=====

講義日	時限	国試出題基準
11月6日	3時限目	必修-06-ア-e, 必修-15-ク-a, 必修-15-マ-f

担当者名 木本統

一般目標 GIO： 無歯顎患者の治療を理解するための基本的知識を修得する。

到達目標 SBOs：

- 1) 咀嚼筋について説明できる。
- 2) 印象体の消毒について説明できる。
- 3) 咬合小面について説明できる。

キーワード

全部床義歯 消毒 咀嚼筋

講義日	時限	国試出題基準
11月6日	4時限目	必修-09-イ-h, 必修-09-イ-e

担当者名 小見山道

一般目標 GIO: 口腔顔面領域に発生する有痛性疾患に対応するために、顎・顔面領域の有痛性疾患の特徴を理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 脳神経系の役割について説明できる。
- 2) 口腔顔面領域の痛みの発生機序について説明できる。
- 3) 非歯原性歯痛の原因疾患について説明できる。
- 4) 咀嚼筋の症候と検査について説明できる。
- 5) 顎関節の症候と検査について説明できる。

キーワード

脳神経 疼痛

=====

講義日	時限	国試出題基準
11月6日	5時限目	必修-07-ウ-e

担当者名 小見山道

一般目標 GIO: 高齢者に対する歯科治療を円滑に行うために、管理に留意すべき全身疾患について理解する。

到達目標 SBOs:

- 1) 認知症の原因を説明できる。
- 2) 認知症の検査を説明できる。
- 3) 認知症への対応を説明できる。
- 4) Alzheimer 病の病態を説明できる。
- 5) Parkinson 病の病態と原因を説明できる。
- 6) Parkinson 病への対応を説明できる。
- 7) 誤嚥性肺炎の病態を説明できる。
- 8) 誤嚥性肺炎への対応を説明できる。
- 9) サルコペニアの概念について説明できる。
- 10) オーラルディアドコネシス等による高齢者の口腔機能評価について説明できる。

キーワード

高齢者 サルコペニア

齒科医師国家試験出題基準

平成26年版

厚生労働省医政局歯科保健課

ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

「必修の基本的事項」（約 20%）

1	医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム	約 2%
2	社会と歯科医療	約 2%
3	予防と健康管理・増進	約 5%
4	歯科医療の質と安全の確保	約 7%
5	診療記録と診療情報	約 2%
6	人体の正常構造・機能	約 14%
7	人体の発生・成長・発達・加齢	約 7%
8	医療面接	約 4%
9	主要な症候	約 10%
10	診察の基本	約 4%
11	検査の基本	約 10%
12	臨床判断の基本	約 2%
13	初期救急	約 1%
14	主要な疾患と障害の病因・病態	約 12%
15	治療の基礎・基本手技	約 12%
16	チーム歯科医療	約 2%
17	一般教養的事項	約 4%

「歯科医学総論」（約 30%）

総論 I	保健医療論	約 12%
総論 II	健康管理・増進と予防	約 9%
総論 III	人体の正常構造と機能	約 5%
総論 IV	歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能	約 9%
総論 V	発生、成長、発達、加齢	約 3%
総論 VI	病因、病態	約 9%
総論 VII	主要症候	約 4%
総論 VIII	診察	約 7%
総論 IX	検査	約 16%
総論 X	治療	約 13%
総論 XI	歯科材料と歯科医療機器	約 13%

「歯科医学各論」（約 50%）

各論 I	歯科疾患の予防・管理	約 6%
各論 II	成長発育に関連した疾患・病態	約 19%
各論 III	歯・歯髄・歯周組織の疾患	約 23%
各論 IV	顎・口腔領域の疾患	約 23%
各論 V	歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害	約 23%
各論 VI	高齢者の歯科診療	約 6%

主な検査項目の表記

出題に際して、主な検査項目の記載は以下に準拠する。また、略して標記することもある。なお、「2 血液学検査」、「3 生化学検査」、「4 免疫血清学検査」、「7 生体機能検査」及び「8 栄養学検査」については、「*」のある検査項目以外は、出題に際して必ず基準値を記載する。

1. 一般臨床検査

分類	項目
尿検査	肉眼的所見
	尿量
	比重
	浸透圧
	pH
	尿蛋白
	尿糖
	ウロビリノゲン
	ケトン体
	ビリルビン
	アミラーゼ
	尿潜血
	尿沈渣所見
	細菌検査
	尿細胞診
	白血球反応
	妊娠反応
	【例】尿所見：尿蛋白 1+、糖(-)、沈渣に赤血球10-20/1視野、白血球多数/1視野、赤血球 円柱+。
糞便検査	肉眼的所見
	顕微鏡検査〈虫卵など〉
	便潜血反応
	細菌検査
喀痰検査	肉眼的所見
	細胞診
	細菌検査
脳脊髄液検査	圧〈Queckenstedt現象〉
	肉眼的所見
	初圧
	細胞数（種類）
	蛋白定量
	糖定量
	IgG%
	ミエリン塩基性タンパク
	クロール定量
	細菌検査
	細胞診
	オリゴクローナルバンド

分類	項目
穿刺液検査	肉眼的所見
	比重
	蛋白定量
	細胞数（種類）
	細胞診
	細菌検査

2 血液学検査

分類	項目
血球検査	赤血球 *
	ヘモグロビン〈Hb〉 *
	ヘマトクリット〈Ht〉 *
	平均赤血球容積〈MCV〉
	平均赤血球ヘモグロビン〈MCH〉
	平均赤血球ヘモグロビン濃度〈MCHC〉
	網赤血球
	白血球 *
	白血球分画 *
	血小板 *
	末梢血・骨髓血塗抹
	【例】血液所見：赤血球396万/ μ l、Hb 12.9g/dl、Ht 38%、網赤血球 1.2%、白血球7,800/ μ l（桿状核好中球 12%、分葉核好中球 51%、好酸球 2%、好塩基球 1%、単球 6%、リンパ球 28%）、血小板 20万/ μ l
凝固・線溶・血小板機能検査	出血時間
	PT〈プロトロンビン時間〉（秒、%、* INRで表示）
	APTT〈活性化部分トロンボプラスチン時間〉
	血漿アンチトロンビン
	トロンビン・アンチトロンビン複合体〈TAT〉
	血漿フィブリノゲン
	血清FDP
	Dダイマー
	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体〈PIC〉
	血小板凝集能

分類	項目
溶関 血に する 検査	赤血球浸透圧抵抗試験
	Ham試験
輸関 血連 検査	血液型
	交差適合試験〈クロスマッチ〉
赤沈	赤沈 *

3 生化学検査

分類	項目
蛋白・蛋白分画	総蛋白〈TP〉 *
	蛋白分画
	アルブミン〈Alb〉 *
	α_1 ・ β_2 -マイクログロブリン
	IgG
	IgA
	IgM
	IgE
	フェリチン
	心筋トロポニンT
	心筋トロポニンI
生色 体素	総ビリルビン *
	直接ビリルビン *
酵素、 アイソ ザイム	AST *
	ALT *
	LD〈LDH〉
	ALP
	γ -GTP〈 γ GT〉
	コリンエステラーゼ〈ChE〉
	アミラーゼ
	リパーゼ
	CK
	CK-MB
	アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉
含窒 素成 分	尿素窒素〈UN, BUN〉 *
	クレアチニン〈Cr〉 *
	尿酸〈UA〉
	アンモニア
糖代 謝関 連	{随時} 血糖 *
	空腹時血糖 *
	ブドウ糖負荷試験〈OGTT〉
	NGSP値〔HbA1c値〕 *

分類		項目	
脂質代謝関連	総コレステロール〈TC〉		*
	トリグリセライド〈TG〉		*
	HDLコレステロール		
	LDLコレステロール		
電解質・酸塩基平衡	Na		*
	K		*
	Cl		
	Ca		
	P		
	Mg		
	浸透圧		
微量元素	Cu		
	Fe		*
	Zn		
	TIBC〈鉄結合能〉		
	UIBC〈不飽和鉄結合能〉		
ビタミン	ビタミンB ₁		
	ビタミンB ₁₂		
	葉酸		
ホルモン	下垂体	TSH〈甲状腺刺激ホルモン〉	
		GH〈成長ホルモン〉	
		LH〈黄体化ホルモン〉	
		ACTH〈副腎皮質刺激ホルモン〉	
		FSH〈卵胞刺激ホルモン〉	
		PRL〈プロラクチン〉	
		ADH〈抗利尿ホルモン、バソプレシン〉	
	甲状腺	FT ₃ 〈遊離トリヨードサイロニン〉	
		FT ₄ 〈遊離サイロキシニン〉	
		甲状腺 ¹²³ I摂取率	
		サイログロブリン	
		カルシトニン	
	副甲状腺 （上皮小体）	PTH〈副甲状腺ホルモン〉	
	副腎	コルチゾール	
		アルドステロン	
		17α-ヒドロキシprogテストロン	
		アドレナリン	
		ノルアドレナリン	
	消化管	ガストリン	

分類	項目
ホルモン	膵島
	インスリン
	グルカゴン
	Cペプチド 〈CPR〉
	腎臓
	血漿レニン活性 〈PRA〉
	アンジオテンシン
	エリスロポエチン
	性腺・胎盤
	エストラジオール 〈E ₂ 〉
	エストリオール 〈E ₃ 〉
	プロゲステロン
	テストステロン
	絨毛性ゴナドトロピン 〈hCG〉
	心臓
	心房性ナトリウム利尿ペプチド 〈H. ANP〉
	心室性ナトリウム利尿ペプチド 〈BNP〉
尿中ホルモン	5-ヒドロキシインドール酢酸 〈5-HIAA〉
	遊離コルチゾール
	カテコラミン
	バニルマンデル酸 〈VMA〉
腫瘍マーカー	α-フェトプロテイン 〈AFP〉
	CEA
	CA19-9
	CA125
	SCC
	PSA
線維化マーカー	RL-6

4 免疫血清学検査

分類	項目
炎症マーカー	C反応性蛋白 〈CRP〉 *

分類	項目
感染の抗原・抗体	梅毒血清反応
	Weil-Felix反応
	ASO
	トキソプラズマ抗体
	寒冷凝集反応
	マイコプラズマ抗体
	ウイルス血清反応
	β-D-グルカン
	HTLV-I抗体
	HIV抗体
自己抗体	HBs抗原・HBs抗体
	HCV抗体
	リウマトイド因子 〈RF〉
	抗CCP抗体
	抗好中球細胞質抗体 〈ANCA〉
	LE細胞
	抗核抗体
	抗DNA抗体
	抗ssDNA抗体
	抗dsDNA抗体
	抗RNP抗体
	抗Sm抗体
	抗SS-A抗体
	抗SS-B抗体
	抗Jo-1抗体
	抗Scl-70抗体
	抗ミトコンドリア抗体
	抗平滑筋抗体
	抗サイログロブリン抗体
	抗甲状腺ペルオキシダーゼ 〈TPO〉抗体
	抗TSH受容体抗体
	直接・間接Coombs試験
	抗アセチルコリン受容体抗体
	抗デスモグレイン3抗体
	抗BP180抗体
免疫蛋白	免疫電気泳動
	Bence Jones 蛋白
アレルギーに関する検査	アレルギー検査
	IgE、特異的IgE
	皮膚反応 〈パッチテスト、皮内反応〉
	誘発試験

分類	項目
補体	血清補体価 (CH ₅₀)、C3、C4
	免疫複合体
細菌免疫検査・検査	リンパ球表面抗原検査
	CD4/8比
	好中球機能検査
	リンパ球刺激試験
	ツベルクリン反応
移免疫	組織適合検査 【例】HLA-B27

5 微生物学検査

分類	項目
病原体検査	塗抹標本の顕微鏡観察【例】結果はグラム陰性桿菌などと表記、結核・抗酸菌の場合はGaffky号数で表記
	培養法【例】嫌気培養法
	同定法【例】生化学的方法、免疫学的方法、遺伝学的方法。結果は <i>Porphyromonas gingivalis</i> などと表記
	薬剤感受性試験【例】微量液体希釈法、ディスク法。結果はメチシリン耐性などと表記
	遺伝子検査
	微生物の学名はイタリック体で表記。ただしウイルス名はローマン体で表記 【例】 <i>Staphylococcus aureus</i> , Poliovirus

6 病理組織学検査、細胞診

分類	項目
光顕・電顕標本	
染色法	Hematoxylin-eosin染色 (H-E染色)
	SudanⅢ染色
	PAS染色
	Congo-Red染色
	Gram染色
	Ziehl-Neelsen染色
	Grocott染色
	May-Giemsa染色
	Papanicolaou染色
	【例】舌生検H-E標本、生検材料の電顕写真、ケラチン免疫染色、ペルオキシダーゼ酵素組織化学

7 生体機能検査

分類	項目
動脈血ガス分析	pH *
	PaCO ₂ *
	PaO ₂ *
	HCO ₃ ⁻
	BE 【例】動脈血ガス分析(自発呼吸、room air) : pH 7.41、PaCO ₂ 41 Torr、PaO ₂ 83 Torr
呼吸機能	%VC
	FEV ₁ % 経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) *
心機能	{12誘導}心電図
	運動負荷心電図
	心臓超音波検査
	心臓カテーテル検査
消化器系	唾液分泌検査
	胃液検査
	消化管内圧検査
	色素排泄試験 BT-PABA排泄試験
内分泌・代謝機能	インスリン負荷試験
	グルカゴン負荷試験
	ブドウ糖負荷試験
	絶食試験
	TRH試験
	CRH試験
	GHRH試験
	LHRH試験
	デキサメサゾン抑制試験
	水制限試験
	高張食塩水負荷試験
	ACTH試験
	フロセミド負荷試験
	PTH負荷試験 (Ellsworth-Howard試験)
	プロゲステロン負荷試験
	エストロゲン・プロゲステロン負荷試験
	ゴナドトロピン負荷試験
腎機能	クレアチニンクリアランス
	濃縮試験 (Fishberg試験)
	糸球体濾過値 (GFR)
	レノグラム

分類	項目
神経・機能	脳波
	筋電図

8 栄養学検査

分類	項目
身計 体測	身長
	体重
	Body Mass Index (BMI)
血学 液検 生査 化	総蛋白 (TP) *
	アルブミン (Alb) *
栄養 学的 評価 表	SGA
	MNA*

9 内視鏡検査

分類	項目
	{鼻咽腔内視鏡検査、顎関節内視鏡検査 などと表記}

10 画像検査

分類	項目
エ ク ス 線 撮 影	口内法
	二等分法
	平行法
	偏心投影法
	咬翼法
	咬合法
	Waters法
	頭部後前方向エックス線撮影
	頭部側方向エックス線撮影
	顎関節エックス線撮影
	胸部エックス線撮影
パノラマエックス線撮影	
エ 造 影 ク 撮 影 線	唾液腺造影
	血管造影
CT	単純CT
	造影CT
歯科用コーンビームCT	

分類	項目
磁気 画像 共鳴	単純MRI
	造影MRI
	磁気共鳴血管撮影 (MRA)
超 音 波 検 査	頸部超音波検査
	カラードプラ法
シ ン チ グ ラ フ イ	骨シンチグラフィ
	唾液腺シンチグラフィ
	シングルフォトンエミッション断層 撮影 (SPECT)
	ポジトロンエミッション断層撮影 (PET)

11 口腔検査

分類	項目
歯・ 歯 髄・ 根 管 の 検 査	視診
	透照診
	触診
	打診
	温度診
	化学診
	麻酔診
	切削診
	歯髄電気診 (電気歯髄診断)
	楔応力検査
	インピーダンス測定検査
	動揺度検査
	歯周ポケット検査
	塗抹検査
	細菌培養検査
	レーザー蛍光強度測定
	根管長測定
	DMF
	CFI
口 状 腔 態 の 検 査	OHI
	OHI-S
	PII
	O' LearyのPCR
	PHP

分類	項目
歯周組織の検査	GI
	BI
	SBI
	PMA Index
	GBI
	PDI
	RussellのPI
	CPI
	PPD
	CAL
	BOP
	歯周病リスク検査
顎間関係の検査	安静空隙利用法（下顎安静位利用法）
	嚥下運動利用法
	発音利用法
	最大咬合力利用法
	習慣性閉口路利用法
	ゴシックアーチ描記法
唾液の検査・唾液	唾液分泌能検査（ガム試験、Saxonテストなどと表記）
	唾液成分検査
	唾液腺シンチグラフィ
口検査の	官能検査
	ガスクロマトグラフィー検査
	ガスセンサー検査

分類	項目
言語機能検査	呼吸持続時間の測定
	発声持続時間の測定
	発語明瞭度検査
	単音節復唱検査
	パレートグラム検査
鼻機能検査	ブローイング検査
	発声言語の聴覚判定
	鼻漏出検査
味覚検査	電気味覚検査
	濾紙ディスク法
	点滴法（滴下法、全口腔法などと表記）
皮膚知覚検査	痛覚検査
	触覚検査
	温度覚検査
	二点識別検査

12 口腔機能検査

分類	項目
咀嚼機能検査	咀嚼能力検査
	咬合力検査（咬合圧検査）
	咬合音検査
	筋電図検査
下顎運動検査	下顎運動路検査
	開口量・限界運動範囲の検査
嚥下機能検査	嚥下造影検査（VF検査）
	嚥下内視鏡検査（VE検査）
	改訂水飲み検査（MWST）
	反復唾液嚥下テスト（RSST）
	頸部聴診法
	フードテスト

必修の基本的事項

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム 約2%	ア 医の倫理、生命倫理	a 患者の人権と医療
		b ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ヒポクラテスの誓い
		c 守秘義務、プライバシーの尊重、法の遵守
	イ 歯科医師と患者・家族との関係	a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン
		b 患者の権利と義務
		c 自己決定権
2 社会と歯科医療 約2%	ア 患者・障害者のもつ心理・社会的問題	a 疾病・障害の概念・構造(社会的関わり)
		b QOL<生活の質、quality of life>
		c リハビリテーションの理念
		d ノーマライゼーション、バリアフリー
		e 患者・障害者の心理と態度
		f 国際生活機能分類(ICF)、国際障害分類(ICIDH)
		g ニーズとディマンド
	イ 歯科医療の社会的背景	a 健康意識、疾病構造
		b 国民医療費
	ウ 保健・医療・福祉・介護の制度	a 歯科医師法
		b 歯科衛生士法
		c 歯科技工士法
		d 薬事法
		e 医療法
		f 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種
		g 地域歯科保健活動での各職種の連携に関する制度
	エ 臨床試験・治験と倫理	a GCP<医薬品の臨床試験の実施の基準>
		b 臨床研究、疫学研究の倫理指針
3 予防と健康管理・増進 約5%	ア 健康増進と疾病予防	a 概念
		b プライマリーヘルスケア、アルマ・アタ宣言
		c ヘルスプロモーション、オタワ憲章
		d 健康日本21
		e メタボリックシンドローム
		f 行動レベル、行動変容
	イ 地域保健	a 地域保健法、地域保健体制
		b 健康増進法
		c 歯科口腔保健の推進に関する法律
		d 8020運動
		e 健康危機管理
	ウ 母子保健	a 歯科健康診査(妊産婦、1歳6か月児、3歳児)
		b 妊産婦・乳幼児の保健指導
	エ 学校保健	a 保健教育・保健管理の概要
	オ 産業保健	a 労働者の健康管理、トータルヘルスプロモーションプラン<THP>
	カ 成人・高齢者保健	a 特定健康診査、特定保健指導
		b 健康増進事業、歯周疾患検診
		c 介護予防(地域支援事業、予防給付)

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	キ フッ化物応用	d 福祉、介護保険
		a 全身的应用
		b 局所的应用
		c 安全性
	ク 保健指導	a 栄養と食生活
		b 喫煙、飲酒
		c ストレス、運動
		d 生活習慣病
	ケ 口腔清掃	a 機械的・化学的プラーク<口腔バイオフィルム>コントロール
		b プラーク形成機序・付着抑制
		c 口腔清掃行動
	コ 口腔のケア	a 口腔衛生管理のための口腔のケア b 口腔機能維持向上のための口腔のケア
4 歯科医療の質と安全の確保 約7%	ア 医療の質の確保	a 患者満足度
		b 患者説明文書
		c 診療録開示
		d クリニカルパス
	イ 医療事故の防止	a 医療事故と医療過誤
		b 医療事故の発生要因
		c 患者の安全管理(誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護)
		d 医療者の安全管理(感染、針刺し事故、外傷、被曝、目の保護)
		e 医療危機管理<リスクマネジメント>
		f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシデントレポート
		g 医療安全対策(医薬品・医療機器の安全管理)
	ウ 院内感染対策	a スタンダードプレコーション<標準予防策>
		b 抗菌薬の適正使用と薬剤耐性菌
		c 医療廃棄物処理
		d 院内感染対策委員会
	エ 医療裁判	a 医事紛争、賠償
		b 医療訴訟(刑事裁判、民事裁判)
	オ 医薬品・医療機器による健康被害	a 副作用・有害事象への対応(報告義務、治療、補償)
	カ 血液・血液製剤の安全性	a 保管、管理
5 診療記録と診療情報 約2%	ア 診療録、医療記録	a 診療に関する記録(診療録、同意書、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、技工指示書、模型)
		b 診療録の管理・保存
		c SOAP(主観的情報、客観的情報、評価、計画)
	イ 診療情報	a 個人情報保護
		b 診療情報の開示
	ウ 診断書	a 診断書、死亡診断書

大項目	中項目	小項目
6 人体の正常構造・機能 約14%	ア 全身の構造・機能	a 遺伝子、染色体
		b 細胞・細胞内小器官の構造・機能
		c 組織(上皮組織、支持組織(血液を含む)、筋組織、神経組織)
		d 生体構成成分の構造・機能
		e 器官系(骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系<脈管系>、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)
		f 免疫(自然免疫、獲得免疫)
	イ 口腔・顎顔面の構造・機能	a 口腔の構造(口腔前庭、固有口腔、口蓋、舌、口(腔)底、唾液腺、頬、口唇、口峽、歯列)
		b 口腔の機能(咬合、咀嚼、嚥下、呼吸、発声と構音、消化、皮膚・粘膜の体性感覚、味覚)
		c 唾液の種類
		d 頭部の筋(表情筋・咀嚼筋の種類)
		e 頭蓋を構成する骨(神経頭蓋、内臓頭蓋)
		f 頭頸部の神経(三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経)
		g 頭頸部の動脈(総頸動脈、外頸動脈、内頸動脈、舌動脈、顔面動脈、顎動脈)
		h 顎関節の構造(下顎頭、下顎窩、関節円板、関節包、関節結節、靱帯)
	ウ 歯・歯周組織の構造・組成・機能	a 歯の形態(歯種の鑑別)
		b 歯式
		c 歯の構造・組成
		d 歯周組織の構造・組成(根尖歯周組織、辺縁歯周組織)
		e 歯髄の感覚
		f 歯根膜の感覚
		g 歯・歯周組織が受ける力
	エ 口腔の生態系	a 常在微生物叢
		b 食品の影響
		c 唾液の作用
		d プラーク<口腔バイオフィルム>
7 人体の発生・成長・発達・加齢 約7%	ア 人体の成長発育	a 発育区分(出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)
		b 発育期の特徴
		c 成長発育・発達の特徴(身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達)
		d 小児の生理的特徴
		e 身体成長と精神発達の評価法(Kaup指数、Rohrer指数、BMI、暦年齢、生理的年齢、発達スクリーニング検査)
	イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育	a 歯・歯列の成長発育(歯の発生、発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)
		b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴
	ウ 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化	a 歯の変化
		b 歯周組織の変化

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		c 顎骨・顎堤の変化
		d 顔面の変化
		e 歯列・咬合の変化
		f 顎関節の変化
		g 筋の変化
		h 神経系の変化
		i 口腔粘膜の変化
		j 唾液腺の変化
	エ 歯の喪失に伴う変化	a 形態的变化
		b 機能的变化
8 医療面接 約4%	ア 意義, 目的	a 医療情報の収集・提供
		b 患者歯科医師関係の確立
		c 患者の指導、動機付け、治療への参加
	イ 面接のマナー	a 身だしなみ
		b 挨拶、態度
		c 会話のマナー、言葉遣い
		d コミュニケーションの進め方(質問法、傾聴の仕方、非言語的コミュニケーション)
		e プライバシーの保護
		f 感情面への対応
	ウ 病歴聴取	a 主訴
		b 現病歴
		c 常用薬、アレルギー歴
		d 既往歴
		e 家族歴
		f 患者背景(生活習慣、喫煙歴、社会歴)
		g 患者・家族の考え方・希望
9 主要な症候 約10%	ア 全身の症候	a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思(欲)不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害
	イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方	a 口腔・顎・顔面の一般的症候(疼痛、腫脹、腫瘍、色調の変化、熱感、出血、癢、硬さの異常、触覚の異常、機能障害)
		b 歯の症候(齲蝕、硬組織欠損、変色、亀裂、破折)
		c 歯髄の症候(自発痛、誘発痛)
		d 根尖・辺縁歯周組織の症候
		e 歯列・咬合の症候
		f 口腔粘膜の症候
		g 顎骨の症候(形態の異常)
		h 顎関節の症候(関節痛、関節雑音、運動障害)
		i 筋の症候(圧痛、運動麻痺)
		j リンパ節の症候
		k 唾液腺の症候

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	ウ 全身的疾患による主な口腔症状	l 感覚異常(味覚、体性感覚)
		a 貧血による舌炎
		b 出血性素因による歯肉出血・抜歯後出血
		c 急性白血病による歯肉出血・腫脹
		d 後天性免疫不全症候群(AIDS)によるカンジダ症・歯周病
		e ウイルスによるアフタ性潰瘍
		f 結核・梅毒による粘膜潰瘍
		g 金属によるアレルギー性変化(苔癬様病変)
		h 糖尿病による口腔乾燥・歯周病の増悪
		i ビタミン欠乏による歯肉出血
		j 臓器移植に関連した口腔症状(免疫抑制、移植片対宿主病(GVHD))
		k 脳血管疾患、神経筋疾患の摂食・嚥下障害
		l 他臓器癌の口腔症状
		m 認知症患者の口腔症状
	エ 薬物の有害事象による口腔症状	a 多形{滲出性}紅斑・歯肉肥厚(歯肉増殖)・歯の着色・唾液分泌量減少・唾液分泌量増加・味覚異常・顎骨壊死・抗腫瘍薬による口内炎、菌交代現象(菌交代症)
10 診察の基本 約4%	ア 診察のあり方	a 安全と感染への配慮
		b プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮
		c 自己紹介、患者の確認
		d 患者への説明
		e 患者への声かけ・例示
	イ 基本手技	a 視診
		b 触診
		c 打診
		d 聴診
	ウ 診察時の体位	a 患者の体位
		b 術者の姿勢・位置
	エ 口腔診察用器材の準備と選択	
	オ 全身の診察	a 全身の外観(体型、栄養、姿勢、歩行、発声)
		b 意識状態、精神状態
		c バイタルサイン(呼吸、脈拍、血圧、体温)
	カ 口腔・顎・顔面の診察	a 顔貌の対称性、顔色、皮膚
		b 口腔粘膜
		c 所属リンパ節
		d 唾液腺
		e 下顎運動
	キ 歯列・咬合状態の診察	a 歯列弓の形態・大きさ
		b 前歯部の被蓋
		c 臼歯部の咬合状態
	ク 歯・歯周組織の診察	a 歯の所見
		b 歯髓の症状
		c 根尖・辺縁歯周組織の症状

大 項 目	中 項 目	小 項 目
11 検査の基本 約10%	ケ 心理・社会的側面についての配慮	a 患者の心理・社会的側面・性格の把握 b 家族背景
	ア 意義、目標	a 診断 b 治療経過の評価 c 医療情報の収集
	イ 検査の安全	a 患者・検体の確認 b 実施(必要性)の説明 c 検査の合併症
	ウ 検体検査の種類	a 一般臨床検査(尿、穿刺液、関節液) b 血球検査、凝固・線溶、血液型・輸血関連検査、赤沈 c 生化学検査(糖質、糖、代謝関連物質、蛋白、含窒素成分、脂質代謝関連物質、電解質、酸塩基平衡、酵素、ホルモン) d 免疫血清学検査(抗体、補体、炎症反応、感染症の血清学的診断) e 微生物学検査
	エ 歯・歯周組織・口腔・顎・顔面の検査	a 歯の検査(硬組織、歯髄) b 根尖歯周組織の検査 c 辺縁歯周組織の検査 d 顎関節の検査 e 筋の検査 f 唾液腺の検査 g 味覚の検査
	オ 画像検査	a エックス線撮影(口内法、パノラマエックス線検査、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査)
	カ 病理検査	a 細胞診 b 組織診
	キ 結果の解釈	a 病歴との関連(既往歴・投与薬物との関連) b 症候との関連
	12 臨床判断の基本 約2%	ア 根拠に基づいた医療<EBM> a 意義 b 齲蝕予防法の評価 c 歯周病予防法の評価
	イ 基準値	a 基準範囲の概念 b 生理的変動 c 性差、年齢差
	ウ 有効性、効率性	a 効率とリスク b 費用対効果
	13 初期救急 約1%	ア 救急患者の診察 a 全身的偶発症の原因推定 b バイタルサインの把握 c 意識障害の評価 d 病態・疾患の鑑別 e 重要臓器の機能状態の把握
	イ 救急処置	a 一次救命処置<BLS>、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血

大 項 目	中 項 目	小 項 目
14 主要な疾患と障害 の病因・病態 約12%	ア 疾病の概念	b 救急処置を要する症状(失神、ショック、けいれん、呼吸困難、胸痛、嘔吐、皮膚症状、誤飲と誤嚥)
		a 健康・疾病の概念
		b 先天異常、発育異常
		c 損傷
		d 炎症
		e 感染症
		f 嚢胞
		g 腫瘍
		h 循環障害
		i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽
		j 病的増殖
		k 精神・神経疾患
		l 放射線の影響
	イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患と障害の概念	a 歯の硬組織疾患
		b 歯髄疾患
		c 根尖性歯周組織疾患
		d 歯周病
		e 不正咬合
		f 咬合・咀嚼障害
		g 免疫異常
		h 先天異常、発育異常
		i 損傷
		j 炎症性疾患
		k 嚢胞
		l 腫瘍、腫瘍類似疾患
		m 顎関節疾患
		n 口腔粘膜疾患
		o 唾液腺疾患
		p 口腔に症状を現す血液疾患・出血性素因
		q 薬物・放射線による有害事象
		r 神経疾患、心因性病態
		s 摂食・嚥下障害
15 治療の基礎・基本 手技 約12%	ア 意義, 目標	a 疾患の治療、自然治癒
	イ 種類, 特性	a 原因療法、対症療法
		b 保存療法、根治療法
	ウ 治療の適応・選択	a 適応
		b 禁忌
	エ 治療の場	a 外来
		b 入院
		c 施設
		d 居宅
		e 地域
		f 隔離
	オ 使用器材、取扱法	a 基本的器材

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	カ 乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療	a 治療環境
		b 患者の体位
		c コミュニケーション
		d チーム医療
	キ 器械の安全な取扱法	a 歯科用ユニット
		b エックス線撮影装置
	ク 消毒・滅菌と感染対策	a 消毒・滅菌法
		b 手術野の防湿・消毒、清潔操作
		c 手術室
	ケ 注射法の種類	a 皮内
		b 皮下
		c 筋肉
		d 静脈
	コ 麻酔法	a 局所麻酔(局所麻酔法、局所麻酔薬、血管収縮薬、合併症、偶発症)
		b 全身麻酔(吸入麻酔法、静脈麻酔法)
		c 精神鎮静法(吸入鎮静法、静脈内鎮静法)
	サ 創傷の処置	a 洗浄、消毒
		b 止血
		c 縫合
	シ 膿瘍の処置	a 穿刺、切開、ドレナージ
	ス 拔牙	a 基本的術式
	セ 歯の切削	a 基本的術式
	ソ 歯の硬組織疾患の治療	a 基本的術式
	タ 歯髄疾患の治療	a 基本的術式
	チ 感染根管の治療	a 基本的術式
	ツ 根尖性歯周組織疾患の治療	a 基本的術式
	テ 歯周病の治療	a 基本的術式
	ト 歯質・歯の欠損による障害の治療	a 基本的術式
	ナ 不正咬合の治療	a 基本的術式
	ニ 印象採得	a 基本的術式
	ヌ 顎間関係の記録	a 基本的術式
	ネ 咬合器	a 種類
		b 基本的使用法
	ノ 歯科鑄造	a 鑄造法の基本的術式
	ハ 合着・接着法	a 基本的術式
	ヒ 薬物療法	a 薬物作用の種類(局所作用、全身作用、直接作用、間接作用)
		b 薬物の適用方法
		c 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)
		d 薬物の効果に影響する因子(年齢、個体差、種差、性差、プラセボ効果)
		e 薬物の作用部位

大項目	中項目	小項目
		f 薬物の反復投与
		g 用量と薬理作用 (LD ₅₀ 、ED ₅₀ 、治療係数<安全域>、TDM<therapeutic drug monitoring><薬物の血中濃度モニタリング>)
		h 薬物の併用(協力作用、拮抗作用)
		i 薬物の副作用・有害作用(薬物アレルギー(アナフィラキシーショック)、皮膚障害、血液障害、消化器障害、肝障害、腎障害、呼吸器障害、中枢神経障害)
		j 薬物投与上の注意(禁忌、小児、妊婦、高齢者、全身疾患を有する患者)
		k 薬物の保管・管理
	フ 栄養療法	a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養(経腸栄養、胃瘻<PEG>)
	ヘ 口腔機能のリハビリテーション	a 機能の回復(咀嚼機能、摂食・嚥下機能、構音機能)
		b 口腔機能管理
		c コミュニケーションと社会参加
	ホ 患者管理の基本	a 口腔環境の評価(口腔清掃状態、補綴装置の清掃状態、残存歯の状態、口腔粘膜の状態、咬合状態、補綴装置の適合状態、顎堤の状態、唾液、味覚)
		b 全身管理に留意すべき疾患・対象(気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患<COPD>、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳内出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食道逆流症<GERD>、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群<AIDS>、認知症、統合失調症、うつ病、双極性障害、てんかん、Alzheimer病、Parkinson病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、臓器移植患者、菌交代現象<菌交代症>)
		c 日常生活動作<ADL>の評価
	マ 歯科材料	a 基本的性質
		b 印象材
		c 模型材
		d 修復用材料
		e 合着・接着材
		f 義歯用材料
		g 予防填塞材
		h 歯内療法用材料
		i 切削・研削・研磨用材料
16 チーム歯科医療 約2%	ア 医療機関でのチームワーク	a 歯科医師・医師間
		b 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間
		c 多職種連携
	イ 地域医療でのチームワーク	a 病診連携
		b 診診連携

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携
		d 家族との連携
		e 地域連携クリニカルパス
	ウ チームワーク形成	a リーダーシップ
		b チームの調整技能
	エ コンサルテーション	a 自己責任と自分の限界
	オ 社会生活	a 社会復帰
		b 社会保障制度(所得、介護、障害)
		c 人的支援
		d 物的支援(福祉用具)
		e 社会的支援
		f 自立
17 一般教養的事項 約4%	ア 医学史、歯科医学史	
	イ 医学・医療に関する 人文、社会科学、自 然科学、芸術などに 関連する一般教養的 知識や考え方	
	ウ 歯科医療に必要な基 本的医学英語	

齒科医学総論

総論 I 保健医療論〔約 12%〕

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 健康・疾病・障害の概念	ア 健康の概念		
	イ 健康に関わる要因		
	ウ 社会環境の変化		
	エ 疾病の自然史と対応		
	オ 障害の概念と対応		
2 保健・医療・福祉・介護関係法規	ア 医事衛生法規		
	イ 保健衛生法規		
	ウ 医療保障・社会福祉・介護保険関連法規		
	エ 予防衛生法規		
	オ 薬事衛生法規		
3 保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源	ア 衛生行政の組織		
	イ 医療機関		
	ウ 福祉施設		
	エ 介護施設		
	オ 医療関係職種		
	カ 福祉・介護の制度と職種		
	キ 医療連携、チーム医療		
	ク 保健・医療・福祉・介護の制度と連携		
4 地域保健、地域医療	ア 公衆衛生活動、地域保健活動		医療政策を含む
	イ 医療計画、健康増進計画		
	ウ ヘルスプロモーション		
	エ 地域保健活動の進め方		
	オ 都道府県、市町村、保健所の歯科保健業務		
	カ プライマリケア		
	キ かかりつけ歯科医機能		
	ク 救急・災害時等の歯科保健医療対策		大規模災害を含む
	ケ へき地医療		
	コ 在宅医療、在宅歯科医療		
5 歯科法医学	ア 死体解剖と死因究明制度		
	イ 死後変化		
	ウ 個人識別、身元確認		
6 社会保障と医療経済	ア 社会保障制度		
	イ 医療保険、介護保険		
	ウ 医療経済と国民医療費		
7 国際保健	ア 世界の保健・医療の問題と方向性		
	イ 国際保健・医療協力		

総論Ⅱ 健康管理・増進と予防〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 健康の保持・増進と予防	ア 健康教育・学習、保健指導、健康相談		
	イ 健康づくり(栄養、運動、休養)		
	ウ 禁煙指導・支援		
	エ 健康診断、スクリーニング検査		
	オ 口腔の環境・機能		
	カ 口腔の診察・検査		
	キ 歯への沈着物		
	ク 歯科口腔保健の推進に関する法律		
2 母子保健、母子歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 母性保健		
	ウ 小児保健		
	エ 児童虐待		
	オ 母子歯科保健の意義		
	カ 妊産婦の歯科保健		
	キ 乳幼児の歯科保健		
	ク 乳幼児歯科健康診査		
3 学校保健、学校安全、学校歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 学校保健の領域・内容		
	ウ 学校保健関係者		
	エ 学校歯科保健教育		
	オ 学校歯科保健管理		
	カ 組織活動		
	キ 学校安全		
4 産業保健、産業歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 労働安全衛生管理		
	ウ 業務上疾病、作業関連疾患		
	エ 健康診断、事後措置		
	オ 産業歯科保健の意義		
	カ 産業歯科保健活動		
	キ 職業性歯科疾患		
5 成人保健、成人歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 特定健康診査、特定保健指導		
	ウ 成人歯科保健		
	エ 成人の口腔保健管理		
6 高齢者保健	ア 現状、動向		
	イ 高齢者の特性		
	ウ QOL<quality of life>、日常生活動作<ADL>		
	エ 要介護高齢者の歯科保健・医療		
	オ 地域支援事業		
7 精神保健福祉	ア 現状、動向		
	イ 精神的健康の保持・増進		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ウ 精神的健康の破綻と対応		
	エ 精神的健康と社会整備		
	オ 精神障害と歯科保健		
8 障害者保健福祉	ア 現状、動向		
	イ 障害者と社会		
	ウ 障害者の保健と医療・福祉		
	エ 障害者の歯科保健と医療・福祉		
9 人口統計と保健統計	ア 人口統計		
	イ 保健統計		
10 疫学とその応用	ア 疫学の概念		
	イ 疫学指標		
	ウ 統計解析		
	エ 因果関係の成立		
	オ 観察研究		
	カ 介入研究		
	キ 歯科集団検診		
	ク 歯科領域における統計指標		
	ケ 歯科領域における疫学調査		
	コ 齲蝕の疫学要因		
	サ 歯周病の疫学要因		
	シ 不正咬合の疫学要因		
	ス 口腔癌の疫学要因		
11 感染症対策	ア 感染症の疫学		
	イ 感染症対策		
	ウ 院内感染対策		
12 国民栄養と食品保健	ア 国民栄養の現状		
	イ 食事摂取基準		
	ウ 食生活指針		
	エ 食育基本法		
	オ 食の安全性と機能性		
	カ 食の機能と口腔保健		
13 環境保健	ア 環境と適応		
	イ 地球環境の変化・健康影響		
	ウ 環境汚染の発生要因・健康影響		
	エ 公害の健康影響と対策		
	オ 環境汚染の評価と対策		
	カ 廃棄物処理		
	キ 大気・水と健康		
	ク 放射線と健康		
	ケ 騒音・振動と健康		
	コ 住居と健康		

総論Ⅲ 人体の正常構造と機能〔約5%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 細胞、組織	ア 生体を構成する基本物質		
	イ 細胞の構造・機能		
	ウ 細胞間情報伝達機構		
	エ 遺伝子、遺伝		
	オ 上皮組織		
	カ 支持組織		血液を含む
	キ 筋組織		
	ク 神経組織		
2 器官系	ア 骨格・筋系〈運動器系〉		
	イ 消化器系		
	ウ 呼吸器系		
	エ 循環器系〈脈管系〉		
	オ 泌尿器系		
	カ 生殖器系		
	キ 神経系〈中枢・末梢神経系〉		
	ク 感覚器系		
	ケ 内分泌系		血清カルシウム調節機構を含む
3 免疫	ア 免疫系臓器、免疫担当細胞		
	イ 免疫応答とその調節		
	ウ 自然免疫		
	エ 獲得免疫		

総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 頭頸部の構造	ア 頭頸部の骨		副鼻腔を含む
	イ 頭頸部の筋		
	ウ 頭頸部の脈管		
	エ 頭頸部の神経		
	オ 頭頸部の内臓		咽頭、喉頭を含む
	カ 顔面		
2 口腔・顎・顔面の構造	ア 口腔前庭		
	イ 固有口腔		
	ウ 口蓋		
	エ 舌		
	オ 口(腔)底		
	カ 唾液腺		
	キ 頬		
	ケ 口唇		
	コ 口峽		
	サ 歯列		
	シ 顎関節		
3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能	ア 下顎位、下顎運動		
	イ 咬合接触、咬合様式		
	ウ 顎関節の機能		
	エ 吸啜		
	オ 咀嚼		
	カ 嚥下		
	キ 嘔吐		
	ケ 嗅覚		
	コ 発音、構音		
	サ 顎・口腔領域の反射		
	シ 味覚		
	ス 顔面皮膚の感覚		
	セ 粘膜の感覚		
	ソ 唾液分泌		
	タ 呼吸		
4 歯・歯周組織の構造と機能	ア 歯の形態		
	イ 歯式		
	ウ エナメル質		
	エ 象牙質・歯髄複合体		
	オ セメント質		
	カ 歯肉		
	キ 歯根膜<歯周靱帯>		
	ケ 歯槽骨		
	コ 歯・歯列の機能		
5 口腔の生態系	ア 唾液		
	イ 常在微生物叢		
	ウ プラーク<口腔バイオフィルム>		

総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢〔約3%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 人体の発生・成長・発達・加齢	ア 生殖、初期発生		
	イ 胎芽期		
	ウ 胎児期		
	エ 新生児期、乳児期		
	オ 幼児期、学童期		
	カ 思春期		
	キ 成長・発達の評価		
	ク 加齢、老化		
	ケ 骨格・筋系〈運動器系〉		
2 機能の発達	ア 運動・感覚機能		
	イ 認知機能		
	ウ 言語機能		
	エ 情緒・社会性		
3 歯・口腔・顎・顔面の発生	ア 顔面		
	イ 顎、口蓋		
	ウ 舌		
	エ 唾液腺		
	オ 顎関節		
	カ 歯の形成・萌出		
	キ 歯周組織の形成		
	ク 軟骨内骨化、膜内骨化		
	ケ 骨の形成・吸収・改造〈リモデリング〉		
	コ 石灰化機構		
4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育	ア 脳頭蓋の成長発育		
	イ 顔面頭蓋の成長発育		
	ウ 歯列・咬合の成長発育		
5 口腔・顎の機能の発達	ア 咀嚼		
	イ 嚥下		
	ウ 唾液分泌		
	エ 味覚		
6 加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化	ア 形態的变化		
	イ 機能的変化		

総論VI 病因、病態〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病因論	ア 染色体・遺伝子・発生の異常		
	イ 環境と疾患		
2 細胞組織の傷害	ア 代謝障害(変性)		
	イ 萎縮		
	ウ 細胞死		
3 修復と再生	ア 口腔の診察・検査		
	イ 肥大、過形成(増生)		
	ウ 化生		
	エ 再生		
	オ 創傷治癒		
	カ 異物処理		
4 循環障害	ア 全身の循環障害		
	イ 局所の血液分布異常		
	ウ 閉塞性の循環障害		
5 炎症	ア 炎症の概念		
	イ 炎症の原因		
	ウ 炎症に関与する細胞		
	エ 炎症の機序・病態		
	オ 急性炎症、慢性炎症		
	カ 肉芽腫性炎の種類・特徴		
6 感染症、アレルギー、免疫疾患	ア 感染の概念		
	イ 病原微生物		
	ウ 宿主側の因子		
	エ 感染症		
	オ 免疫不全		
	カ 自己免疫疾患		
	キ アレルギー反応(過敏症)		
7 腫瘍	ア 腫瘍の概念		
	イ 腫瘍発生の病因		
	ウ 腫瘍の疫学		
	エ 腫瘍の発育様式		
	オ 腫瘍の組織学的構造		
	カ 構造異型、細胞異型		
	キ 良性腫瘍、悪性腫瘍		
	ク 前癌状態、前癌病変		
	ケ 腫瘍と宿主の関係		
8 疼痛	ア 侵害受容性疼痛		
	イ 神経障害性疼痛		
	ウ 心因性疼痛		
	エ 口腔・顔面領域の疼痛		
9 中毒、放射線障害	ア 中毒の発生要因・病態生理		
	イ 放射線の身体的影響		
	ウ 放射線の遺伝的影響		
	エ 放射線の確率的・確定的影響		
10 医原病	ア 検査・診断に伴う医原病		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 治療に伴う医原病		
11 歯・口腔・顎・顔面・ 頭蓋疾患の病因・病態	ア 先天異常・後天異常		
	イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織 ・辺縁歯周組織の疾患		
	ウ 口腔粘膜の疾患		
	エ 唾液腺の疾患		
	オ 顎・顎関節の疾患		
	カ 嚢胞		
	キ 腫瘍		
	ク 損傷		
	ケ 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全 身疾患		
	コ 口腔疾患の治療に伴う変化		
	サ リスクファクター		
12 歯の喪失に伴う口腔・ 顎・顔面の変化	ア 口腔の形態・機能の変化		
	イ 顎骨の形態変化		
	ウ 顔貌の変化		
	エ 顎関節の変化		
	オ 全身への影響		
13 個体の死	ア 死の概念・判定		
	イ 生物学的な個体の死		

総論Ⅶ 主要症候〔約4%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 全身的症候	ア 一般的症候		発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思(欲)不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害
	イ 皮膚、外表		
	ウ 呼吸器、心臓、血管		
	エ 消化器		
	オ 血液、造血器、免疫		
	カ 口腔の診察・検査		
	キ 心理、精神機能		
	ク 神経(知覚障害と運動障害を含む)		
	ケ 内分泌、代謝、栄養		
2 歯・口腔・顎・顔面の症候	ア 歯、歯髄・根尖歯周組織		
	イ 辺縁歯周組織		
	ウ 歯列、咬合		
	エ 口腔粘膜		
	オ 顎骨		
	カ 顎関節		
	キ 顔面		
	ク 舌、軟組織、唾液腺、リンパ節		
	ケ 口腔機能障害	a 開口・閉口障害、咀嚼障害、摂食・嚥下障害、発音・構音障害、味覚障害、呼吸障害、感覚障害、口腔乾燥	

総論Ⅷ 診察〔約7%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 診察総論	ア 医療面接		
	イ 診察の基本		
	ウ 全身の診察		
	エ 救急時の診察		
	オ 根拠に基づいた医療<EBM>		
	カ 評価の基本		
2 小児への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理・社会的特徴		
	ウ 診察		
	エ 評価		
	オ 留意すべき疾患		発達障害<学習障害<LD>、注意欠陥多動性障害<ADHD>、自閉症スペクトラム障害<ASD>>の概念と対応
3 障害者への対応	ア 障害の概念		
	イ 障害の分類		
	ウ 診察		
	エ 評価		
	オ 介助、介護、患者管理		
4 妊婦・授乳婦への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理・社会的特徴		
	ウ 診察		
	エ 評価		
	オ 歯科治療上留意すべき事項		
5 高齢者への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理・社会的特徴		
	ウ 医療情報の収集		
	エ 診察		
	オ 評価		
	カ 要介護高齢者の歯科治療		
	キ 在宅歯科医療		
	ク 摂食・嚥下障害とリハビリテーション		
6 全身疾患を有する者への対応	ア 留意すべき疾患		悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、腎不全、肝疾患、糖尿病、高血圧性疾患、感染症など
	イ 身体的特徴		
	ウ 心理・社会的特徴		
	エ 医療情報の収集		
	オ 診察		
	カ 評価		
	キ 医療連携、チーム医療		

総論Ⅸ 検査〔約16%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 口腔内検査・口腔機能検査	ア 歯の硬組織の検査		
	イ 歯髄検査		
	ウ 根尖歯周組織検査		
	エ 辺縁歯周組織検査		
	オ 舌・口腔粘膜検査		
	カ 歯列・咬合検査		
	キ 唾液・唾液腺検査		
	ク 口腔清掃状態検査		
	ケ 下顎位検査		
	コ 下顎運動検査		
	サ 顎関節・筋機能検査		
	シ 舌運動・舌圧検査		
	ス 咀嚼機能検査		
	セ 咬合力検査		
	ソ 嚥下機能検査		
	タ 構音機能検査		
	チ 鼻咽腔閉鎖機能検査		
	ツ 味覚検査		
	テ 口臭検査		
2 画像検査	ア 電離放射線		
	イ 放射線の単位・測定		
	ウ 放射性同位元素		
	エ エックス線撮影装置・器材		
	オ エックス線画像の形成		
	カ デジタル画像システム		
	キ 放射線の防護・管理		
	ク 検査における医療情報		検査情報検索システム、診療支援システム、画像情報システム、画像診断支援システム<CAD>
	ケ 口内法エックス線検査		
	コ パノラマエックス線検査		
	サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査		
	シ CT		
	ス 歯科用コーンビームCT		
	セ MRI		
	ソ シンチグラフィ		SPECT、PETを含む
	タ 超音波検査		
	チ 造影検査		
	ツ 内視鏡検査		
3 検体検査	ア 検体の採取・保存		
	イ 一般臨床検査		
	ウ 血液学検査		
	エ 生化学検査		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	オ 免疫学検査		
	カ 微生物学検査		
	キ 病理組織学検査、細胞診		
	ク 染色体・遺伝子検査		
4 生体機能検査	ア 呼吸機能検査		パルスオキシメトリ
	イ 心機能検査		
	ウ 消化管機能検査		
	エ 肝・胆道機能検査		ICG試験
	オ 脾機能検査		
	カ 内分泌・代謝機能検査		
	キ 基礎代謝検査		
	ク 腎機能検査		
	ケ 脳波検査		
	コ 筋電図・神経伝導検査		徒手筋力テスト
5 その他の検査	ア 皮膚検査		ブリックテスト、皮内テスト、針反応テスト、パッチテスト
	イ 皮膚知覚検査		

総論X 治療〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 治療計画	ア 治療計画の立案		
	イ 治療計画を左右する因子		
	ウ 治療計画の提示		
	エ 治療の評価		
2 治療の基礎	ア 主訴の改善		
	イ キュアとケア		
	ウ 原因療法		
	エ 対症療法		
	オ 保存療法と外科療法		
	カ 緩和療法		
	キ 再生療法		
	ク 再建療法		
	ケ 小児の治療		
	コ 障害者の治療		
	サ 成人の治療		
	シ 高齢者の治療		
3 救急医療	ア 乳児に対する一次救命処置		
	イ 小児に対する一次救命処置		
	ウ 成人に対する一次救命処置		
	エ 高度な気道管理		
	オ 成人・小児に対する二次救命処置		
	カ 窒息・誤飲・誤嚥に対する対応		
4 手術・周術期の管理	ア 手術の適応		
	イ 口腔環境の評価		
	ウ 全身状態の評価		
	エ 全身的偶発症		
	オ 術前管理		
	カ 術中管理		
	キ 術後管理		疼痛の管理、感染予防、栄養管理
	ク 外科的侵襲に対する反応		
5 手術基本手技	ア 消毒と滅菌		
	イ 切開法		
	ウ 止血法		
	エ 縫合法		
	オ 穿刺、切開排膿、ドレナージ		
	カ 拔牙		
	キ 口腔の小手術		
	ク 移植、再植		
	ケ 創傷の治療		
6 麻酔、緩和医療	ア 局所麻酔法		
	イ 局所麻酔薬、血管収縮薬		
	ウ 全身麻酔法		日帰り全身麻酔を含む
	エ 吸入麻酔薬、静脈麻酔薬		

大項目	中項目	小項目	備考
	オ 筋弛緩薬とその拮抗薬		
	カ 麻酔補助薬		
	キ 術前管理と麻酔前投薬		
	ク 術中・術後管理とモニタリング		
	ケ 吸入鎮静法、静脈内鎮静法		
	コ 合併症、偶発症		
	サ 疼痛とQOL<quality of life>		
	シ 緩和ケア		癌性疼痛治療法、ペインコントロール
7 リハビリテーション	ア リハビリテーションの概念		
	イ 摂食・嚥下障害のリハビリテーション		咀嚼障害、摂食・嚥下障害
	ウ 発音障害・構音障害のリハビリテーション		構音機能障害
	エ 口腔機能管理		
	オ 栄養管理		経口栄養、経静脈栄養、経管栄養
	カ 栄養サポートチーム<NST>		
	キ 多職種連携		
8 放射線治療	ア 放射線治療の生物学的・物理学的基礎		
	イ 口腔領域の放射線治療		
	ウ 照射の有害反応		
	エ 放射線治療患者の口腔管理		
9 薬物療法	ア 薬物療法の種類		
	イ 適用方法と剤形		
	ウ 薬物動態		
	エ 薬効に影響を及ぼす因子		
	オ 薬物の作用部位・作用機序		
	カ 用量と反応		
	キ 薬物の連用		
	ク 服薬指導		
	ケ 薬物の副作用・有害作用・薬物相互作用		
	コ 薬物適用の注意		服薬計画
	サ 鎮痛薬		麻薬性・非麻薬性鎮痛薬
	シ 抗炎症薬		抗アレルギー薬、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬
	ス 抗感染症薬		抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬
	セ 抗腫瘍薬		

大項目	中項目	小項目	備考
	ソ 代謝改善薬、ビタミン		硬組織代謝改善治療薬
	タ 止血薬、抗血栓薬		
	チ 齲蝕予防薬		
	ツ 薬物の保管・管理		麻薬・向精神薬
	テ 臨床試験		二重盲検法、無作為化、GCP<医薬品の臨床試験の実施の基準>、治験審査委員会<IRB>
10 その他の治療法	ア 理学療法		温熱、寒冷、水、光、電気、徒手、マッサージ、呼吸理学療法
	イ 超音波療法		
	ウ 運動療法		筋機能療法
	エ 凍結療法		
	オ レーザー療法		
	カ 免疫療法		
	キ 酸素療法		
	ク 高気圧酸素療法		
	ケ 心身医学療法		自律訓練法、行動療法、認知行動療法、カウンセリング
	コ IVR<Interventional Radiology>		
	サ 輸液療法		
	シ 輸血療法		
	ス 精神療法		

総論XI 歯科材料と歯科医療機器〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 生体材料の科学	ア 有機材料		
	イ セラミック材料		
	ウ 金属材料		
	エ 複合材料		
	オ 物理的性質		
	カ 機械的性質		
	キ 化学的性質		
	ク 生物学的性質と生体安全性		インプラントにおけるオッセオインテグレーションを含む
2 診療用器械	ア 歯科用ユニット		
	イ エアータービン		
	ウ マイクロモータ		
	エ レーザー装置		
3 切削、研削、研磨	ア 切削・研削工具		
	イ 研磨剤		
4 印象用材料	ア 酸化亜鉛ユージノール		
	イ モデリングコンパウンド		
	ウ 印象用石膏		
	エ 印象用ワックス		
	オ アルジネート		
	カ 寒天		
	キ シリコーンゴム		
	ク ポリエーテルゴム		
	ケ ポリサルファイドゴム		
	コ 機能印象材		
	サ 印象用トレー		
5 模型用材料	ア 歯科用石膏		
	イ レジン系模型材		
6 歯科用ワックス	ア インレーワックス		
	イ パラフィンワックス		
	ウ シートワックス、レディキャスティングワックス、スティッキーワックス、ユーティリティワックス		
7 予防填塞・成形修復・歯内療法用材料	ア コンポジットレジン		
	イ 歯質接着処理材、接着性モノマー		
	ウ グラスアイオノマーセメント		
	エ 歯科用アマルガム		
	オ 予防填塞材		
	カ 仮封材		
	キ 裏層材		
	ク 覆髄材		
	ケ 根管充填材		
8 歯冠修復用材料	ア レジン		

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 陶材		
	ウ 金属焼付陶材		
	エ アルミナ		
	オ ジルコニア		
	カ ガラスセラミックス		
	キ 金合金		
	ク 金銀パラジウム合金		
	ケ 銀合金		
	コ 陶材焼付用合金		
	サ チタン、チタン合金		
	シ 支台築造材		
	ス 暫間補綴・修復用材料		
9 義歯用材料	ア 基礎床材料		
	イ 加熱重合型アクリルレジン		
	ウ 常温重合型アクリルレジン		
	エ ポリスルホン、ポリカーボネート		
	オ 人工歯		
	カ 義歯床用裏装材		軟質裏装材を含む
	キ 金合金		
	ク 金銀パラジウム合金		
	ケ コバルトクロム合金		
	コ チタン、チタン合金		
	サ ステンレス鋼		
	シ 歯科用磁性合金		
	ス ろう材		
10 レジンの成形技術・機器	ア 加熱重合		
	イ 常温重合(流し込み成形)		
	ウ 光重合		
	エ 加熱・加圧形成		
11 セラミックスの成形技術・機器	ア 陶材の築盛・焼成		
	イ 陶材と金属の接合		
	ウ セラミックスの成形加工		
	エ CAD/CAM		
12 金属の成形技術・機器	ア 鋳造工程		
	イ 石膏系鋳型材		
	ウ リン酸塩系鋳型材		
	エ 鋳造精度		
	オ 鋳造欠陥		
	カ ろう付け		
	キ 鋳接、溶接		
	ク 塑性加工と焼きなまし		
	ケ 軟化熱処理と硬化熱処理		
13 歯科接着技術・機器	ア エナメル質被着面処理		
	イ 象牙質被着面処理		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ウ セラミックス被着面処理		
	エ 金属被着面処理		
14 合着・接着・仮着用材料	ア レジンセメント、接着性モノマー		
	イ グラスアイオノマーセメント		
	ウ ポリカルボキシレートセメント		
	エ リン酸亜鉛セメント		
	オ 酸化亜鉛ユージオールセメント		
	カ EBAセメント		
15 歯科矯正用材料	ア 線材料、ワイヤー		
	イ バンド、ブラケット		
	ウ 接着材		
	エ エラスティック		
	オ 床用レジン		
16 歯周治療・口腔外科・インプラント用材料	ア インプラント材料		インプラントの基本構造を含む
	イ 骨補填材		
	ウ 骨接合・顎骨再建プレート		
	エ 組織再生用材料		
	オ 縫合糸、包帯		

齒科医学各論

各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理〔約6%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 齲蝕の予防・管理	ア 齲蝕の病因		
	イ 齲蝕リスク検査・評価		
	ウ 初期齲蝕の診断		
	エ ライフステージと齲蝕		第一次・第二次・第三次予防を含む
	オ 齲蝕の予防手段		
	カ 齲蝕の予防効果の評価		
	キ フッ化物の応用法		
	ク 根面齲蝕の予防		
2 歯周病の予防・管理	ア 歯周病の病因		
	イ 歯周病のリスクファクター・診断		
	ウ ライフステージと歯周病		第一次・第二次・第三次予防を含む
	エ 歯周病と生活習慣病のリスク		誤嚥性肺炎など関連するリスクを含む
	オ 歯周病の予防手段		
	カ 歯周病の予防効果の評価		
3 不正咬合の予防・管理	ア 不正咬合発生・進行の要因		
	イ 不正咬合発生の予防		
	ウ 不正咬合進行の抑制		
4 口臭の予防・管理	ア 口臭の原因		
	イ 口臭の診断		
	ウ 口臭の予防・治療		
5 その他の疾患の予防・管理	ア 歯の損耗<Tooth Wear>		咬耗症、摩耗症、酸蝕症、アブフラクション、くさび状欠損
	イ 歯・歯肉の着色・変色		
	ウ 歯・口腔の外傷		
	エ 唾液腺疾患、口腔乾燥症		
	オ 顎関節疾患		
	カ 味覚障害		
	キ 口腔粘膜疾患、口腔癌		
	ク スポーツによる歯・口腔の外傷予防		マウスガードを含む
6 保健指導	ア 口腔清掃の意義		
	イ 口腔清掃法		
	ウ 口腔清掃指導		
	エ 生活習慣指導		
	オ 禁煙指導・支援		
	カ ライフステージと口腔機能育成・増進指導		
7 食育と食の支援	ア 食生活と健康課題		
	イ 食事摂取基準と食事バランスガイド		
	ウ 間食指導		
	エ ライフステージと食の支援		

各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態〔約19%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常	ア 口唇・口蓋裂		
	イ 顔面裂		
	ウ 鎖骨頭蓋骨異形成症<鎖骨頭蓋異骨症>		
	エ 骨形成不全症		
	オ Treacher Collins症候群<下顎顔面異骨症>		
	カ Crouzon症候群<頭蓋顔面異骨症>		
	キ Apert症候群<尖頭合指症>		
	ク 軟骨無形成症		
	ケ 第一第二鰓弓症候群		Goldenhar症候群を含む
	コ Marfan症候群		
	サ Russell-Silver症候群		
	シ Turner症候群		
	ス Beckwith-Wiedemann症候群<EMG症候群>		
	セ Robinシークエンス<Pierre Robin症候群>		
	ソ エナメル質形成不全{症}		Turnerの歯、エナメル質減形成症
	タ 象牙質形成不全症		
	チ 象牙質異形成症		
	ツ 先天性表皮水疱症		
	テ 先天性外胚葉形成不全<先天性外胚葉異形成症>		
	ト 先天性色素失調症		
	ナ 低フォスファターゼ症		
	ニ Papillon-Lefèvre症候群		
	ヌ 先天性好中球機能不全症		
	ネ Down症候群<21トリソミー症候群、21トリソミー>		
	ノ Klinefelter症候群		
	ハ 18トリソミー症候群<Edwards症候群>		
	ヒ 猫鳴き症候群<5p-症候群>		
	フ その他の先天異常・遺伝性疾患		
2 顎口腔領域の発育異常	ア 下顎頭欠損		
	イ 関節突起発育不全		
	ウ 下顎頭肥大		
	エ 顎関節疾患		
3 歯の異常	ア 過剰歯		正中歯
	イ 歯の先天欠如		部分性無歯症、全部性無歯症
	ウ 癒合歯、癒着歯、双生歯		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	エ 異常咬頭・結節		中心結節、第六咬頭、第七咬頭、切歯結節、カラベリー結節、プロトスタイリッド
	オ 歯内歯		
	カ 矮小歯		円錐歯
	キ 巨大歯		
	ク タウロドント		
	ケ 歯根の異常		
	コ 異所性エナメル質		エナメル滴、エナメル突起
	サ 歯のフッ素症		
	シ エナメル質形成不全(症)		Turnerの歯、エナメル質減形成症
4 歯・口腔・顎疾患	ア 歯牙腫		
	イ 歯の異所萌出		
	ウ 埋伏歯		
	エ 低位乳歯		
	オ 早期萌出乳歯		先天歯、新生児歯
	カ 歯の萌出遅延		
	キ 口唇炎		
	ク 口角びらん		
	ケ 口唇ヘルペス		
	コ 先天性下唇瘻・口角瘻		
	サ 萌出嚢胞		
	シ 上皮真珠		
	ス 舌の異常		巨舌症、小舌症、地図状舌
	セ Riga-Fede病		
	ソ Bednarアフタ		
	タ 疱疹性歯肉口内炎		
	チ 手足口病		
	ツ ヘルパンギーナ		
	テ Koplik斑		
	ト 上唇・舌小帯異常		
	ナ 粘液嚢胞		粘液瘤、ガマ腫、Blandin-Nuhn(腺)嚢胞嚢<前舌腺嚢胞>
5 歯の外傷	ア 歯の外傷の状況と影響		
	イ 診察と診断、治療方針		
	ウ 乳歯・幼若永久歯の外傷の処置と経過		
	エ 小児の歯の外傷の予防		
6 歯列・咬合異常の予防	ア 歯列・咬合異常の要因		
	イ 咬合誘導の考え方		
	ウ 保隙		

大項目	中項目	小項目	備考
	エ 動的咬合誘導		
	オ 口腔習癖とその対応		

●不正咬合

大項目	中項目	小項目	備考
7 不正咬合の病因・病態	ア 正常咬合の概念と成立の条件		
	イ 不正咬合の種類		
	ウ 不正咬合の分類		
	エ 不正咬合の原因		
	オ 不正咬合による障害		
8 不正咬合の診断	ア 診察		
	イ 検査		
	ウ 診断		抜歯・非抜歯の判定を含む
	エ 治療計画		
9 矯正力と固定	ア 狭義の矯正力		
	イ 顎整形力		
	ウ 生体反応		
	エ 固定		
10 矯正装置	ア 咬合斜面板		
	イ 咬合挙上板		
	ウ アクチバートル		
	エ バイオネーター		
	オ Fränkel装置		
	カ リップバンパー		
	キ ヘッドギア<上顎顎外固定装置>		
	ク チンキャップ<オトガイ帽装置>		
	ケ 上顎前方牽引装置		
	コ スライディングプレート		
	サ マルチブラケット装置		
	シ リンガルアーチ<舌側弧線装置>		
	ス 急速拡大装置		
	セ クワドヘリックス装置		
	ソ タングクリブ		
	タ Nanceのホールディングアーチ		
	チ トランスパラタルアーチ		
	ツ セクショナルアーチ		
	テ Hawleyタイプリテーナー		
	ト Beggタイプリテーナー<ラップアラウンドリテーナー、サーカムフェレンシアルタイプリテーナー>		
	ナ トゥースポジショナー		
	ニ 犬歯間保定装置		
11 不正咬合の治療	ア 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 永久歯列期の不正咬合の治療		
	ウ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療		
	エ 顎変形症の治療		
	オ 補綴・歯周治療との併用		
	カ 治療中の管理		
	キ 保定		
	ク 偶発症		

各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患〔約23%〕

●歯の硬組織疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1 小児の歯の硬組織疾患	ア 乳歯齲蝕		
	イ 幼若永久歯齲蝕		
	ウ 齲蝕のリスクファクター		
	エ 非齲蝕性硬組織疾患		
2 成人の歯の硬組織疾患	ア 齲蝕		
	イ 齲蝕のリスクファクター		
	ウ 歯の損耗<Tooth Wear>		咬耗症、摩耗症、酸蝕症、アブフラクション、くさび状欠損
	エ 形成異常		
	オ 歯の変色・着色		
	カ 歯の亀裂・破折、脱臼		
3 歯の硬組織疾患の治療	ア 乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法		
	イ 永久歯の直接修復法		
	ウ 永久歯の間接修復法		
	エ 窩洞形成法		
	オ 象牙質・歯髄保護法		
	カ 補修修復		
	キ 歯の漂白		
	ク 身体的・社会的・心理的要因と保存修復		

●歯髄・根尖性歯周組織疾患

大項目	中項目	小項目	備考
4 小児の歯髄・根尖性歯周組織疾患	ア 乳歯の歯髄疾患		
	イ 乳歯の根尖性歯周組織疾患		
	ウ 幼若永久歯の歯髄疾患		
	エ 幼若永久歯の根尖性歯周組織疾患		
5 成人の歯髄・根尖性歯周組織疾患	ア 象牙質知覚過敏症		
	イ 歯髄疾患		
	ウ 根尖性歯周組織疾患		
	エ 歯内-歯周疾患		
	オ 歯の外傷		
	カ 内部吸収、歯根外部吸収		
	キ 根尖性歯周組織疾患が全身に及ぼす影響		
6 歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療	ア 象牙質知覚過敏症の治療		
	イ 歯髄保存療法		
	ウ 歯髄除去療法		
	エ 根尖性歯周組織疾患の治療		
	オ 根管処置、感染根管治療法		
	カ 根管充填		
	キ 根未完成歯の治療		
	ク 再根管治療		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ケ 歯内-歯周疾患の治療		
	コ 外傷歯の治療		
	サ 内部吸収歯・歯根外部吸収歯の治療		
	シ 外科的歯内療法		
	ス 顕微鏡を用いた歯内療法		
	セ 歯髄・根管処置における偶発症と安全対策		
	ソ 根管処置後の歯冠修復		
	タ 全身疾患を有する者の歯内療法		

●歯周病

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
7 小児の歯周病	ア 歯周病の特徴 イ 歯周病への対応		
8 成人の歯周病	ア 歯肉病変 イ 歯肉病変の病原因子 ウ 歯周炎 エ 歯周炎のリスクファクター オ 壊死性歯周疾患 カ 咬合性外傷 キ 歯周組織の膿瘍 ク 歯肉退縮 ケ 歯周-歯内病変 コ 歯周病と健康の関わり		
9 歯周病の治療	ア 急性症状を有する歯周病への対応 イ 歯周基本治療 ウ 咬合性外傷に対する治療 エ 歯周外科治療 オ 歯周組織再生治療 カ 根分岐部病変の治療 キ 口腔機能回復治療 ク 歯周病の抗菌療法 ケ メインテナンス、SPT<supportive periodontal therapy> コ 全身疾患を有する者の歯周病治療		組織付着療法、切除療法、歯周形成手術を含む

各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患〔約23%〕

●主として軟組織に関連する疾患の病態と治療

大項目	中項目	小項目	備考
1 先天異常と変形を主徴とする疾患	ア 口唇・口蓋裂		
	イ 先天性鼻咽腔閉鎖不全		
	ウ 顔面裂		
	エ 口唇・頬部の異常		
	オ 舌・口底の異常		
	カ 歯肉・口蓋の異常		
	キ 小帯の異常		
	ク 先天異常と変形に対する治療		言語治療を含む
2 軟組織の損傷	ア 口腔軟組織の損傷		
	イ 顔面軟組織の損傷		
	ウ 損傷に対する治療		
3 軟組織の炎症	ア 歯冠周囲炎<智歯周囲炎>		
	イ 口腔軟組織の炎症		
	ウ 蜂窩織炎		
	エ 所属リンパ節の炎症		
	オ 歯性扁桃周囲炎		
	カ 歯性上顎洞炎		
	キ 歯性全身感染症		菌血症、敗血症、歯性病巣感染、全身性炎症(性)反応症候群<SIRS>
	ク 肉芽腫性炎		放線菌症、口腔結核、口腔梅毒
4 軟組織に発生する嚢胞	ア 萌出嚢胞		
	イ 歯肉嚢胞		
	ウ 粘液嚢胞		
	エ 類皮嚢胞、類表皮嚢胞		
	オ 鼻歯槽嚢胞		
	カ 鰓嚢胞<側頸嚢胞、リンパ上皮性嚢胞>		
	キ 甲状舌管嚢胞		
	ク 嚢胞に対する治療		
	ケ 炎症に対する治療		
5 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	ア 歯源性良性腫瘍		
	イ 非歯源性良性腫瘍		
	ウ 口唇癌		
	エ 舌癌		
	オ 頬粘膜癌		
	カ 口蓋癌		
	キ 上顎・下顎歯肉癌		
	ク 口底癌		
	ケ 上顎洞癌		
	コ 軟組織の肉腫		
	サ 白血病		

大項目	中項目	小項目	備考
	シ 悪性リンパ腫		
	ス 悪性黒色腫		
	セ 前癌病変、前癌状態		
	ソ 腫瘍類似疾患		エプーリス、義歯性線維腫、フェニトイン・シクロスポリン歯肉増殖症など
	タ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療	a 外科療法	再建術、頸部郭清術を含む
		b 化学療法	
		c 放射線療法	
		d 免疫療法	
	チ ガン治療患者の管理	a ガンの告知	
		b 治療時の患者管理	
		c 社会復帰	
		d 末期癌患者の管理	
		e 口腔衛生管理、口腔ケア	
		f 緩和医療	
6 口腔粘膜疾患	ア 単純疱疹<疱疹性口内炎>		
	イ 帯状疱疹		
	ウ ヘルパンギーナ		
	エ 手足口病		
	オ 天疱瘡		
	カ 類天疱瘡		
	キ 表皮水疱症		
	ク 多形(滲出性)紅斑		
	ケ 粘膜・皮膚・眼症候群<Stevens-Johnson症候群>		
	コ 中毒性表皮壊死剥離症<TEN>		
	サ 全身性エリテマトーデス<SLE>		
	シ 慢性再発性アフタ		
	ス Behçet病		
	セ 壊死性潰瘍性歯肉口内炎		
	ソ 壊疽性口内炎		
	タ 薬物性口内炎		
	チ 口腔扁平苔癬		
	ツ 口腔カンジダ症<鵝口瘡>		
	テ 白板症		
	ト 紅板症		
	ナ メラニン色素沈着症		
	ニ 外因性色素沈着		
	ヌ 色素性母斑		
	ネ Peutz-Jeghers症候群		

大項目	中項目	小項目	備考
	ノ Addison病		
	ハ von Recklinghausen病<神経線維腫症>		
	ヒ McCune-Albright症候群<多骨性線維性骨異形成症>		
	フ 口角びらん		
	ヘ 口腔乾燥症		
	ホ 鉄欠乏性貧血		
	マ Hunter舌炎		
	ミ 溝(状)舌		
	ム 黒毛舌		
	メ 化膿性舌炎		
	モ 地図状舌		
	ヤ 正中菱形舌炎		
	ユ 肉芽腫性口唇炎、 Melkersson-Rosenthal症候群		
	ヨ 接触性口唇炎		
	ラ 口角炎		
	リ 口腔粘膜疾患に対する治療		

●主として硬組織に関連する疾患の病態と治療

大項目	中項目	小項目	備考
7 顎顔面の変形を来す疾患・病態	ア 顎変形症		
	イ 骨増生		
	ウ 下顎頭欠損		
	エ 顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群		
	オ 顎顔面骨の変形に対する治療	a 顎矯正手術	
		b 補綴前外科手術	
		c 顎骨形成術	
		d 骨移植術<骨増量術>	
		e 骨延長術	
		f 上顎洞底挙上術	
		g 下顎頭形成術	
8 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷	ア 歯の亀裂・破折・脱臼		
	イ 骨折の様態		
	ウ 歯槽骨骨折		
	エ 下顎骨骨折		
	オ 関節突起骨折		
	カ 上顎骨骨折		
	キ 頬骨・頬骨弓骨折		
	ク 鼻骨骨折		
	ケ 眼窩壁吹き抜け骨折		

大項目	中項目	小項目	備考
9 歯槽骨・顎骨の炎症	コ 口腔上顎洞炎		
	サ 損傷に対する治療		
	ア 歯槽骨炎		
	イ 顎骨炎		
	ウ 顎骨骨膜炎		
	エ 顎骨周囲炎		
	オ 顎骨骨髓炎		
	カ 歯性上顎洞炎		
	キ 放射線性骨壊死		
	ク 薬剤関連顎骨疾患		薬剤関連顎骨壊死・ 壊疽・顎骨骨髓炎
	ケ 外歯瘻、内歯瘻		
	コ 顎骨周囲軟組織の炎症		
	サ 炎症に対する治療		
10 顎骨に発生する嚢胞性疾患	ア 歯根嚢胞		
	イ 歯周嚢胞		
	ウ 含歯性嚢胞<濾胞性歯嚢胞>		
	エ 原始性嚢胞		
	オ 腺性歯原性嚢胞		
	カ 鼻口蓋管嚢胞<切歯管嚢胞>		
	キ 術後性上顎嚢胞		
	ク 単純性骨嚢胞		
	ケ 脈瘤性骨嚢胞		
	コ 静止性骨空洞		
	サ 嚢胞に対する治療		
11 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	ア 歯原性良性腫瘍		
	イ 歯原性悪性腫瘍		
	ウ 非歯原性良性腫瘍		
	エ 非歯原性悪性腫瘍		
	オ 骨関連病変		
	カ 骨増生<骨隆起>		
	キ 線維骨性病変		
	ク 巨細胞性病変		
	ケ Langerhans細胞性組織球症		
	コ 顎骨に発生する腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療	a 顎骨腫瘍の外科療法	
		b 顎骨の再建	
		c 顎顔面補綴	
		d 顎顔面インプラント治療	

●主として機能に関連する疾患の病態と治療

大項目	中項目	小項目	備考
12 唾液腺疾患	ア 発育異常		
	イ 異所性唾液腺		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ウ 唾液瘻		
	エ 口腔乾燥症		放射線障害を含む
	オ 流涎症		
	カ 唾液管炎		
	キ 唾液腺炎		
	ク ウイルス性唾液腺炎		
	ケ 免疫異常による唾液腺炎		
	コ Sjögren症候群		
	サ Frey症候群		
	シ 唾石症		
	ス 外来異物		
	セ 粘液嚢胞		粘液瘤、ガマ腫、 Blandin-Nuhn(腺)嚢 胞<前舌腺嚢胞>
	ソ リンパ上皮性嚢胞		
	タ 良性腫瘍		
	チ 悪性腫瘍		
	ツ 腫瘍類似疾患		
	テ 唾液腺疾患の治療		
13 神経疾患	ア 三叉神経痛		
	イ 舌咽神経痛		
	ウ 非定型顔面痛、非歯原性歯痛		
	エ 複合性局所疼痛症候群<complex regional pain syndrome>		
	オ 舌痛症		
	カ 癌性疼痛		
	キ 舌神経麻痺		
	ク 顔面神経麻痺		
	ケ 軟口蓋麻痺		
	コ Ramsay Hunt症候群<Hunt症候群>		
	サ 顔面けいれん		
	シ 三叉神経麻痺		
	ス 舌下神経麻痺		
	セ 神経疾患の治療		
14 顎関節疾患	ア 下顎頭欠損		
	イ 下顎頭肥大		
	ウ 関節突起發育不全		
	エ 関節突起骨折		
	オ 顎関節脱臼		
	カ 非感染性顎関節炎		外傷性(顎)関節炎を 含む
	キ 感染性顎関節炎		
	ク リウマチ性顎関節炎		
	ケ 痛風性顎関節炎		
	コ 顎関節強直症		

大項目	中項目	小項目	備考
	サ 顎関節症		変形性(顎)関節症を含む
	シ 顎関節に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患		骨軟骨腫症、滑膜骨軟骨腫症を含む
	ス 顎関節疾患の治療		

●主として全身に関連する疾患の病態と治療

大項目	中項目	小項目	備考
15 口腔・顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群	ア 鎖骨頭蓋骨異形成症(鎖骨頭蓋異骨症)		
	イ 大理石骨病		
	ウ McCune-Albright症候群<多骨性線維性骨異形成症>		
	エ 骨形成不全症		
	オ Treacher Collins症候群<下顎顔面異骨症>		
	カ Crouzon症候群<頭蓋顔面異骨症>		
	キ 第一第二鰓弓症候群		Goldenhar症候群を含む
	ク 口腔・顔面・指趾症候群<OFD症候群>		
	ケ Apert症候群<尖頭合指症>		
	コ Marfan症候群		
	サ 基底細胞母斑症候群		
	シ Peutz-Jeghers症候群		
	ス Gardner症候群		
	セ Robinシークエンス<Pierre Robin症候群>		
	ソ Papillon-Lefèvre症候群		
	タ von Recklinghausen病<神経線維腫症>		
	チ Sturge-Weber症候群		
	ツ Ramsay Hunt症候群<Hunt症候群>		
	テ Beckwith-Wiedemann症候群<EMG症候群>		
	ト Melkersson-Rosenthal症候群		
16 口腔症状を呈する疾患	ナ 18トリソミー症候群<Edwards症候群>		
	ニ Down症候群<21トリソミー症候群、21トリソミー>		
	ヌ その他の口腔・顎顔面に異常を来す症候群		
	ア ウイルス感染症		ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症、ウイルス性肝炎、風疹、麻疹、水痘・带状疱疹

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
			疹、手足口病
	イ 細菌感染症		梅毒、破傷風、結核
	ウ 免疫異常	a アレルギー疾患	金属アレルギー、アレルギー性紫斑病、Quincke浮腫
		b 免疫不全	後天性免疫不全症候群<AIDS>
		c 自己免疫疾患	天疱瘡、類天疱瘡、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス<SLE>、円板状エリテマトーデス<DLE>、特発性血小板減少性紫斑病<ITP>、悪性貧血
		d 移植片対宿主病<GVHD>	
	エ 内分泌障害、代謝障害		下垂体性巨人症、下垂体性小人症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症、Cushing病、アルドステロン症、Addison病、糖尿病、アミロイドーシス、鉄欠乏性貧血
	オ 栄養障害		くる病、悪性貧血、壊血病
	カ 血液疾患、出血性素因	a 赤血球系疾患	貧血、赤血球増多症
		b 白血球系疾患	白血病、無顆粒球症、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫
		c 出血性素因	Osler病、アレルギー性紫斑病、特発性血小板減少性紫斑病<ITP>、血小板無力症、血友病A・B、von Willebrand病、播種性血管内凝固症候群<DIC>
	キ 血液疾患・出血性素因に対する観血的治療		
	ク 口腔領域に関連して現れる心因性病態		気分(感情)障害、不安障害、解離性障害、身体表現性障害、心身症

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ケ 薬物の副作用		薬疹、口腔乾燥症
	コ 口腔症状に対する治療		
17 全身管理に留意すべき 全身疾患・状態	ア 呼吸器疾患		
	イ 心臓・脈管疾患		
	ウ 消化器疾患		
	エ 泌尿器・生殖器疾患		
	オ 神経・運動器疾患		
	カ 精神・心身医学的疾患		
	キ 血液・造血器疾患		
	ク 内分泌疾患		
	ケ 代謝性疾患		
	コ 免疫疾患		
	サ 乳幼児		
	シ 小児		
	ス 高齢者		
	セ 妊娠		
18 歯科における全身的偶 発症	ア 血管迷走神経反射		
	イ 過換気症候群		
	ウ 局所麻酔薬中毒		
	エ アナフィラキシーショック		
	オ 血管収縮薬による反応		
	カ メトヘモグロビン血症		
	キ 誤飲と誤嚥		
	ク 全身疾患の増悪		
19 歯科治療時の患者管理	ア 麻酔管理		
	イ 術前管理		
	ウ 術中管理		
	エ 術後管理		

各論Ⅴ 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害〔約23%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病態	ア 咬合・咀嚼障害		
	イ 摂食・嚥下障害		
	ウ 発語・構音障害		
	エ 審美障害		
	オ 社会・心理的障害		
	カ 顎関節症・口腔顔面痛		
	キ ブラキシズム		
	ク 睡眠時無呼吸症候群		
2 診察・検査・診断・前処置	ア 診察		
	イ 検査		咬合・顎機能の診察と検査、使用中の義歯の診察と検査、研究用模型による検査等を含む
	ウ 診断		
	エ 治療計画の立案		治療法の選択を含む
	オ 患者指導		
	カ 前処置		
3 補綴装置の要件	ア 生物学的要件		
	イ 機能的要件		
	ウ 形態的要件		
	エ 力学的要件		
	オ 咬合力の支持様式		
	カ 咬合様式		
	キ 審美的要件		
	ク 材料的要件		
	ケ 社会・心理的要件		
	コ 栄養的要件		
4 クラウンブリッジによる治療	ア 歯冠補綴装置の選択		
	イ ブリッジの設計		
	ウ 支台歯形成		
	エ 支台築造		
	オ プロビジョナルレストレーション		
	カ 印象採得		
	キ 作業模型の製作		
	ク 顎間関係の記録		
	ケ 咬合器装着・調節		
	コ ワックスパターン形成		
	サ 埋没		
	シ 鋳造、ろう付け、熱処理、研磨		
	ス 口腔内試適		
	セ 装着		
	ソ 患者指導		
5 部分床義歯による治療	ア 義歯の設計		義歯の構成要素を含む

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 印象採得		
	ウ 作業模型の製作		
	エ 顎間関係の記録		
	オ 咬合器装着・調節		
	カ サベイング		
	キ フレームワークの製作		
	ク 人工歯の選択・排列・削合		
	ケ 歯肉形成		
	コ 蠟義歯の試適		
	サ 埋没、重合		
	シ 咬合調整(削合)と仕上げ		
	ス 装着		
	セ 患者指導		
6 全部床義歯による治療	ア 義歯の設計		
	イ 印象採得		
	ウ 作業模型の製作		
	エ 顎間関係の記録		フェイスボウトランスファーを含む
	オ 咬合器装着・調節		
	カ 人工歯の選択・排列・削合		
	キ 歯肉形成		
	ク 蠟義歯の試適		
	ケ 埋没、重合		
	コ 咬合調整(削合)と仕上げ		
	サ 装着		
	シ 患者指導		
7 オーバーデンチャー	ア 基本構造		
	イ 利点と欠点		
8 インプラント義歯による治療	ア オッセオインテグレーションの獲得		初期固定(一次固定)、生物学的固定(二次固定)を含む
	イ 補綴装置の設計		アバットメントの種類、固定方法(スクリー固定、セメント固定)の選択、インプラントオーバーデンチャーを含む
	ウ インプラント埋入の治療計画		1回法と2回法の選択を含む
	エ インフォームドコンセント		他の補綴歯科治療法との違いについての説明を含む
	オ 外科処置		コンピュータ支援手術、骨造成等の付随手術および2次手術の術式を含む

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	カ プロビジョナルレストレーション		荷重時期の選択を含む
	キ 補綴装置の印象採得		クローズドトレー法、オープントレー法を含む
	ク 顎間関係の記録		
	ケ 補綴装置の製作		
	コ 補綴装置の装着		
	サ 合併症		
	シ 患者指導		メンテナンスを含む
9 特殊な装置による治療	ア 顎顔面補綴装置による治療		
	イ オクルーザルスプリントによる治療		
	ウ 摂食嚥下補助床による治療		
	エ 構音補助床による治療		
	オ 下顎前方保持装置による治療		睡眠時無呼吸症候群の治療
10 管理	ア リコール		
	イ ホームケア、プロフェッショナルケア		
	ウ 残存組織の変化とその対応		
	エ 咬合の変化とその対応		
	オ 機能低下とその対応		
	カ 補綴装置の破損とその対応		
	キ 義歯の管理		
	ク 栄養指導		

各論VI 高齢者の歯科診療〔約6%〕

●高齢者の歯・歯髄・歯周組織の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1 歯の硬組織疾患	ア 齲蝕の特徴		
	イ 非齲蝕性硬組織疾患の特徴		
	ウ 歯の変色・着色の特徴		
	エ 歯の硬組織疾患への対応		
2 歯髄・根尖性歯周組織疾患	ア 歯髄疾患の特徴		
	イ 根尖性歯周組織疾患の特徴		
	ウ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療		
3 歯周病	ア 歯周病の特徴		
	イ 歯周病への対応		
	ウ 歯周病と全身疾患の関わり		

●高齢者の軟組織に関連する疾患

大項目	中項目	小項目	備考
4 軟組織の損傷	ア 口腔軟組織の損傷		
	イ 顔面軟組織の損傷		
	ウ 損傷に対する治療		
5 軟組織の炎症	ア 口腔軟組織の炎症		
	イ 蜂窩織炎		
	ウ 歯性全身感染症		菌血症、敗血症
6 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	ア 腫瘍類似疾患		義歯性線維腫
	イ 前癌病変、前癌状態		
	ウ 良性腫瘍		
	エ 口腔癌		
	オ 肉腫		
	カ 白血病		
	キ 悪性リンパ腫		
	ク 他臓器からの転移腫瘍		
	ケ 腫瘍に対する治療		姑息的治療、ターミナルケア
7 口腔粘膜疾患	コ 治療前後の管理		
	ア 口腔カンジダ症		
	イ 口腔乾燥症		
	ウ 帯状疱疹		
	エ 口腔扁平苔癬		
	オ 口角びらん、口角炎		
	カ 黒毛舌		
	キ 鉄欠乏性貧血		
	ク Hunter舌炎		
	ケ 褥瘡性潰瘍		
	コ 口腔粘膜疾患に対する治療		

●高齢者の硬組織に関連する疾患

大項目	中項目	小項目	備考
8 顎骨の損傷	ア 下顎骨骨折		

大項目	中項目	小項目	備考
9 顎骨の炎症	イ 関節突起骨折		
	ウ 頬骨・頬骨弓骨折		
	エ 骨折に対する治療		
	ア 顎骨炎		
	イ 顎骨骨膜炎		
9 顎骨の炎症	ウ 顎骨骨髓炎		
	エ 放射線骨壊死		
	オ 薬剤関連顎骨壊死・壊疽・顎骨骨髓炎		

●高齢者の機能に関連する疾患

大項目	中項目	小項目	備考
10 神経疾患	ア 舌痛症		
	イ 三叉神経痛		
	ウ 顔面神経麻痺		
	エ 義歯によるオトガイ神経圧迫		
	オ 口腔ジスキネジア		
	カ 中枢性神経麻痺		
	キ 味覚異常		
11 唾液腺疾患	ア 口腔乾燥症		放射線障害を含む
	イ 良性腫瘍		
	ウ 悪性腫瘍		
	エ 腫瘍類似疾患		
	オ 唾液腺疾患の治療		
12 顎関節疾患	ア 顎関節脱臼		
	イ 顎関節症		変形性(顎)関節症
	ウ リウマチ性顎関節炎		
	エ 顎関節疾患の治療		

●高齢者に多い留意すべき全身疾患

大項目	中項目	小項目	備考
13 管理に留意すべき全身疾患	ア 循環器疾患		高血圧性疾患、脳梗塞、虚血性心疾患
	イ 悪性新生物		大腸癌、肺癌、胃癌
	ウ 呼吸器疾患		気管支炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺炎
	エ 腎臓疾患		腎不全
	オ 精神・心身医学的疾患		うつ病、認知症
	カ その他の高頻度に見られる全身疾患・症状		胃食道逆流症<GERD>、血液透析、糖尿病、骨粗鬆症
	キ 要介護の原因疾患		脳血管疾患、認知症、Parkinson病、肺炎、転倒・骨折、廃用症候群

●高齢者の口腔管理と摂食・嚥下機能に関する障害および治療

大項目	中項目	小項目	備考
14 訪問歯科診療	ア 口腔管理プランの策定		
	イ 口腔衛生管理のための口腔のケア		
	ウ 口腔機能管理のための口腔のケア		
	エ 補綴装置の管理		
15 摂食・嚥下機能	ア 摂食・嚥下機能の加齢変化		
	イ 摂食・嚥下障害の病因・病態		
	ウ 摂食・嚥下障害の評価・検査		
	エ 摂食・嚥下障害の主な原因		
	オ 摂食・嚥下に関する諸因子		
16 摂食・嚥下障害	ア 摂食・嚥下障害の評価・検査	a 身体所見	
		b 栄養、食事	
		c スクリーニングテスト	
		d 検査	
	イ 摂食・嚥下障害の対応	a リハビリテーションの理念	
		b 間接訓練	
		c 直接訓練、段階的摂食訓練	
		d 食事指導、食事介助	
		e 歯科的アプローチ	摂食・嚥下機能および音声言語機能改善のための補助装置
17 高齢者の栄養管理	ア 栄養状態の評価		
	イ 食内容の管理		
	ウ 食形態の管理		
	エ 栄養療法	a 経口栄養	
		b 経静脈栄養	
		c 経管栄養	
	オ 栄養指導		

●高齢者の補綴歯科治療

大項目	中項目	小項目	備考
18 補綴歯科治療	ア 残存組織の変化とその対応		
	イ 咬合の変化とその対応		
	ウ 機能低下とその対応		
	エ 補綴装置の破損とその対応		
	オ 義歯の管理		

平成 25 年度
歯科医学総合講義 6
必修領域 英単語集
(科目別)

A ランク (最重要) : 和訳、英訳の両方ができる
べき単語 (科目名も含む)

B ランク (重要) : 和訳できるべき単語

C ランク (標準) : 知っておくべき単語

<解剖学 Anatomy>

Aランク

Tooth	歯(複数形 teeth)
dental	歯(学)の
jaw(s)	顎(骨)
mandible	下顎骨
maxilla	上顎骨
incisor	切歯
canine	犬歯
premolar	小臼歯
molar	大臼歯
tongue	舌
lip	口唇

Bランク

mesial	近心
distal	遠心
buccal	頬側
lingual	舌側
palatal	口蓋側
anterior	前
posterior	後
alveolus (-ar)	歯槽

Cランク

pterygoid-	翼状-
------------	-----

<組織学 Histology>

Aランク

enamel	エナメル質
dentin(e)	象牙質
cementum	セメント質
dental pulp	歯髄
tissue	組織

Bランク

epithelial tissue	上皮組織
connective tissue	結合組織
muscle tissue	筋組織
nervous tissue	神経組織

Cランク

stratified squamous epithelium	重層扁平上皮
--------------------------------	--------

pseudostratified epithelium	多列線毛上皮
simple columnar epithelium	単層円柱上皮
simple squamous epithelium	単層扁平上皮
simple cuboidal epithelium	単層立方上皮
transitional epithelium	移行上皮

<生化学 Biochemistry>

Aランク

biology	生物学
molecular	分子(の)
serum	血清
metabolism	代謝
saliva	唾液
biofilm	バイオフィルム
antibiotics	抗生物質
collagen	コラーゲン

Bランク

growth factor	増殖因子
antibacterial factor	抗菌因子
osteoblast	骨芽細胞
osteoclast	破骨細胞
adenosine triphosphate	ATP (アデノシン三リン酸)
Interleukin	IL (インターロイキン)
Prostaglandin E2	PGE2 (プロスタグランジン E2)

<生理学 Physiology>

Aランク

vessel	血管
artery	動脈
vein	静脈
endocrine	内分泌
exocrine	外分泌
homeostasis	恒常性
saline	生理食塩水

Bランク

action potential	活動電位
sympathetic nerve	交感神経
parasympathetic nerve	副交感神経

<病理学 Pathology>

Aランク

(病名)

tumor, neoplasm	腫瘍
inflammation	炎症
cyst	嚢胞
dental caries	う蝕
pulpitis	歯髄炎
periodontitis	歯周炎
infarct (infarction)	梗塞
disease	疾患
lesion	病変(疾患)
epulis	エプーリス

(症状)

acute	急性
chronic	慢性
swelling	腫脹
pain	疼痛
bleeding, hemorrhage	出血
fever	発熱
hyperemia	充血
anemia	貧血
congestion	うっ血
symptom	症状
diagnosis	診断

Bランク

(その他)

carcinoma	癌(腫)
sarcoma	肉腫
adenoma	腺腫
papilloma	乳頭腫
squamous cell carcinoma	扁平上皮癌

<薬理学 Pharmacology>

Aランク

Drug, Medicine, medication	薬物
Pharmacy	薬局
Allergy	アレルギー

Bランク

Pharmacotherapy	薬物療法
bioavailability	生物学的利用能（バイオアベイラビリティ）
first pass effect	初回通過効果
side effect	副作用
drug dependence	薬物依存
drug tolerance	薬物耐性
drug hypersensitivity	薬物過敏症
drug interaction	薬物相互作用
oral administration	経口投与
intravenous injection	静脈内投与
dose	用量
blood-brain barrier	血液脳関門

<感染免疫学 Microbiology and Immunology>

Aランク

bacteria	細菌
fungus	真菌
virus	ウイルス
saliva	唾液
plaque	歯垢
bone marrow	骨髄
thymus	胸腺
immunity	免疫
infection	感染
microbiology	微生物学

Bランク

natural (innate) immunity	自然免疫
acquired immunity	獲得免疫
adaptive immunity	適応免疫
phagocytosis	貪食

<放射線学 Radiology>

Aランク

radioactivity	放射能
ionizing radiation	電離放射線
film processing	写真処理
speed	感度
summation effect	重積効果
tangential effect	接線効果

sialography	唾液腺造影法
arthrography	顎関節腔造影法
video fluorography	嚥下造影法
angiography	血管造影法

<臨床検査医学 Laboratory Medicine>

A ランク

clinic	臨床
clinical	臨床の
laboratory	検査室
medicine	医学
examination	検査(法)
blood pressure	血圧
erythrocyte, red blood cell: RBC	赤血球
leukocyte, white blood cell: WBC	白血球
platelet	血小板
plasma	血漿
serum	血清
anemia	貧血
HIV (human immunodeficiency virus)	HIV (ヒト免疫不全ウイルス)
AIDS (acquired immunodeficiency syndrome)	後天性免疫不全症候群
hypertension	高血圧
diabetes	糖尿病
hepatitis	肝炎

<歯科生体材料学 Dental Biomaterials>

A ランク

material	材料
resin	レジン
metal	金属(の)
ceramic	陶材(の)
amalgam	アマルガム

B ランク

acrylic resin	アクリルレジン
methyl methacrylate	メチルメタクリレート
elastic modulus (Young's modulus)	弾性係数 (ヤング率)
resilience (elastic energy)	レジリエンス (弾性エネルギー)
stress-strain curve	応力-ひずみ曲線
light cured composite resin	光重合型コンポジットレジン

chemical cured composite resin
hybrid layer
glass ionomer cement
amalgam alloy

化学重合型コンポジットレジン
樹脂含浸層
グラスアイオノマーセメント
アマルガム合金

<総合診療学 Oral Diagnostics>

Aランク

Diagnosis	診断
Oral	口腔の
Oral cavity	口腔

Bランク

Open-ended Question	開放型質問
Closed Question	閉鎖型質問
Neutral Question	中立型質
Focused Question	集中型質問
Repeat Question	繰り返しの質問
Multiple Choice Question	多選択肢の質問
Double Question	重複型質問
Leading Question	誘導型質問

<保存修復学 Operative Dentistry>

Aランク

caries cavity	齲窩
secondary caries	二次齲蝕
recurrent caries	再発齲蝕
dental caries	象牙質齲蝕
discolored dentin	着色象牙質
abrasion	摩耗症
attrition	咬耗症
erosion	酸蝕症
dentin hypersensitivity	象牙質知覚過敏
wedge shaped defect	くさび状欠損
spontaneous pain	自発痛
palpation	触診
percussion	打診
thermal test	温度診
transillumination test	透照診

< 歯内療法学 Endodontics >

A ランク

acute suppurative (serious) pulpitis	急性化膿性 (漿液性) 歯髄炎
pulpectomy	抜髄
necrosis	壊死
gangrene	壊疽
abscess	膿瘍
granuloma	肉芽
fistel	瘻孔
electric pulp test	歯髄電気診
thermal test	温度診
dull pain	鈍痛
sharp pain	鋭痛

< 歯周病学 Periodontology >

A ランク

gingivitis	歯肉炎
periodontitis	歯周炎
dental calculus, tartar	歯石
dental plaque	歯垢
periodontal tissue	歯周組織
gingiva	歯肉
gingival	歯肉 (の)
periodontal ligament	歯根膜、歯周靱帯
cementum	セメント質
alveolar bone	歯槽骨

B ランク

food impaction	食片圧入
plaque control record	PCR
bleeding on probing	BOP
mobility	動揺度
occlusal trauma	咬合性外傷
flap operation	FOP
guided tissue regeneration	GTR
supportive periodontal therapy	SPT
professional mechanical tooth cleaning	PMTTC

<総義歯学 Complete Denture Prosthodontics>

Aランク

prosthodontics	補綴学
prosthesis	補綴物
edentulous	無歯顎
ridge	顎堤
complete dentures	全部床義歯（総義歯）
immediate dentures	即時義歯
preliminary impressions	予備印象
border mold	筋形成（辺縁形成）
final impressions	最終印象

Bランク

record bases	基礎床
occlusal rim	咬合（蠟）堤
mount	模型付着
set up	人工歯排列
tooth arrangement	人工歯排列
phonetics	構音（発音）
postpalatal seal area	後堤域
esthetic	審美
denture processing	重合
face-bow record	フェイスボウ
placement, delivery, insertion	装着
occlusal equilibration	咬合調整

<部分床義歯学 Removable Partial Prosthodontics>

Aランク

abutment	支台歯 アバットメント
appointment	予約
articulator	咬合器
artificial teeth	人工歯
attrition	咬耗
bruxism	歯ぎしり
case	症例, 患者
occlusion	咬合
prosthesis	義歯, 補綴
mucosal	粘膜の
removable	可撤性の
mastication	咀嚼

B ランク

flange	義歯床縁部
esthetics	美容的効果, 審美性
masseter muscle	咬筋
Evidence-Based Medicine (EBM)	科学的根拠に基づく医療
bruxist	歯軋り常習者

C ランク

free-end saddle partial denture	遊離端義歯
Problem-Oriented System (POS)	問題解決志向システムの医療
Problem-Oriented Medical Record (POMR)	問題志向型診療録
SOAP:	
Subject	患者の主観的情報, 自覚症状
Objective	歯科医師, 歯科衛生士が得た情報, 他覚症状
Assessment	歯科医師, 歯科衛生士の判断による評価
Plan	医療チームスタッフによる今後の治療方針

<クラウン&ブリッジ補綴学 Crown Bridge Prosthodontics>

A ランク

diagnosis	診断 (法) ; 診断結果
occlusion	咬合
articulator	咬合器
prosthodontic treatment	補綴治療
intercuspal position	咬頭嵌合位

B ランク

biologic width	生物学的幅径(上皮性付着から結合性付着までの幅)
provisional restoration	暫間被覆冠
ferrule effect	帯環効果(フェルールによってもたらされる効果)
core buildup	支台築造
soldering	ろう付け

<小児歯科学 Pedodontics>

A ランク

growth	成長
development	発達
tooth eruption	歯の萌出
primary teeth	乳歯
milk dentition	乳歯列
permanent dentition	永久歯列
infant	乳児
parent	両親

infectious disease	感染症
prevention	予防
<u>B ランク</u>	
prevention of dental caries	齲蝕予防
hereditary disease	遺伝性疾患
amelogenesis imperfecta	エナメル質形成不全症

<矯正歯科学 Orthodontics>

A ランク

orthodontics	矯正
malocclusion	不正交合
occlusion	咬合
impaction	埋伏
rotation	捻転
root resorption	歯根吸収
incisor	切歯・前歯
canine	犬歯
premolar	小臼歯
molar	大臼歯
appliance	装置
anchorage	固定
band	バンド・帯環

B ランク

crowding	叢生
open bite	開咬
deep bite	過蓋咬合
cross bite	交叉咬合
bimaxillary protrusion	上下顎前突
cleft palate	口蓋裂
finger (thumb) sucking	指しゃぶり・拇指吸引癖
tongue thrusting	舌突出癖
Lip sucking	吸唇癖
Lip biting	咬唇癖
Myofunctional therapy	筋機能療法
Nail biting	咬爪癖
Tongue biting	咬舌癖

<障害者歯科学 Dentistry for the Disabled>

A ランク

swallowing	嚥下
swallowing disorder	嚥下障害
aspiration	誤嚥
normalization	ノーマライゼーション
quality of Life (QOL)	クオリティ・オブ・ライフ
syndrome	症候群

B ランク

congenital abnormality	先天奇形
cerebrovascular disease	脳血管疾患
aspiration Pneumonia	誤嚥性肺炎
epiglottitis	喉頭蓋
Bolus	食塊

<口腔外科学 Oral Surgery>

A ランク

surgery	外科
surgeon	外科医
cancer	癌
operation	手術
biopsy	生検
infiltration	浸潤
terminal care	ターミナルケア
fracture	骨折
tumor	腫瘍
lymph node	リンパ節
metastasis	転移
abscess	膿瘍
drainage	排膿
bleeding	出血
infection	感染
edema	浮腫
ulcer	潰瘍
erosion	びらん
patient	患者

B ランク

osteomyelitis	骨髓炎
pericoronitis	歯冠周囲炎

sinusitis	副鼻腔炎
chemotherapy	化学療法
radiotherapy	放射線療法
odontogenic	歯源性
neuralgia	神経痛

<麻酔学 Anesthesiology>

Aランク

anesthesia	麻酔
general anesthesia	全身麻酔
day care anesthesia	日帰り麻酔
local anesthesia	局所麻酔
psychosedation	精神鎮静法
analgesia	鎮痛
NSAID	解熱鎮痛薬
chain of survival	救急救命の連鎖（輪）
CPCR	心肺蘇生法
laughing gas	笑気
apnea	無呼吸

Bランク

difficult airway	気道確保困難
TIVA(total intravenous anesthesia)	全静脈麻酔
HVS (hyper ventilation syndrome)	過換気症候群

学生番号 _____ (院内番号) _____

氏 名 _____